

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	3年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい テキストを読んで内容を理解できる。アジアの多様性を持つ市場や都市を支えるIT産業に興味を持ち、都市経済の成長メカニズムを大まかに理解できる。	メッセージ 毎回、プリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。
	到達目標 アジア経済全体の成長構造や生産貿易などのビジネスネットワークの実際を理解できる。現実の先端産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの準備	到達目標 アジア経済全体の成長構造や生産貿易などのビジネスネットワークの実際を理解できる。現実の先端産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	参考文献①第一章読む
	2	(特) 中国に見るアジア大都市の成長メカニズムーイノベーション型成長の模索	参考文献①3章
	3	(特) 都市と産業立地ネットワークーデジタル化する先端産業	参考文献①5章
	4	(特) 都市力がアジアを牽引する(中国・ベトナム・シンガポール・インドの事例)	参考文献①7章
	5	(特) 工業化政策と経済発展ー電子・電機産業について	参考文献②2章
	6	(特) 東アジアにおける産業クラスター(自動車・スマホー半導体)	参考文献②5章
	7	(特) 国際的生産ネットワークー工程間分業が生み出す国際貿易パターン	参考文献②4章
	8	(特) インフラ整備が促すアジア都市経済の高度化	参考文献①4章
	9	(特) 経済格差と所得格差ー日本の役割	参考文献②3章
	10	(特) 人口移動と大都市圏の形成(中国・タイ・ベトナムの事例)	参考文献①二章
	11	(特) 東アジアの経験と成長研究	参考文献②一章
	12	(特) 経済発展の北東アジアモデルー韓国の事例	参考文献②八章
	13	(特) 東南アジア4か国の成長経路(タイ・インドネシア・マレーシア・フィリピン)	参考文献②九章
	14	(特) ベトナムの発展成果と限界ー低位中所得国の罍	参考文献②十章
	15	(対) 東アジアの経済統合	参考文献②十一章
16	期末テストもしくはレポート		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献① 後藤康浩(2018)『アジア都市の成長戦略』慶応義塾大学出版会、②三重野文晴 深川由紀子編著(2017)『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①テキストは特に使用しない。プリントを配布する。②期末テストが必須である。
-------	---

学びの実践	評価 期末テストと平常点で総合的に評価する。レポートあるいは期末テスト70点・平常点30点の割合で評価する。平常点は意欲・表現度・受講態度を確認する。詳細は初回講義時に説明する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「国際経済学」、「アジアビジネス事情」 次のステージ：授業で学んだと知識は現実のビジネス世界に活用できる。先端産業、アジアの都市経済の発展について、全般に知識を高められる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシーに基づきアジアにおけるビジネスや経済情報を学び実社会で活躍できる人材を育成する専門科目を提供する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアビジネス事情	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい テキストを読んで内容を理解できる。アジアを代表する情報通信系企業に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。県系IT企業の海外進出や県のアジア経済戦略を理解できる。	メッセージ 毎回、プリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。
	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの準備	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	県内企業のアジア圏取引の現状と課題について	プリント読み
	2	台湾香港の情報化と人材育成	テキスト① 1 3章
	3	シンガポールにおける経済およびIT政策&東南アジアの概況	テキスト① 1 2章& 1 0章
	4	沖縄の情報産業の展開&沖縄スマートハブの形成	テキスト② 2-3章
	5	沖縄先端医療のアジア展開&タイの医療ツーリズム	テキスト① 6章& テキスト② 2章
	6	ベトナムにおけるIT政策と人材育成	テキスト① 1 1章
	7	サンスムの二番手商法	プリント読み
	8	中国の暗転&中国のIT事情	プリント読み
	9	台湾IT企業の戦略（鴻海とSHARPの崩壊）	プリント読み
	10	華人ビジネスと沖縄（華人ネットワークの秘密 華人国家シンガポール）	参考書読み
	11	華人ビジネスと沖縄（華南経済圏&トライアングル経済圏の可能性）	テキスト② 2章& 参考書読み
	12	アジア各国の市場今後の見通し&沖縄発展の可能性	テキスト② 1章& プリント読み
	13	アジアビジネスの展開と今後の展望	テキスト② 2章& 6章
	14	国際旅客ハブ&沖縄リゾートウェディングの課題	テキスト① 4章& テキスト② 3章
	15	国際物流ハブ（食品産業連携の可能性）	テキスト② 2章
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト① 沖縄国際大学公開講座（2015）沖縄国際大学産業総合研究所『沖縄の観光・環境・情報産業の展開』泉文堂 テキスト② 富川盛武（2018）『アジアのダイナミズムと沖縄の発展』琉球新報社
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①テキストは各自で購入する②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。
-------	--

学びの実践	評価 レポート・期末テストと平常点で総合的に評価する。レポート&期末テスト70点・平常点30点の割合で評価する。平常点は意欲・表現度・授業態度を確認する。出席による加点・減点は行わない。詳細は初回講義時に説明する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「国際経済学」、「アジア経済論」 次のステージ：授業で学んだと知識は現実のビジネス世界に応用できる。ITビジネス、沖縄経済について、全般に知識を高められる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連し、社会人に必要なビジネスマナーやスキル等を学ぶ。 [ / ]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	その他	その他	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】** ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】** ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】** 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等） 20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連し、社会人に必要なビジネスマナーやスキル等を学ぶ。 [ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員1	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。          ②職業観を養い、自らの適性を見定める。          ③組織の構造と機能を理解する。          ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。          ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】** ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】** ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】** 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等） 20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）	教科書の理解・課題の提出
14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）	教科書の理解・課題の提出	
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：講義時に指定する 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>		
評価	評価は、平常点(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	メッセージ 本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 ・ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。 ・演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用 (1) Web素材作成	教科書の理解・課題の提出
	14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用 (2) アニメーション	教科書の理解・課題の提出
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 評価は、平常点 (25%) と課題 (75%) の合計の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	金 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともに、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義は、プログラミング概論およびプログラミング I を履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は情報システム開発に関する基礎技術であり、専門演習基礎の所属クラスに限らず、履修することを強くお勧めします。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	PHPの基礎①に関する予習
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）	講義課題演習／PHPの基礎②の予習
	3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）	講義課題演習
	4	演習：PHPの基礎	組込関数①の予習
	5	PHPの組込関数①（文字列・配列の操作）	講義課題演習／組込関数②の予習
	6	PHPの組込関数②（ファイルの操作、メール送信）	講義課題演習
	7	演習：PHPの組込関数	WebでのPHP①の予習
	8	WebでのPHP①（テキスト・ボタンの利用）	講義課題演習／WebでのPHP②の予習
	9	WebでのPHP②（認証、セッション、外部コマンド）	講義課題演習
	10	演習：WebでのPHP	PHPにおけるクラスの予習
	11	PHPにおけるクラス	講義課題演習／MySQLの基本①の予習
	12	MySQLの基本①（データの挿入、検索、更新、削除）	講義課題演習／MySQLの基本②の予習
	13	MySQLの基本②（テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除）	講義課題演習／DB利用①の予習
	14	PHPにおけるDB利用①（データベース接続とデータの検索）	講義課題演習／DB利用②の予習
15	PHPにおけるDB利用②（データの挿入・更新・削除）	講義課題演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 予習レポート(2割)と演習課題(3割)、試験(5割)の総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	火 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともに、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義は、プログラミング概論およびプログラミング I を履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は情報システム開発に関する基礎技術であり、専門演習基礎の所属クラスに限らず、履修することを強くお勧めします。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	PHPの基礎①に関する予習
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）	講義課題演習／PHPの基礎②の予習
	3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）	講義課題演習
	4	演習：PHPの基礎	組込関数①の予習
	5	PHPの組込関数①（文字列・配列の操作）	講義課題演習／組込関数②の予習
	6	PHPの組込関数②（ファイルの操作、メール送信）	講義課題演習
	7	演習：PHPの組込関数	WebでのPHP①の予習
	8	WebでのPHP①（テキスト・ボタンの利用）	講義課題演習／WebでのPHP②の予習
	9	WebでのPHP②（認証、セッション、外部コマンド）	講義課題演習
	10	演習：WebでのPHP	PHPにおけるクラスの予習
	11	PHPにおけるクラス	講義課題演習／MySQLの基本①の予習
	12	MySQLの基本①（データの挿入、検索、更新、削除）	講義課題演習／MySQLの基本②の予習
	13	MySQLの基本②（テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除）	講義課題演習／DB利用①の予習
	14	PHPにおけるDB利用①（データベース接続とデータの検索）	講義課題演習／DB利用②の予習
15	PHPにおけるDB利用②（データの挿入・更新・削除）	講義課題演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 予習レポート(2割)と演習課題(3割)、試験(5割)の総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--



※ポリシーとの関連性 情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる技能を養うため、ウェブマーケティングに関する知識を学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 ウェブマーケティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 安里 肇	前期	水 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい インターネットの登場によりこれまでの企業活動は新たな局面を迎え、ウェブテクノロジーによりパラダイムシフトを遂げた。本講義では、広告宣伝活動、電子商取引、顧客へのカスタマーサービス、市場調査などの事例を取り上げ、ウェブマーケティングの知識および技術を紹介していく。	メッセージ 近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされるウェブマーケティング技術の取得を目指す。積極的に講義に参加し、おもしろいアイデアを見つけ出すというようなモチベーションで望んで欲しい。
	到達目標 近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされるウェブ技術の知識取得を目指す。これからの社会はインターネットなしでは考えられないため、このような技術が未来をどのように変えていくのかを自ら考え、積極的に参画していく社会はどのように変容していくのかを想像できるようになって欲しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	ウェブサイトからのダウンロード
	2	マーケティングとは	用語の復習
	3	インターネット	技術用語の復習
	4	ユビキタスコンピューティング	技術用語の復習
	5	企業事例研究 1	課題レポート
	6	ウェブテクノロジーとビジネス	類似事例を自ら探す
	7	前半まとめ及び確認問題	全体の復習
	8	データマイニングとデータウェアハウス	技術用語の復習
	9	アクセスログ解析とクラウドコンピューティング	事例研究
	10	企業事例研究 2	課題レポート
	11	ウェブマーケティング	技術用語の復習
	12	ウェブマーケティングの事例紹介	事例研究および課題レポート
	13	SNS	技術用語の復習
	14	ウェブサイト構築関連技術	技術用語の復習
15	最終試験	問題確認と復習	
16	総括	次のステップへの準備	
	テキスト・参考文献・資料など ウェブサイトで講義時に使用する資料を配布（講義で使用する資料をPDF化し公開する）するため、初回の講義は必ず出席すること（初回講義無断欠席者は登録を取り消す）。参考文献は講義時に紹介する。		
	学びの手立て この講義で学んだウェブマーケティングの知識や技術を応用すれば、専門演習などの卒業論文等ですぐに利用することが可能である。また、卒業研究や社会に出てからインターネットをベースにしたマーケティング手法を利用したいと考える者は受講するのが望ましいと考える。インターネットを取り巻く環境は著しく変化し、これからは速いスピードで変容し続けるため、情報収集能力が必要となる。膨大かつ陳腐化が激しい情報を積極的に収集し、自ら考える能力を養うことが必要である。		
	評価 授業態度平常点80点、課題レポートおよび試験220点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営情報システム論（情報機器を用いた経営分析、意思決定支援システム、経営情報システムなどを体系的および実践的に学ぶ）や専門ゼミ等でこの講義で学んだ技術や知識が生かせると考える。これから、起業する者、就職して本格的なウェブサイト運営する者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エグゼクティブ・セミナー	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 哲	3年	st-uechi@hkg.odn.ne.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会の成り立ちと現状を理解し、県内外でビジネスを展開する経営者をゲストに招き話を聞くことで、自分自身の進路・就職・仕事、そして生き方を考える機会を提供する。	メッセージ 県内外で活躍する企業経営者やビジネスマンから直接体験を聞き、質問、議論することで、将来の進路や仕事、生き方に向き合ってもらいたい。
	到達目標 将来の生き方の方向性を設定できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス、産業社会の概論
	2	産業社会の成り立ち（歴史）と現在社会。沖縄の産業の実情。
	3	沖縄におけるICTの活用（NTT地域支援室）
	4	広告業界から見る沖縄の産業界
	5	地域特産品の全国展開
	6	沖縄の独自性を商品化
	7	eコマースのメリットとデメリット
	8	離島の優位性
	時間外学習の内容	
	9	世界に誇る沖縄のものづくり
	10	建築業界の現状
	11	アパレル業界でも沖縄らしさを
	12	伝統工芸の産業化
	13	空手のビジネス
	14	六次産業
	15	ウェルネス産業
16	テスト	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。その都度参考文献は紹介します。	
	学びの手立て 履修の心構え 無断欠席はしないこと。 居眠り、私語は退席してもらいます。	
	評価 評価点 受講態度平常点：30 レポート：40 テスト：30	

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後、気になったゲストで話した企業との関係を作ってもらいたい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる課題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅰ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業はマクロ経済学の知識と理論を用いて経済分析ができるようになることを目的とします。経済学の知識は景気の変化や安定化を考える上で役立つため公務員には必須の知識ですが、企業で働く際にも自社を取り巻く環境の変化を読み解くのに役立ちます。</p> <p>◆この授業の位置付けは経済原論Ⅱの発展であり、修得後は応用マクロ経済学Ⅱを履修することを前提としています。</p>	<p>◆経済原論Ⅱが未履修でも理解できるように基礎概念から順に説明するため、経済分野に興味のある人は積極的に受講してください。</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業はビデオ教材と提出課題による代替授業とし、質疑応答はSNSを用いて行います。</p>
到達目標	<p>①マクロ経済学に関する用語と理論を理解し、説明することができる（提出課題で評価）</p> <p>②授業で取り上げた事例に対して、マクロ経済学の観点から妥当な持論を述べるることができる（提出課題05、06、13で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 授業概要：応用マクロ経済学Ⅰ	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) これが「マクロ経済学」だ！	授業内容の復習をする
	3	(特) マクロ経済学の基礎概念1：マクロ経済学における数量、GDP、付加価値	課題01を仕上げて提出する
	4	(特) マクロ経済学の基礎概念2：フローとストック、名目と実質	課題02を仕上げて提出する
	5	(特) マクロ経済学の基礎概念3：物価指数、需要と供給、セイ法則と有効需要	課題03を仕上げて提出する
	6	(特) 討論1「日米のどちらが先にコロナ不況を克服できるか」立論	課題04を仕上げて提出する
	7	(特) 討論2「日米のどちらが先にコロナ不況を克服できるか」反論	課題05を仕上げて提出する
	8	(特) 財市場の均衡1：財市場の関係式、消費関数	課題06を仕上げて提出する
	9	(特) 財市場の均衡2：投資関数、政府支出	課題07を仕上げて提出する
	10	(特) 財市場の均衡3：受給均衡式、IS曲線の導出、利率と財市場の関係	課題08を仕上げて提出する
	11	(特) マクロ経済政策の課題（映像資料）	課題09を仕上げて提出する
	12	(特) 金融市場の均衡1：金融市場の構造、ワルラスの法則	課題10を仕上げて提出する
	13	(特) 金融市場の均衡2：債権と金利、貨幣需要の動機	課題11を仕上げて提出する
14	(特) 金融市場の均衡3：貨幣の区分、中央銀行の役割	課題12を仕上げて提出する	
15	(特) 金融市場の均衡4：信用創造のしくみ	課題13を仕上げて提出する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①飯田泰之、中里透『コンパクトマクロ経済学 第2版』新世社、2008年6月</p> <p>②井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2015年4月</p>		
学びの手立て	<p>◆この授業ではビデオ教材や配付資料による講義・指導を行い、その内容に関する課題の提出を課します。</p> <p>◆出欠は上記の提出課題（Webフォルダに提出）によって確認します。</p> <p>◆またマクロ経済に関するテーマに対して討論を行ってまいります。なお討論のテーマは最新の時事問題に差し替える場合があります。</p> <p>◆クラス全員の討論の通読、優れた討論の選出、その選出理由と得られた学びについての記述を求めます。</p>		
評価	<p>①課題63%（7%×9回）※課題01はボーナス課題</p> <p>②討論（提出課題05（11%）、06（11%）、13（15%））37%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経済原論Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅱ</p> <p>次のステージ：応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業はマクロ経済学の知識と理論を用いて経済分析ができるようになることを目的とします。経済学の知識は景気の変化や安定化を考える上で役立つため公務員には必須の知識ですが、企業で働く際にも自社を取り巻く環境の変化を読み解くのに役立ちます。</p> <p>◆この授業は応用マクロ経済学Ⅰの続編であり、双方の履修を前提に組み立てられています。</p>	<p>◆新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業は配付資料やパワーポイント等の視覚教材と提出課題を組み合わせた「特例授業」とし、質疑応答はSNSを用いたオフィスアワーで行います。</p>
	到達目標	
	①マクロ経済学に関する用語と理論を理解し、説明することができる（提出課題で評価）	
	②授業で取り上げた事例に対して、マクロ経済学の観点から妥当な持論を述べるることができる（提出課題の「論述1～4」で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/授業概要と受講ルール	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 金融市場の均衡 (復習)	課題01を仕上げ提出する
	3	(特) IS-LM分析	課題02を仕上げ提出する
	4	(特) マクロ経済学における失業	課題03を仕上げ提出する
	5	(特) 労働市場の需給分析 (AD-ASモデル)	課題04を仕上げ提出する
	6	(特) 労働市場の不均衡	課題05を仕上げ提出する
	7	(特) 論述1「リニア中央新幹線事業の是非」立論	課題06を仕上げ提出する
	8	(特) 論述2「リニア中央新幹線事業の是非」反論	課題07を仕上げ提出する
	9	(特) 失業率とインフレ率	課題08を仕上げ提出する
	10	(特) 名目賃金の硬直性	課題09を仕上げ提出する
	11	(特) 日本のマクロ経済(1)戦後復興から高度経済成長期	課題10を仕上げ提出する
	12	(特) 日本のマクロ経済(2)オイルショックからバブル経済期	課題11を仕上げ提出する
	13	(特) 日本のマクロ経済(3)バブル経済の崩壊とその後の低迷期	課題12を仕上げ提出する
14	(特) 論述3「東京オリンピック・パラリンピック開催の是非」立論	課題13を仕上げ提出する	
15	(特) 論述4「東京オリンピック・パラリンピック開催の是非」反論	課題14を仕上げ提出する	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①飯田泰之、中里透『コンパクトマクロ経済学 第2版』新世社、2008年6月</p> <p>②井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2015年4月</p>		
	学びの手立て		
	<p>◆特例授業の受講支援として大学が奨学金と貸出PCを提供しているため、個人のPCか貸出PCでの受講が前提です。スマートフォンやタブレットでの受講は禁じませんが、これらを使用した場合のトラブルに関する【救済措置はない】点に注意してください。</p> <p>◆出欠は確認しませんが、「欠席6回以上は単位を認定しない」という学部規定に則り、課題を6つ以上提出しなかった場合は単位を認定しません。</p> <p>◆提出課題では、マクロ経済をテーマとした論述も行ってもらいます。論述のテーマは最新の時事問題に差し替える場合があります。</p>		
	評価		
	①課題60% (6%×10回)		
	②論述40% (10%×4回)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：経済原論Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ</p> <p>次のステージ：経営情報ビジネス論Ⅰ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	2年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学は、限られた資源（土地、資本、労働力等）で財サービスを生産して、分配し、消費するという人間の経済行動について研究する。応用ミクロ経済学Iでは、売り手と買い手が市場価格を通じて意思決定を行うという市場メカニズムについて取り上げる。主に「家計の経済活動における意思決定」、「企業の経済活動における意思決定」を学習する。	メッセージ 家計や企業の経済活動について、経済学の基本概念を説明する。家計・企業の行動原理を理解することで、複雑そうに見える経済活動を理解できるようになる。
	到達目標 ①家計の経済行動を説明する無差別曲線、予算線、効用最大化の基本概念を理解する。 ②企業の経済活動を説明する生産関数、費用関数、利潤最大化の原理を理解する。 ③消費者行動、企業行動の事例をもとに、経済現象の理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	数学の復習
	2	家計の経済活動（効用と選好）	講義の復習
	3	無差別曲線	講義の復習
	4	予算の制約	講義の復習
	5	効用最大化	講義の復習
	6	価格と需要量の決定	講義の復習
	7	所得変化・価格変化の効果	講義の復習
	8	消費者余剰	講義の復習
	9	企業の生産活動	講義の復習
	10	生産関数	講義の復習
	11	費用曲線	講義の復習
	12	利潤最大化	講義の復習
	13	価格と算出量の決定	講義の復習
	14	供給変化の効果	講義の復習
	15	生産者余剰	講義の復習
	16	定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 ただし、ミクロ経済学の理論を理解するため、下記の参考書の入手（いずれか）を強く勧める。 ①西村和雄著 『ミクロ経済学入門 第2版』 岩波書店 ②伊藤元重 『ミクロ経済学 第3版』 日本評論社 ③N・グレゴリー・マンキュー著 足立英之・石川城太・小川英治・地主敏樹・中馬宏之・柳川隆訳 『マンキュー経済学I ミクロ編 第4版』 東洋経済新報社		
	学びの手立て		
	①ミクロ経済学（他の科目でも同じだと思います）は理論の積み重ねです。毎回必ず出席して、講義を理解するよう努力してください。（欠席した場合、その後の理解が非常に難しくなるかもしれません。その場合は、自分で前回の講義の復習して、わからない点等は質問するようにしてください。） ②講義では、数学を使いますので、基礎数学等の数学科目を履修している方が望ましいが、必須ではない。 ③選択科目の「経済原論I」、「経済原論II」、共通科目の「経済学I」、「経済学II」、で経済学の基本的な考え方を学んでください。 ④授業の説明で分かりにくい点、聞き逃した点、確認したい点等があれば、遠慮なく質問してください。 ⑤講義時間の死語・スマホ等の使用は許可した時以外、禁止とする。		
	評価		
	授業参加度及び課題レポート（30%）、定期試験（70%）で評価する。 評価は、大学の基準に従います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用ミクロ経済学II、応用マクロ経済学I・II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マイクロ経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	2年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 応用マイクロ経済学Iで習得した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習する。経済学の基本的な考え方を理解することで、複雑そうに見える市場の働きや経済活動についてさらに理解を深める。	メッセージ 家計・企業の経済行動を理解した上で、市場の働きについて経済学の基本的な考え方を説明する。
	到達目標 ①完全競争市場及び不完全競争市場について理解する。 ②「市場の失敗」について理解する。 ③ゲーム理論の基礎を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	応用マイクロ経済学Iの復習
	2	(特) 応用マイクロ経済学Iの復習	講義の復習
	3	(特) 完全競争市場とは	講義の復習
	4	(特) 完全競争市場における効率性	講義の復習
	5	(特) 不完全競争市場とは	講義の復習
	6	(特) 独占市場における企業の行動	講義の復習
	7	(特) 寡占市場について	講義の復習
	8	(特) クールノー均衡	講義の復習
	9	(特) シュタッケルベルグ均衡	講義の復習
	10	(特) 独占的競争市場について	講義の復習
	11	(特) 市場の失敗	講義の復習
	12	(特) 外部効果	講義の復習
	13	(特) 不完全情報	講義の復習
	14	(特) 公共財について	講義の復習
15	(特) ゲーム理論の基礎	講義の復習	
16	(特) 定期試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：テキストは特に指定しない。資料を配布する。 ただし、マイクロ経済学の理論を理解するにあたり、下記の参考書の入手（いずれか）を強く勧める。 ①西村和雄著 『マイクロ経済学入門 第2版』 岩波書店 ②伊藤元重著 『マイクロ経済学 第3版』 日本評論社 ③N・グレゴリー・マンキュー著 足立英之・石川城太・小川英治・地主敏樹・中馬宏之・柳川隆訳 『マンキュー経済学I ミクロ編 第4版』 東洋経済新報社		
	学びの手立て ※本講義は、全てオンラインで行う。ポータル及びTeamsで連絡するので、両方が確認できるように準備してください。（Teamsは後ほどチームを作る。） ①マイクロ経済学（他の科目でも同じだと思います）は理論の積み重ねです。毎回課題をこなし、内容を理解するよう努力してください。（わからない点等は質問するようにしてください。） ②講義は、応用マイクロ経済学Iを履修している前提で進める。 ③資料で分かりにくい点、確認したい点等があれば、遠慮なく質問してください。		
	評価 ①課題レポート（30%）、期末試験（70%）で評価する。 ②評価は、大学の基準に従います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用マクロ経済学I・II
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、  
解決力・創造力を養成します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一名 渡山 秋彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から今後の発展の可能性が注目される中、観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなどを中心とした地域振興策が進捗しており、非常に重要な位置づけとなっている。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人材の育成を目指します。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人材の育成をめざして、沖縄に在る日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄付講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション、イントロダクション	
	2	(特) 航空事業の現状について	WEB公開の授業資料にて学習。
	3	(特) 那覇空港の現状と課題について	WEB公開の授業資料にて学習。
	4	(特) 離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習。
	5	(特) 離島交通政策 (RACの取り組み)	WEB公開の授業資料にて学習。
	6	(特) 沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習。
	7	(特) 沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習。
	8	(特) 航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習。
	9	(特) 運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。
	10	(特) 航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習。
	11	(特) 整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。
	12	(特) 運賃施策、航空会社を支える IT (JTA運賃担当者、JTIC IT開発者)	WEB公開の授業資料にて学習。
	13	(特) 那覇空港見学 (航空事業の現状把握) ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習。
14	(特) 那覇空港見学 (航空事業の現状把握) ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習。	
15	(特) うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習。	
16	(特) 講義の総括及び期末試験の実施		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にする。</p> <p>日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ <a href="https://jta-okinawa.com/">https://jta-okinawa.com/</a>          琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ <a href="https://rac-okinawa.com/">https://rac-okinawa.com/</a>          その他、必要に応じて紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>①特例授業 (沖国大ポータルによる授業連絡、Teamsによる遠隔授業) で実施します。          ②講義で使用する授業資料等はWeb (沖国大ポータル) 及びTeamsで共有しますので、予習・復習に活用して下さい。</p>		
評価	<p>「評価方法・割合」          「期末試験35%、レポート65% (13回)」          ※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング
-------	---

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、  
解決力・創造力を養成します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	後期	金 4	2
	担当者 -名 渡山 秋彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から今後の発展の可能性が注目される中、観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなどを中心とした地域振興策が進捗しており、非常に重要な位置づけとなっている。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人材の育成を目指します。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性)</p> <p>2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性)</p> <p>3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人材の育成をめざして、沖縄に在する日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄付講座として実施するものです。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション、イントロダクション	
	2	(対) 航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習
	3	(対) 那覇空港の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習
	4	(対) 離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習
	5	(対) 離島交通政策	WEB公開の授業資料にて学習
	6	(対) 沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習
	7	(対) 沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習
	8	(対) 航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習
	9	(対) 運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	10	(対) 航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	11	(対) 整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	12	(対) 那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習
	13	(対) 那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習
	14	(対) 航空会社を支えるIT、運貨施策 (JTA運貨担当者、JTIC IT開発者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
15	(対) うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習	
16	(対) 期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にする。</p> <p>日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ <a href="https://jta-okinawa.com/">https://jta-okinawa.com/</a></p> <p>琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ <a href="https://rac-okinawa.com/">https://rac-okinawa.com/</a></p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①遅刻、早退、授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。</p> <p>②講義で使用する授業資料等はWeb(沖縄大ポータル)で共有しますので、予習・復習に活用して下さい。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>「評価方法・割合」</p> <p>「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5% (1回)」</p> <p>※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知りません。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われます。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩過程と各フェイズにおける企業サイドからのITへの期待の変容などを論理的に考察しながらより定性的な理解を目指します。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。 【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。</p>
到達目標	<p>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報の特質と価値	ガイダンスの理解
	2	情報技術の進化	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	通信ネットワーク技術の進化	配布資料の熟読
	4	セキュリティシステムと暗号化技術	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	インターネットと企業	配布資料の熟読
	6	ケーススタディー (1)：情報化の歴史	類似事例の検索
	7	情報の産業化：情報産業の発展	当該講義の復習/次回講義の予習
8	企業の情報化：企業における情報技術の活用	配布資料の熟読	
9	情報技術と競争優位の戦略①	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	情報技術と競争優位の戦略②	配布資料の熟読	
11	知的財産権と競争優位	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	ケーススタディー (2)：特許権と競争優位	類似事例の検索	
13	ケーススタディー (3)：著作権と競争優位	類似事例の検索	
14	デファクト・スタンダードと競争優位	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	ケーススタディー (4)：デファクト・スタンダード	類似事例の検索	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</p>		
評価	<p>成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいと思います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「企業情報論II」の受講を推奨します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅱ	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目しながら、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGMなどについても取り上げる。</p> <p>到達目標</p> <p>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。                  ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。                  ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。                  ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。                  【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>経営情報システムの進化</td><td>ガイダンスの理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>情報システムマネジメントの原理①</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>情報システムマネジメントの原理②</td><td>配布資料の熟読</td></tr> <tr><td>4</td><td>情報システムのマネジメントモデル</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>5</td><td>ITマネジメントとアウトソーシング</td><td>配布資料の熟読</td></tr> <tr><td>6</td><td>通信ネットワークを活用したアウトソーシング</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>7</td><td>ケーススタディ(1): アウトソーシング</td><td>類似事例の検索</td></tr> <tr><td>8</td><td>中小企業の情報システム</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>9</td><td>ECの現状</td><td>配布資料の熟読</td></tr> <tr><td>10</td><td>ケーススタディ(2): EC向けASP</td><td>類似事例の検索</td></tr> <tr><td>11</td><td>ECにおける法的課題</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>12</td><td>ビジネスモデル特許</td><td>配布資料の熟読</td></tr> <tr><td>13</td><td>遠隔地域における情報技術の戦略的活用</td><td>当該講義の復習/次回講義の予習</td></tr> <tr><td>14</td><td>ロジスティックシステムとSCM</td><td>配布資料の熟読</td></tr> <tr><td>15</td><td>ケーススタディ(3): 物流の情報化</td><td>類似事例の検索</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	経営情報システムの進化	ガイダンスの理解	2	情報システムマネジメントの原理①	当該講義の復習/次回講義の予習	3	情報システムマネジメントの原理②	配布資料の熟読	4	情報システムのマネジメントモデル	当該講義の復習/次回講義の予習	5	ITマネジメントとアウトソーシング	配布資料の熟読	6	通信ネットワークを活用したアウトソーシング	当該講義の復習/次回講義の予習	7	ケーススタディ(1): アウトソーシング	類似事例の検索	8	中小企業の情報システム	当該講義の復習/次回講義の予習	9	ECの現状	配布資料の熟読	10	ケーススタディ(2): EC向けASP	類似事例の検索	11	ECにおける法的課題	当該講義の復習/次回講義の予習	12	ビジネスモデル特許	配布資料の熟読	13	遠隔地域における情報技術の戦略的活用	当該講義の復習/次回講義の予習	14	ロジスティックシステムとSCM	配布資料の熟読	15	ケーススタディ(3): 物流の情報化	類似事例の検索	16	期末試験	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	経営情報システムの進化	ガイダンスの理解																																																	
	2	情報システムマネジメントの原理①	当該講義の復習/次回講義の予習																																																	
3	情報システムマネジメントの原理②	配布資料の熟読																																																		
4	情報システムのマネジメントモデル	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
5	ITマネジメントとアウトソーシング	配布資料の熟読																																																		
6	通信ネットワークを活用したアウトソーシング	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
7	ケーススタディ(1): アウトソーシング	類似事例の検索																																																		
8	中小企業の情報システム	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
9	ECの現状	配布資料の熟読																																																		
10	ケーススタディ(2): EC向けASP	類似事例の検索																																																		
11	ECにおける法的課題	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
12	ビジネスモデル特許	配布資料の熟読																																																		
13	遠隔地域における情報技術の戦略的活用	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
14	ロジスティックシステムとSCM	配布資料の熟読																																																		
15	ケーススタディ(3): 物流の情報化	類似事例の検索																																																		
16	期末試験																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。                  ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。                  ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。                  ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。                  また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいと思います。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」における卒業論文の作成に役立ててもらえればと考えます。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>ミニゲームの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	キャンパス相談室によるガイダンス	学生生活について調べる
	3	キャリア支援課によるガイダンス	就職について調べる
	4	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	教科書の理解・課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御	教科書の理解・課題の提出
8	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御	教科書の理解・課題の提出	
9	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐	教科書の理解・課題の提出	
10	シューティングゲームの作成 (1)	教科書の理解・課題の提出	
11	シューティングゲームの作成 (2)	教科書の理解・課題の提出	
12	シューティングゲームの作成 (3)	教科書の理解・課題の提出	
13	個人製作によるゲームの企画・開発 (1)	教科書の理解・課題の提出	
14	個人製作によるゲームの企画・開発 (2)	教科書の理解・課題の提出	
15	最終発表会 (1)	課題の提出	
16	最終発表会 (2) ・総括	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	講義時に指定する。 ・中植正剛、太田和志、鴨谷真知子「Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 ・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム ・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社		
学びの手立て	・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通告する。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。		
評価	平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習の後は、後期の基礎演習 II にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習 I、専門演習 II、卒業論文演習 I、卒業論文演習 II へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1 年	ohi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。</p>	<p>基本的に演習開始前にグループごとで30秒プレゼンテーションを行います。Scratchのアカウントを作成してもらうので積極的に作品を公開して欲しい。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>簡単なシステムの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	図書館ガイダンス	課題提出
	5	スクラッチの基本操作(1)スプライトの動き	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作(2)制御命令	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作(3)サウンド制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作(4)見た目の制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	スクラッチの基本操作(5)条件分岐	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	シューティングゲームの作成(1)基本システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	シューティングゲームの作成(2)総合システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	シューティングゲームの作成(3)システムの拡張	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	個人製作によるゲームの企画	ゲームの企画・開発
	14	個人製作によるゲームの開発	ゲームの企画・開発
15	最終発表会 (第1グループ)	発表準備・相互評価	
16	最終発表会 (第2グループ)	発表準備・相互評価	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石原正雄「スクラッチ2.0アイデアブック」カットシステム (2014)</li> <li>ミッチェル・レズニックほか「ライフロング・キンダーガーデン 創造的思考力を育む4つの原則」日経BP社 (2018)</li> <li>杉浦学ほか「Scratchではじめよう! プログラミング入門」日経BP社 (2015)</li> <li>中植正剛ほか「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 (2015)</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とします。</li> <li>実習を含む講義内容であるため、パソコン教室での講義となる。</li> <li>学籍番号毎にクラスが割り当てられているため、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めません。</li> <li>本演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要です。</li> </ul>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点（10%）、通常課題（40%）、最終課題（50%）に基づく総合評価とします。 さらに総得点の90%以上を「秀」、80%以上を「優」、70%以上を「良」、60%以上を「可」とします。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後、後期の「基礎演習Ⅱ」にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の「専門演習基礎」に臨むこととなります。またその後も必修科目となる「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文演習Ⅰ」、「卒業論文演習Ⅱ」へと関係するため、誠心誠意取り組んでもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1 年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。特に、プログラミングの基礎である逐次、分岐、反復について学ぶ。	メッセージ スクラッチのブロックプログラミングを通して論理力を身につけ、さらに簡単なJavaプログラムでコードプログラミングを通して、プログラミングを体感してほしい。
	到達目標 1. スクラッチによるプログラミングができる。 2. スクラッチによる簡単なシステムの企画・開発ができる。 3. 簡単なJavaプログラミングができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	スクラッチとは	ガイダンス
	2	イベントドリブン・プログラミングとフロドリブン・プログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	プログラムとアルゴリズム	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	スクラッチの基本操作（1）スプライトの動き	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	スクラッチの基本操作（2-1）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作（2-2）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作（2-3）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作（3）サウンド制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	ゲームの作成（1）システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	スクラッチの最終課題提出	課題提出
	11	Javaプログラミングについて（プログラム、コンパイル、実行）	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	制御命令（順次）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	制御命令（分岐）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	14	制御命令（反復）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
15	Javaの最終課題提出	課題提出	
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回、講義の内容の動画やPDF資料をGoogle Classroomにアップロードします。それが、テキストとなります。 参考文献 ・杉浦学, 阿部和広「Scratchではじめよう! プログラミング入門」日経BP社 (2015) ・中植正剛, 太田和志, 鴨谷真知子「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 (2015)			
学びの手立て ・Scratchは、ブラウザがあれば自宅です。Javaは、JDKをインストールすると自宅です。 ・演習科目のため出すべき課題の提出を怠らないこと。 ・パソコン教室や授業動画での実習形式の講義。 ・学生は、学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認められない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため注意が必要である。			
評価 課題の提出：100%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、専門演習 I、専門演習 II、卒業論文演習 I、卒業論文演習 II。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	メッセージ 基本的に演習開始前にグループごとで30秒プレゼンテーションを行います。 Scratchのアカウントを作成してもらうので積極的に作品を公開して欲しい。
	到達目標 1. 状態遷移図が作成・理解できる。 2. スクラッチによるプログラミングができる。 3. 簡単なシステムの企画・開発ができる。 4. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	キャンパス相談室によるガイダンス	学生生活について調べる
	3	キャリア支援課によるガイダンス	就職について調べる
	4	スクラッチの基本操作：コードの作成・編集方法	当該演習の復習／次回演習の予習
	5	スクラッチの基本操作：アニメーション、座標系の理解	当該演習の復習／次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作：乱数、スプライトの複製	当該演習の復習／次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作：メッセージ操作	当該演習の復習／次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作：ブロック定義	当該演習の復習／次回演習の予習
	9	スクラッチの基本操作：変数	当該演習の復習／次回演習の予習
	10	Scratch作品Remix・コミュニティの活用	当該演習の復習／次回演習の予習
	11	ゲーム制作：状態遷移図による設計	当該演習の復習／次回演習の予習
	12	ゲーム制作：三角関数による座標の制御	当該演習の復習／ゲームの企画
	13	個人製作によるゲームの企画	ゲームの企画・開発
	14	個人製作によるゲームの開発	ゲームの企画・開発
15	最終発表会（第1グループ）	発表準備・相互評価	
16	最終発表会（第2グループ）	発表準備・相互評価	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：杉浦学、阿部和広「Scratchではじめよう！プログラミング入門 Scratch 3.0版」日経BP社（2019） 参考文献 ・中植正剛、太田和志、鴨谷真知子「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第2版」日経BP社（2019） ・石原淳也、阿部和広「Scratchで楽しく学ぶ アート&サイエンス」日経BP（2018）		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通告する。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。		
	評価 評価は最終成果物の完成度(60%)、演習時の課題(30%)、学生相互評価(10%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと連続するため、誠心誠意に取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現代社会に関する問題発見力、情報収集力、分析力を養い、自己の見解を論理的にまとめ、プレゼンする能力を習得します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	1年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱの目的は、今後の学習の基本となる情報収集・分析力を養い、レポートの作成、プレゼンテーションの能力を高めることです。本講義では、現代社会における経済・産業等に関する統計情報の収集、統計データの基本的な分析、レポート・プレゼンの方法を学びます。	現代の社会は様々な問題に直面しています。各自で議論したい問題を見つけ、分析を行い、レポート提出・プレゼン報告を行います。これらは今後の学習の基礎となりますので、しっかり学んでください。
到達目標	①主にインターネットを用いて、政府統計やその他統計情報を収集し、分析できるようになる。 ②Wordによる文書作成、Excelによるデータ処理、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成ができるようになる。 ③レポート及びプレゼンによる報告を通じて、自らの見解を論理的に話す力をつける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)イントロダクション	講義内容の確認
	2	(対)グローバル教育支援センターによるガイダンス（変更の可能性あり）	留学について調べる
	3	(対)図書館ガイダンス（変更の可能性あり）	図書館を利用する
	4	(対)インターネットを通じた情報収集（GDP）	基本概念及び作図の復習
	5	(対)インターネットを通じた情報収集（人口）	基本概念及び作図の復習
	6	(対)インターネットを通じた情報収集（労働）	基本概念及び作図の復習
	7	(対)インターネットを通じた情報収集（社会保障）	基本概念及び作図の復習
	8	(対)インターネットを通じた情報収集（物価）	基本概念及び作図の復習
	9	(対)インターネットを通じた情報収集（金融）	基本概念及び作図の復習
	10	(対)インターネットを通じた情報収集（ビックデータ）	基本概念及び作図の復習
	11	(対)レポート作成の基礎	参考資料を読み、基本事項の確認
	12	(対)Wordによるレポート作成	レポートの執筆
	13	(対)PowerPointによるプレゼン資料の作成	プレゼン資料の作成
14	(対)プレゼンテーション①	資料の作成と報告	
15	(対)プレゼンテーション②	資料の作成と報告	
16	(対)プレゼンテーション③と総括	資料の作成と報告	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	①テキストは特に指定しません。各自でWord・Excel・PowerPointに関する参考文献を揃えることを勧めます。 ②適宜資料を配布します。 ③下記の参考文献は、レポート作成に役立ちます。 ・『大学生のためのレポート・論文術』、小笠原喜康著、講談社現代新書 ・『経済論文の作法 [第3版]』、小浜裕久・木村 福成著、日本評論社		
	学びの手立て		
	※本講義は、対面授業の形式です。授業では、ポータル及びTeamsを使って連絡することがあるので、両方が確認できるように準備してください。（Teamsは後ほどチームを作ります。）ただし、オンライン授業に変更する時は、事前に連絡します。 ①クラス分けがありますので、指定されたクラスで受講してください。 ②演習中の私語、演習に関係のないHPの閲覧、スマホなどの使用は禁止とします。 ③わからない場合や途中で説明に追いつけない場合等には、積極的に質問してください。		
	評価		
	①授業参加度+課題の提出（20%）、レポート提出（40%）、プレゼンテーション（40%）で総合的に評価します。 ②評価基準は大学の基準（秀：100-90点、優：89-80点、良：79-70点、可：69-60点、不可：59点以下）に従います。 ③評価方法を変更する場合は、事前に連絡します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (上位科目) ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ、専門演習基礎、演習Ⅰ・Ⅱ等
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業はExcelを用いたデータ分析の方法を学び、既存の統計データや自ら収集したデータの分析が行えるようになることを目的とします。</p> <p>◆授業のねらいは専門演習基礎、専門演習、卒業論文演習において不可欠となる分析手法を修得することにあります。</p>	<p>◆Excelを用いたデータ分析の方法は多様ですが、その中から基本的な経済指標を分析するための方法を選定し、分析や図式化ができるようになることを目指します。</p>
到達目標	<p>①経済分析に必要なとなる基礎的な用語を理解し、説明することができる（最終課題で評価）</p> <p>②基礎的な分析手法を用いて統計データの分析と図式化を行うことができる（提出課題で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	(対) 受講ガイダンス	ガイダンスの内容を再確認する
2	(対) グローバル教育支援センターによる留学ガイダンス（動画）	留学に関する情報収集を行う	
3	(対) 図書館による利用ガイダンス	図書館の活用方法を学ぶ	
4	(対) Wordの復習：文書作成	課題01を仕上げ提出する	
5	(対) 時系列データの分析	課題02を仕上げ提出する	
6	(対) 年平均成長率の算出	課題03を仕上げ提出する	
7	(対) 横断面データの分析	課題04を仕上げ提出する	
8	(対) 度数分布表を用いたヒストグラムの作成	課題05を仕上げ提出する	
9	(対) 集中と分散の算出	課題06を仕上げ提出する	
10	(対) 相関分析	課題07を仕上げ提出する	
11	(対) 要因分解	課題08を仕上げ提出する	
12	(対) 年平均成長率・寄与度・寄与率によるGDPの分析	課題09を仕上げ提出する	
13	(対) 回帰分析の概念と分析方法	授業内容の復習をする	
14	(対) 単回帰方程式と重回帰方程式の算出	課題10を仕上げ提出する	
15	(特) 全体の振り返りと最終課題	最終課題を仕上げ提出する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。</p>		
学びの手立て	<p>◆感染症防止の観点から、クラスの半数を対面授業、残りを特例授業（配付資料と提出課題による授業）とし、毎週入れ替えて行います。</p> <p>◆そのため、出席は【提出課題で確認】するため、提出を6つ以上怠ると単位認定が得られなくなる点に注意してください。</p>		
評価	<p>①課題90%（9%×10回）</p> <p>②最終課題10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：産業情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：専門演習基礎</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性 経済の問題発見力・分析力を養うための基礎的な実習科目を提供します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1年	メール(maemura@okiu.ac.jp), または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①インターネットを通じた経済情報の収集を学習 ②沖縄県経済、日本経済のデータを用いた経済データの分析を学習 ③レポート作成の基本を習得する ④レポートのプレゼンテーションについて学ぶ	経済データの収集・分析、レポート作成、プレゼンテーションなど基本を学習し、今後に生かしてください。
到達目標	今後、レポート作成や卒業論文の作成などに取り組むことになります。経済データの収集・分析とレポート作成、プレゼンテーションの基本を習得します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 基礎演習Ⅱの基本事項説明	基本事項の復習
	2	(対) インターネットを通じた経済情報の収集①	経済サイトでの情報収集
	3	(対) インターネットを通じた経済情報の収集②	経済サイトでの情報収集
	4	(対) 経済データの分析① (増加率、構成比など)	演習の復習・課題を行う
	5	(対) 経済データの分析② (増加率、構成比など)	演習の復習・課題を行う
	6	(対) 経済データの分析③ (寄与率、寄与度など)	演習の復習・課題を行う
	7	(対) 経済データの分析④ (寄与率、寄与度など)	演習の復習・課題を行う
	8	(対) 経済データの分析⑤ (変動係数など)	演習の復習・課題を行う
	9	(対) 経済データの分析⑥ (記述統計など)	演習の復習・課題を行う
	10	(対) レポート作成の基本事項	レポート作成基本事項の復習
	11	(対) レポート作成①	レポートの作成
	12	(対) レポート作成②	レポートの作成
	13	(対) プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの復習
14	(対) レポート報告とディスカッション①	レポートの報告準備	
15	(対) レポート報告とディスカッション②	レポートの報告準備	
16	(対) 基礎演習Ⅱの総括	総括の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは使用しません。毎回、データファイル、資料を配布して演習を進めます。 参考文献は以下の通りです。 ①『大学生のためのレポート論術』小笠原喜康、講談社 ②『経済論文の作法』小浜裕久・木村福成、日本評論社</p>		
	学びの手立て		
	<p>①毎回の演習には遅刻、欠席しないよう出席してください。 ②欠席する場合は「欠席届け」を提出してください。 ③演習中に、スマートフォンを使用したり、授業と関係のないHPを閲覧などは禁止します。 ④毎回の課題をきちんと取り組み提出してください。</p>		
	評価		
	授業参加度40%、課題の提出状況50%、プレゼンテーション10%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>演習科目：「専門演習基礎」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ」 講義科目：「経済原論Ⅰ・Ⅱ」「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」 「データ解析論Ⅰ・Ⅱ」「産業連関論」「ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ」</p>

※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業はExcelを用いたデータ分析の方法を学び、既存の統計データや自ら収集したデータの分析が行えるようになることを目的とします。</p> <p>◆授業のねらいは専門演習基礎、専門演習、卒業論文演習において不可欠となる分析手法を修得することにあります。</p>	<p>◆Excelを用いたデータ分析の方法は多様ですが、その中から基本的な経済指標を分析するための方法を選定し、分析や図式化ができるようになることを目指します。</p>
到達目標	<p>①経済分析に必要なとなる基礎的な用語を理解し、説明することができる（最終課題で評価）</p> <p>②基礎的な分析手法を用いて統計データの分析と図式化を行うことができる（提出課題で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 受講ガイダンス	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(対) グローバル教育支援センターによる留学ガイダンス（動画）	留学に関する情報収集を行う
	3	(対) 図書館による利用ガイダンス	図書館の活用方法を学ぶ
	4	(対) Wordの復習：文書作成	課題01を仕上げ提出する
	5	(対) 時系列データの分析	課題02を仕上げ提出する
	6	(対) 年平均成長率の算出	課題03を仕上げ提出する
	7	(対) 横断面データの分析	課題04を仕上げ提出する
8	(対) 度数分布表を用いたヒストグラムの作成	課題05を仕上げ提出する	
9	(対) 集中と分散の算出	課題06を仕上げ提出する	
10	(対) 相関分析	課題07を仕上げ提出する	
11	(対) 要因分解	課題08を仕上げ提出する	
12	(対) 年平均成長率・寄与度・寄与率によるGDPの分析	課題09を仕上げ提出する	
13	(対) 回帰分析の概念と分析方法	授業内容の復習をする	
14	(対) 単回帰方程式と重回帰方程式の算出	課題10を仕上げ提出する	
15	(特) 全体の振り返りと最終課題	最終課題を仕上げ提出する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。		
学びの手立て	<p>◆感染症防止の観点から、クラスの半数を対面授業、残りを特例授業（配付資料と提出課題による授業）とし、毎週入れ替えて行います。</p> <p>◆そのため、出席は【提出課題で確認】するため、提出を6つ以上怠ると単位認定が得られなくなる点に注意してください。</p>		
評価	<p>①課題90%（9%×10回）</p> <p>②最終課題10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：産業情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：専門演習基礎</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現代社会に関する問題発見力、情報収集力、分析力を養い、自己の見解を論理的にまとめて、プレゼンする能力を習得します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	1年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱの目的は、今後の学習の基本となる情報収集・分析力を養い、レポートの作成、プレゼンテーションの能力を高めることです。本講義では、現代社会における経済・産業等に関する統計情報の収集、統計データの基本的な分析、レポート・プレゼンの方法を学びます。	現代の社会は様々な問題に直面しています。各自で議論したい問題を見つけ、簡単な分析を行い、レポート提出・プレゼン報告を行います。これらは今後の学習の基礎となりますので、しっかり学んでください。
到達目標	①主にインターネットを用いて、政府統計やその他統計情報を収集し、分析できるようになる。 ②Wordによる文書作成、Excelによるデータ処理、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成ができるようになる。 ③レポート及びプレゼンによる報告を通じて、自らの見解を論理的に話す力をつける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) イントロダクション	講義内容の確認
	2	(対) グローバル教育支援センターによるガイダンス (変更の可能性あり)	留学について調べる
	3	(対) 図書館ガイダンス (変更の可能性あり)	図書館を利用する
	4	(対) インターネットを通じた情報収集 (GDP)	基本概念及び作図の復習
	5	(対) インターネットを通じた情報収集 (人口)	基本概念及び作図の復習
	6	(対) インターネットを通じた情報収集 (労働)	基本概念及び作図の復習
	7	(対) インターネットを通じた情報収集 (社会保障)	基本概念及び作図の復習
8	(対) インターネットを通じた情報収集 (物価)	基本概念及び作図の復習	
9	(対) インターネットを通じた情報収集 (金融)	基本概念及び作図の復習	
10	(対) インターネットを通じた情報収集 (ビックデータ)	基本概念及び作図の復習	
11	(対) レポート作成の基礎	参考資料を読み、基本事項の確認	
12	(対) Wordによるレポート作成	レポートの執筆	
13	(対) PowerPointによるプレゼン資料の作成	プレゼン資料の作成	
14	(対) プレゼンテーション①	資料の作成と報告	
15	(対) プレゼンテーション②	資料の作成と報告	
16	(対) プレゼンテーション③と総括	資料の作成と報告	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	①テキストは特に指定しません。各自でWord・Excel・PowerPointに関する参考文献を揃えることを勧めます。 ②適宜資料を配布します。 ③下記の参考文献は、レポート作成に役立ちます。 ・『大学生のためのレポート・論文術』、小笠原喜康著、講談社現代新書 ・『経済論文の作法 [第3版]』、小浜裕久・木村 福成著、日本評論社		
	学びの手立て		
	※本講義は、対面授業の形式です。授業では、ポータル及びTeamsを使って連絡することがあるので、両方が確認できるように準備してください。(Teamsは後ほどチームを作ります。)ただし、オンライン授業に変更する時は、事前に連絡します。 ①クラス分けがありますので、指定されたクラスで受講してください。 ②演習中の私語、演習に関係のないHPの閲覧、スマホなどの使用は禁止とします。 ③わからない場合や途中で説明に追いつけない場合等には、積極的に質問してください。		
	評価		
	①授業参加度+課題の提出 (20%)、レポート提出 (40%)、プレゼンテーション (40%) で総合的に評価します。 ②評価基準は大学の基準 (秀: 100-90点、優: 89-80点、良: 79-70点、可: 69-60点、不可: 59点以下) に従います。 ③評価方法を変更する場合は、事前に連絡します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (上位科目) ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ、専門演習基礎、演習Ⅰ・Ⅱ等
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	1年	産業情報学科 平良直之 Email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ(情報)を作り出すことを情報処理という。本講義では情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。</p> <p>到達目標 専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。</p>	<p>本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(特) 講義ガイダンス/式と計算(i)</td><td>シラバスの確認及び次回講義の予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>(対) 式と計算(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>(特) 関数(i)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>4</td><td>(対) 関数(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>5</td><td>(特) 平面図形と式(i)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>6</td><td>(対) 平面図形と式(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>7</td><td>(特) 方程式と不等式(i)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>8</td><td>(対) 方程式と不等式(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>9</td><td>(特) 方程式と不等式(iii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>10</td><td>(対) 方程式と不等式(iv)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>11</td><td>(特) 順列と組合せ(i)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>12</td><td>(対) 順列と組合せ(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>13</td><td>(特) 確率(i)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>14</td><td>(対) 確率(ii)</td><td>講義の復習および次回講義の予習</td></tr> <tr><td>15</td><td>(特) 確率(iii)</td><td>講義の復習</td></tr> <tr><td>16</td><td>試験・総括</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	(特) 講義ガイダンス/式と計算(i)	シラバスの確認及び次回講義の予習	2	(対) 式と計算(ii)	講義の復習および次回講義の予習	3	(特) 関数(i)	講義の復習および次回講義の予習	4	(対) 関数(ii)	講義の復習および次回講義の予習	5	(特) 平面図形と式(i)	講義の復習および次回講義の予習	6	(対) 平面図形と式(ii)	講義の復習および次回講義の予習	7	(特) 方程式と不等式(i)	講義の復習および次回講義の予習	8	(対) 方程式と不等式(ii)	講義の復習および次回講義の予習	9	(特) 方程式と不等式(iii)	講義の復習および次回講義の予習	10	(対) 方程式と不等式(iv)	講義の復習および次回講義の予習	11	(特) 順列と組合せ(i)	講義の復習および次回講義の予習	12	(対) 順列と組合せ(ii)	講義の復習および次回講義の予習	13	(特) 確率(i)	講義の復習および次回講義の予習	14	(対) 確率(ii)	講義の復習および次回講義の予習	15	(特) 確率(iii)	講義の復習	16	試験・総括	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	(特) 講義ガイダンス/式と計算(i)	シラバスの確認及び次回講義の予習																																																	
	2	(対) 式と計算(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																	
3	(特) 関数(i)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
4	(対) 関数(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
5	(特) 平面図形と式(i)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
6	(対) 平面図形と式(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
7	(特) 方程式と不等式(i)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
8	(対) 方程式と不等式(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
9	(特) 方程式と不等式(iii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
10	(対) 方程式と不等式(iv)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
11	(特) 順列と組合せ(i)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
12	(対) 順列と組合せ(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
13	(特) 確率(i)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
14	(対) 確率(ii)	講義の復習および次回講義の予習																																																		
15	(特) 確率(iii)	講義の復習																																																		
16	試験・総括																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト: 石原光「入門情報処理数学」実教出版</p> <p>参考資料: ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 テキストを予習していることを前提に講義を進めるので、必ずテキストを購入すること。 適宜演習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>試験結果(80%)，課題レポート(20%)により評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「情報数学」および「経済数学」がある。また、情報処理に関連する講義科目が関連科目となる。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性 経済に関する問題発見力・分析力を養うための専門科目を提供します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融経済論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	メール(ikemiyagi@okiu.ac.jp), または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 普段の生活の何処のことを常にイメージする。「貯める」、「借りる」から金融を考える。経済学を使って金融を考える。	メッセージ 金融は「貯める・借りる」に関わる世の中の仕組みのことです。「仕事・生活の選択に活かせる」、金融論の考え方を身につけて下さい。
	到達目標 金融政策について理解し、自分の言葉で説明できる。 金融システムについて理解し、自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読む
	2	貨幣と決済	貨幣の機能と定義を復習
	3	金利と金融市場①	金利の重要概念を復習
	4	金利と金融市場②	金利と債券価格を復習
	5	金融政策とマクロ経済モデル①	IS-LMモデルを復習
	6	金融政策とマクロ経済モデル②	金融政策の有効性を復習
	7	日本銀行の金融政策	金融政策の実際を復習
	8	非伝統的金融政策	非伝統的金融政策を復習
	9	学習内容の復習：確認テスト1	テスト結果を復習する
	10	金融システムの機能と銀行①	金融システムの機能を復習
	11	金融システムの機能と銀行②	信用創造と銀行の役割を復習
	12	銀行以外の金融機関	諸金融機関を復習
	13	金融システムの安定化政策	プルーデンス政策を復習
	14	金融機関の破綻と対応策	事後的政策手段を復習
	15	学習内容の復習：確認テスト2	テスト結果を復習する
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。資料を配布して解説する。 参考文献 [1]家森信善『金融論』中央経済社、2016年。 [2]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [3]内田浩史『金融』有斐閣、2016年。		
	学びの手立て 1. 履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。配布資料の内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞くこと。 2. 学びを深めるために：教材プリントと講義ノート(板書)を講義外の時間に復習すること。板書では、教材プリント内容の学び方を説明する。 3. 受講生の達成度を測るために確認テストを2回行う。テスト結果を受講生に報告、解説する。		
	評価 期末テスト50%：到達目標の達成度を測る。 確認テスト・課題30%：経済学を使って金融政策・金融システムを説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済論が、「貯める・借りる」仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えておいてほしい。 関連科目として、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 「産業社会における情報化や国際化の進展」に対応できる英語力とコミュニケーション力を身につけることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 グローバルオフィスコミュニケーション	期別	曜日・時限	単位
	担当者 上原 千登勢	前期	水 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい コミュニケーション力を重視しながら様々なビジネスシーンやシチュエーションに対応できる英語力を身につけることをねらいとする。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。	メッセージ 【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、ビジネスに関連した実践的な英語を伝授し、学生が現場で使えるように指導します。必要に応じて“ENGLISH ONLY”の時間帯を設けるのでできる限り英語だけで意思の疎通を試みてください！きっと自信と英語でコミュニケーションをとる楽しさが実感できると思います！
	到達目標 ・ビジネス・オフィスを想定したシチュエーションで、英語でコミュニケーションが取れる。 ・英語を使わなければならない場面で自分なりに考え、行動できる。 ・英語で意思の疎通を図るために必要な学習方法や手段が身につく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション&ガイダンス 「IT・デジタルワーカーのための英会話」 Lesson 1	Lesson 1 復習, Lesson 2-3予習
	2	Lesson 2-3	Lesson 2-3復習, Lesson 4-5予習
	3	Lesson 4-5	Lesson 4-5復習, Lesson 6-7予習
	4	Lesson 6-7	Lesson 6-7復習, Lesson 8-9予習
	5	Lesson 8-9	Lesson 8-9復習, Lesson 10-11予習
	6	Lesson 10-11	Lesson 1-11復習、テスト準備
	7	Review Test: Lesson 1-11&課題	Lesson 12-13予習
	8	Lesson 12-13	Lesson12-13復習, Lesson 14-15予習
	9	Lesson 14-15	Lesson14-15復習, Lesson 16-17予習
	10	Lesson 16-17	Lesson16-17復習, Lesson 18-19予習
	11	Lesson 18-19	Lesson18-19復習, Lesson 20-21予習
	12	Lesson 20-21	Lesson 20-21復習, Lesson 22予習
	13	Lesson 22	Lesson 12-22復習、テスト準備
	14	Review Test: 12-22	TOEICについて調べる
	15	TOEIC入門	ファイナルプレゼン準備
	16	ファイナルプレゼンテーション	
	テキスト・参考文献・資料など		
	「IT・デジタルワーカーのための英会話」(ベレ出版) *朝野書房では購入できません。アマゾンなどで購入すること。Kindleなどの電子書籍も可。  その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。		
	学びの手立て		
	【重要】受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。 ・授業に出席することは大前提である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻を1回の欠席とみなす。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。 ・ほぼ毎回前回の授業内容のクイズを行い、学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。学習目安は週2-3時間以上が望ましい。		
	評価		
	①授業態度、授業への参加・積極性(25%) ②課題(25%) ③Review Test & クイズ(25%) ④ Final Presentation(25%)を総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目  実践的な英語力を身につけるため英語VやVIの英検や英語VIIのTOEICの授業を受け、資格試験にもチャレンジしてほしい。また異文化理解を深めたいなら、国際理解課題研究I、IIなども積極的に受講してほしい。海外留学やのインターンシップなどにチャレンジし、積極的に英語でコミュニケーションを取る環境に身を置くことで更にスキルアップできだろう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 「産業社会における情報化や国際化の進展」に伴い、グローバルな視点で物事を考え、意見や情報を発信できることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 グローバルメディアスタディーズ	期別	曜日・時限	単位
		後期	水 2	2
	担当者 上原 千登勢	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	c.uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい メディアを通して世界を知り、日本（沖縄）がどう世界から捉えられているかを知ることを目指す。また英語を用いて情報収集や情報発信を行う。	メッセージ 【実務経験】海外生活14年、外資・グローバル企業で英語講師として勤務した経験を活かし、テレビやネットなどのメディアを通して海外と日本（沖縄）を比較・分析していきます。楽しみながら世界のこと、日本のこと、そして沖縄のことをもっと知りましょう！See you in class!
	到達目標 ・英語を使用し、国内外の情報を収集できる。 ・海外の情報を分析し、自分なりの見解を述べられる。 ・英語を使い日本・沖縄の情報を海外に発信できる。 ・授業と各自でトータル100本の映像を観ることを目指す。Viewing Logに記録すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance 9/30 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	2	Education & Schools ① 10/7 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	3	Education & Schools ② 10/14 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	4	Law & Order ① 10/21 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	5	Law & Order ② 10/28 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	6	Food ① 11/4 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	7	Food ② 11/11 (特例授業)	Viewing Log 提出準備 (1)
	8	Entertainment ① 11/18 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	9	Entertainment ② 11/25 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	10	Entertainment ③ 12/2 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	11	Travel : World ① 12/9 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	12	Travel : Japan ② 12/16 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	13	Travel : Okinawa ① 1/6 (特例授業)	観た映像をViewing Logに記録する
	14	Travel : Okinawa ② 1/13 (特例授業)	Viewing Log 提出準備 (2)
	15	プレゼンテーション練習 1/20 (特例授業)	発表準備
16	ファイナルプレゼンテーション 1/27 (対面授業)		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、ビデオ、DVD、YouTubeなどを多く使用する。また自身で情報収集、クラスメートと情報共有を積極的に行って欲しい。Viewing Logは必須なので、自身で日々記録をつけること。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。 ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・グループワークが多いので授業以外でも定期的集まれるような環境作りをし、メンバー同士で積極的にコミュニケーションを取ること。欠席した場合、授業内容を教えてもらい、授業について行けるように努めること。 ・国内外の時事ニュース、文化、流行などに関心を持ち、興味を持ったことは自ら調べ、見解を述べられるようにする。
-------	--

学びの実践	評価 ①授業態度、グループワーク・ディスカッションなどへの参加・積極性（25%）②リアクションペーパー&リフレクション（振り返り）（25%）③Viewing Log（25%）④Final Presentation（25%）を総合的に判断して評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 日頃から海外の情報を積極的に取り入れ、より広い視野を持ち、グローバルなものの見方ができるようにして欲しい。更に「国際理解課題研究I、II」も受講し、よりクリティカルに、グローバルに様々なトピックについて考えることができれば貴重な人材になれるだろう。英語力を高めるためには「ビジネス英語」、「グローバルオフィスコミュニケーション」の受講を勧める。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営科学	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 Email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業経営における最適戦略を模索する上で様々な科学的アプローチが提案されている。これらは第二次世界大戦中の軍事目的の取り組みが発端だと言われており、複雑化・多様化した現代社会においては合理的な判断は必須となっている。本講義では、経営に関する科学的アプローチについて紹介し議論する。	メッセージ 具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。
	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチを理解する。	

学びの準備	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチを理解する。
-------	-----------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義ガイダンス/在庫管理(i)	シラバスの確認及び次回講義の予習
	2	(対) 在庫管理(ii)	復習課題および次回講義の予習
	3	(特) 在庫管理(iii)	復習課題および次回講義の予習
	4	(対) 在庫管理(iv)	復習課題および次回講義の予習
	5	(特) 日程計画とPERT(i)	復習課題および次回講義の予習
	6	(対) 日程計画とPERT(ii)	復習課題および次回講義の予習
	7	(特) 日程計画とPERT(iii)	復習課題および次回講義の予習
	8	(対) 日程計画とPERT(iv)	復習課題および次回講義の予習
	9	(特) 在庫管理(i)	復習課題および次回講義の予習
	10	(対) 在庫管理(ii)	復習課題および次回講義の予習
	11	(特) 在庫管理(iii)	復習課題および次回講義の予習
	12	(対) 在庫管理(iv)	復習課題および次回講義の予習
	13	(特) 安定結婚問題	復習課題および次回講義の予習
	14	(対) 安定結婚問題	復習課題および次回講義の予習
	15	(特) 安定結婚問題	講義範囲の復習
16	試験・総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 松井・根本・宇野「入門オペレーションズ・リサーチ」東海大学出版会  参考資料: ・福田, 児玉, 中道「OR入門」多賀出版
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」 テキストを予習していることを前提に講義を進めるので、必ずテキストを購入すること。 適宜演習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	---

学びの実践	評価 試験結果(80%), レポート(20%)により評価する。
-------	------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「知的情報処理」がある。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報システム論	後期	火2	2
	担当者 安里 肇	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムの効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論する。</p>	<p>近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされる経営情報システムの仕組みを理解する。ウェブ会議システムを使ったオンラインでの授業も行うのでパソコンを保持してないと受講は難しい。初回講義(オンライン)は必ず出席すること(無断欠席の場合は登録を取り消す)。</p>
到達目標	<p>これからの社会はコンピュータ機器の利用およびインターネットなしでは考えられないため、このような技術が未来をどのように変えていくのかを自ら考え、積極的に参画していく社会はどのように変容していくのかを想像することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義ガイダンス ー情報システムとはー	講義資料ダウンロードの確認
	2	(対) IT企業の戦略1 事例研究	事例の考察
	3	(特) 経営情報システム	当該講義の復習
	4	(対) 戦略的情報システム	当該講義の復習
	5	(特) 意思決定と情報システム	当該講義の復習
	6	(対) 前半まとめ及び確認問題	問題確認と復習
	7	(特) eビジネスモデル	当該講義の復習
8	(対) IT企業の戦略2 事例研究	事例の考察	
9	(特) 意思決定活動と応用ソフトウェア	当該講義の復習	
10	(対) ERP	当該講義の復習	
11	(特) コンピュータの歴史とハードウェア	当該講義の復習	
12	(対) IT企業の戦略3 事例研究	事例の考察	
13	(特) ソフトウェアとエンドユーザーコンピューティング	当該講義の復習	
14	(対) IT企業の戦略4 後半まとめ及び確認問題	問題確認と復習	
15	(特) 総括 講義まとめ	講義全体の復習	
16	(対) 試験	次のステップへの準備	
テキスト・参考文献・資料など	<p>ウェブサイトにて講義時に使用する資料を配布(講義で使用する資料をPDF化し公開する)するため、初回の講義は必ず出席すること(無断欠席の場合は登録を取り消す)。参考文献は講義時に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>この講義で学んだ経営情報システムに関する知識や技術を応用すれば、専門演習などの卒業論文等ですぐに利用することが可能である。また、卒業研究や社会に出てから情報システムを構築および利用したいと考える者は受講するのが望ましいと考える。インターネットを取り巻く環境は著しく変化し、これからも速いスピードで変容し続けるため、情報収集能力が必要となる。膨大かつ陳腐化が激しい情報を積極的に収集し、自ら考える能力を養うことが必要である。</p>		
評価	<p>授業態度平常点60点、課題レポートおよび試験240点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報系専門ゼミ等でこの講義で学んだ技術や知識が生かせると考える。これから、起業する者、就職して本格的に情報系の仕事をする者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営ビジネス情報論Ⅰ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業は社会調査の方法を学び、現地調査（フィールドワーク）を行うための基礎知識を身に付けることを目的とします。</p> <p>◆どのような職業においても自社を取り巻く環境の調査・分析は、事業存続のために不可欠です。そのためこの授業では、社会問題をテーマとした討論を通じて、情報の収集と分析の技能を高めることを目指します。</p>	<p>◆この授業では、学んだ「知識」を「技能」へと転換することを重視します。授業で行う討論はそのための手段であり、この過程で情報収集力と分析力を高めることに取り組んでもらいます。</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業はビデオ教材と提出課題による代替授業とし、質疑応答はSNSを用いて行います。</p>
到達目標	<p>①社会調査の目的、用語、方法などを理解し、説明することができる（提出課題で評価）</p> <p>②社会問題に対する情報収集と分析を行い、賛否の立場を明示して解決策の提案ができる（提出課題03、04、08、09で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 授業概要：経営ビジネス情報論Ⅰ	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 趣味と研究の違い	授業内容の復習をする
	3	(特) 問いの立て方	課題01を仕上げ提出する
	4	(特) 討論1「『夏の子園』中止に伴う代替大会の是非」立論	課題02を仕上げ提出する
	5	(特) 討論2「『夏の子園』中止に伴う代替大会の是非」反論	課題03を仕上げ提出する
	6	(特) 社会調査とは	課題04を仕上げ提出する
	7	(特) 社会調査における倫理問題	課題05を仕上げ提出する
	8	(特) 社会調査の歴史と発展	課題06を仕上げ提出する
	9	(特) 討論3「『夏の子園』中止に伴う代替大会の是非」立論	課題07を仕上げ提出する
	10	(特) 討論4「『夏の子園』中止に伴う代替大会の是非」反論	課題08を仕上げ提出する
	11	(特) 調査の種類1：データの性質による分類、調査方法による分類	課題09を仕上げ提出する
	12	(特) 調査の種類2：時間による分類、資料探査法	課題10を仕上げ提出する
	13	(特) 調査の企画1：調査テーマの設定から調査票の作成まで	課題11を仕上げ提出する
	14	(特) 調査の企画2：データの処理から個人情報の取り扱いまで	課題12を仕上げ提出する
15	(特) 調査票の設計1：調査票の作成、調査項目設定上の注意事項	課題13を仕上げ提出する	
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①加藤千恵子他『失敗しない社会調査法のすべて』インデックス出版、2010年10月</p> <p>②酒井隆『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年1月</p> <p>③前田拓也他『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版、2016年7月</p>
学びの手立て	<p>◆この授業ではビデオ教材や配付資料による講義・指導を行い、その内容に関する課題の提出を課します。</p> <p>◆出欠は上記の提出課題（Webフォルダに提出）によって確認します。</p> <p>◆また社会問題をテーマとした調査を行ってもらい、その結果を用いて賛成と反対の立場を明示した討論を行ってもらいます。なお討論のテーマは最新の時事問題に差し替える場合があります。</p> <p>◆クラス全員の討論の通読、優れた討論の選出、その選出理由と得られた学びについての記述を求めます。</p>
評価	<p>①課題56%（7%×8回）※提出課題01はボーナス課題</p> <p>②討論（提出課題03、04、08、09）44%（11%×4回）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経営ビジネス情報論Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：経営ビジネス情報論Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営ビジネス情報論Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業は社会調査の方法を学び、現地調査（フィールドワーク）を行うための知識を身に付けることを目的とします。</p> <p>◆どのような職業においても自社を取り巻く環境の調査・分析は、事業存続のために不可欠です。そのためこの授業では、社会問題をテーマとした調査を通じて、情報の収集と分析の技能を高めることを目指します。</p>	<p>◆新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業は配付資料やパワーポイント等の視覚教材と提出課題を組み合わせた「特例授業」とし、質疑応答はSNSを用いたオフィスアワーで行います。</p>
到達目標	<p>①社会調査の目的、用語、方法などを理解し、説明することができる（提出課題で評価）</p> <p>②社会問題に対する情報収集と分析を行い、賛否の両面から解決策の提案ができる（提出課題の「論述1～4」で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/授業概要と受講ルール	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 調査票の設計2：調査項目設定上の注意事項	課題01を仕上げて提出する
	3	(特) サンプリングの概念と方法	課題02を仕上げて提出する
	4	(特) 調査計画の立て方	課題03を仕上げて提出する
	5	(特) 論述1「SNS中傷対策：プロバイダー責任制限法改正の是非」立論	課題04を仕上げて提出する
	6	(特) 論述2「SNS中傷対策：プロバイダー責任制限法改正の是非」反論	課題05を仕上げて提出する
	7	(特) 調査項目の設定方法	課題06を仕上げて提出する
	8	(特) 予備調査の目的と方法	課題07を仕上げて提出する
	9	(特) 本調査（実査）の方法と留意点	課題08を仕上げて提出する
	10	(特) 論述3「原子力による発電の是非」立論	課題09を仕上げて提出する
	11	(特) 論述4「原子力による発電の是非」反論	課題10を仕上げて提出する
	12	(特) 調査データの整理①コーディング	課題11を仕上げて提出する
	13	(特) 調査データの整理②データクリーニング	課題12を仕上げて提出する
	14	(特) データベースの作成方法	課題13を仕上げて提出する
15	(特) データの図表化	課題14を仕上げて提出する	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①石井栄造『図解マーケティングリサーチの進め方がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年1月</p> <p>②酒井隆『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年1月</p> <p>③樋口裕一『ホンモノの文章力：自分を売り込む技術』集英社新書、2000年10月</p> <p>④前田安正『きっちり！恥ずかしくない！文章が書ける』すばる舎、2013年5月</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>◆特例授業の受講支援として大学が奨学金と貸出PCを提供しているため、個人のPCか貸出PCでの受講が前提です。スマートフォンやタブレットでの受講は禁じませんが、これらを使用した場合のトラブルに関する【救済措置はない】点に注意してください。</p> <p>◆出欠は確認しませんが、「欠席6回以上は単位を認定しない」という学部規定に則り、課題を6つ以上提出しなかった場合は単位を認定しません。</p> <p>◆提出課題では、社会問題をテーマとした論述も行ってもらいます。論述のテーマは最新の時事問題に差し替える場合があります。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①提出課題60% (6%×10回)</p> <p>②論述40% (10%×4回)</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経営ビジネス情報論Ⅰ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：ビジネスエコノミクスⅠ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	メール(ikemiyagi@okiu.ac.jp), または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。</p>	<p>初学者を想定した講義です。 経済に興味を持ち、経済分野の学習を始める、きっかけにして下さい。</p>
到達目標	<p>買い手と売り手それぞれの考え方について自分の言葉で説明できる。 有効需要とマクロ経済政策について自分の言葉で説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学について：イントロダクション	シラバスを読む
	2	需要と供給①	教科書第1章を読む
	3	需要と供給②	教科書第1章を読む
	4	需要曲線と消費者行動①	教科書第2章を読む
	5	需要曲線と消費者行動②	教科書第2章を読む
	6	費用の構造と供給行動①	教科書第3章を読む
	7	費用の構造と供給行動②	教科書第3章を読む
	8	学習内容の復習：確認テスト1	テスト結果を復習する
	9	経済をマクロからとらえる①	教科書第9章を読む
	10	経済をマクロからとらえる②	教科書第9章を読む
	11	有効需要と乗数メカニズム①	教科書第10章を読む
	12	有効需要と乗数メカニズム②	教科書第10章を読む
	13	マクロ経済政策①	教科書第12章を読む
14	マクロ経済政策②	教科書第12章を読む	
15	学習内容の復習：確認テスト2	テスト結果を復習する	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>教科書 [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社, 2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。</p>			
学びの手立て			
<p>1. 履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。講義内容の要点をつかむためのプリント(記述用)を毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。 2. 学びを深めるために：講義中に記述したプリントを講義時間外に復習すること。はじめて学ぶ経済学の内容を、どのように学べばよいか、説明する。 3. 受講生の達成度を測るために確認テストを2回行う。テスト結果を受講生に報告、解説する。</p>			
評価			
<p>期末テスト50%：到達目標の達成度を測る。 確認テスト・課題30%：買い手と売り手について、経済学の考え方を説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>世の中の仕組みを説明する道具として、経済学を身に付けてほしい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1 年	授業後に教室で受け付けます。そ例外は、研究室（5号館5階5536）で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学の基本的な考え方を学習します。ミクロ分野では主に経済における需要と供給の関係を学び、マクロ分野では国内総生産（GDP）の概念、有効需要と乗数、マクロ経済政策（財政政策、金融政策）の基本を学習します。	経済学の基本的な考え方を学習することにより、現実の経済現象を理解することは、これからの仕事や生活にもかかわってきます。
到達目標	①経済学の基本的な考え方を学習し、現実の経済を理解する基礎知識を身につけます。 ②ミクロ分野では主に経済における需要と供給の関係を理解を深めます。 ③マクロ分野では国内総生産（GDP）の概念、有効需要と乗数、マクロ経済政策（財政政策、金融政策）の基本を学習します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 経済学はどのような学問か（経済学の基本的な考え方）	テキストP1-P14を読む
	2	(特) 需要と供給①（需要と供給について）	テキストP18 - P36を読む
	3	(特) 需要と供給②（需要と供給の応用）	テキストP18 - P36を読む
	4	(特) 需要曲線と消費者行動①（価格と需要、需要の価格弾力性）	テキストP42 - P52を読む
	5	(特) 需要曲線と消費者行動②（需要と効用、消費者余剰）	テキストP53-P63を読む
	6	(特) 費用の構造と供給行動①（価格と費用、費用の構造）	テキストP66-P76を読む
	7	(特) 費用の構造と供給行動②（企業の利潤最大化行動と供給）	テキストP77 - P84を読む
	8	(特) 学習内容の復習	テキスト、レジユメの復習
	9	(特) 経済をマクロからとらえる①（マクロ経済学の基本概念）	テキストP224 - PP251を読む
	10	(特) 経済をマクロからとらえる②（GDPの基本概念）	テキストP252 - P265を読む
	11	(特) 有効需要と乗数のメカニズム①（有効需要とマクロ経済の均衡）	テキストP279 - P284を読む
	12	(特) 有効需要と乗数のメカニズム②（乗数メカニズムと経済への波及）	テキストP285 - P297を読む
	13	(特) マクロ経済政策①（財政政策について）	テキストP330-P345を読む
14	(特) マクロ経済政策②（金融政策について）	テキストP330-345を読む	
15	(特) 期末レポート		
16	(特) 学習内容の総復習	講義全体の総復習	
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：伊藤元重著『入門経済学 第4版』日本評論社 2015年 参考文献：N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳『入門マンキュー経済学』東洋経済新報社 2019年			
学びの手立て			
①授業中の私語、携帯電話、パソコン等の使用はやめてください。 ②日頃から新聞の経済欄などに目を通し現実の経済状況を知ること重要です。			
評価			
授業参加度30%、課題20%、期末テスト50%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用ミクロ経済学Ⅰ、応用ミクロ経済学Ⅱ、ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ、パブリックファイナンス、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業は経済学の基礎的な知識と理論を学び、経済政策の利点と問題点の双方が指摘できるようになることを目的とします。経済学の知識は景気の変化や安定化を考える上で役立つため公務員には必須の知識ですが、企業で働く際にも自社を取り巻く環境の変化を読み解くのに役立ちます。</p>	<p>◆新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業は配付資料やパワーポイント等の視覚教材と課題を組み合わせた「特例授業」とし、質疑応答はSNSを用いたオフィスアワーで行います。</p>
	到達目標	
	①経済学に関する基礎的な用語と理論を理解し、説明することができる（課題で評価）	
	②授業で取り上げた事例に対して賛否を示し、経済学的な観点から持論を述べる（課題の「論述1～4」で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/授業概要と受講ルール	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 市場取引と資源配分① 市場と価格メカニズム	教科書89-103、課題01
	3	(特) 市場取引と資源配分② 資源配分のゆがみ	教科書103-113、課題02
	4	(特) 論述1 「観光地の缶ジュースが高い理由」	課題03を仕上げ提出する
	5	(特) 不完全競争市場① 独占の理論	教科書119-132、課題04
	6	(特) 不完全競争市場② 完全競争と独占的競争	教科書132-143、課題05
	7	(特) 市場の失敗	教科書145-161、課題06
	8	(特) 論述2 「うなぎやさんまが年々高くなる理由」	課題07を仕上げ提出する
	9	(特) 貨幣の機能① 貨幣の定義と機能	教科書301-312、課題08
	10	(特) 貨幣の機能② 信用乗数	教科書312-322、課題09
	11	(特) インフレとデフレと失業① インフレか失業か	教科書355-366、課題10
	12	(特) インフレとデフレと失業② デフレと失業	教科書367-380、課題11
	13	(特) 論述3 「国内へのIR誘致の是非」	課題12を仕上げ提出する
14	(特) 経済成長と経済発展	教科書419-438、課題13	
15	(特) 論述4 「寄付による貧困支援の是非」	課題14を仕上げ提出する	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>授業用の教科書（テキスト）として以下の書籍を指定します。第2回目の授業開始までに購入し、指定箇所を通読しておいてください。</p> <p>●伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年2月 ※「第4版」を購入すること（内容が異なる）</p>		
	学びの手立て		
	<p>◆特例授業の受講支援として大学が奨学金と貸出PCを提供しているため、個人のPCか貸出PCでの受講が前提です。スマートフォンやタブレットでの受講は禁じませんが、これらを使用した場合のトラブルに関する【救済措置はない】点に注意してください。</p> <p>◆出欠は確認しませんが、「欠席6回以上は単位を認定しない」という学部規定に則り、課題を6つ以上提出しなかった場合は単位を認定しません。</p> <p>◆課題では、経済政策をテーマとした論述も行ってもらいます。論述のテーマは最新の時事問題に差し替える場合があります。</p>		
	評価		
	<p>①課題60% (6%×10回)</p> <p>②論述40% (10%×4回)</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：経済原論Ⅰ、基礎数学、経済数学、応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、地域財政論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：応用ミクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅰ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1年	授業後に教室で受け付けます。そ例外は、研究室（5号館5階5536）で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ分野では、市場による資源配分、独占や寡占、独占的競争といった市場形態を学習し、市場の失敗についてとりあげます。また、マクロ分野では、貨幣の機能、インフレとデフレ、高齢化と財政、経済成長と経済発展について学習し、現実のみられる経済現象について理解を深めます。</p>	<p>経済学の基本的な考え方を学習することにより、現実の経済現象を理解することは、これからの仕事や生活にもかかわってきます。</p>
到達目標	<p>①経済学の基本的な考え方を学習し、現実の経済を理解する基礎知識を身につけます。 ②ミクロ分野では市場による資源配分、独占、寡占等の市場形態、市場の失敗について理解します。 ③マクロ分野では貨幣の機能、インフレとデフレ、失業について、また財政や経済成長の理解を深めます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 経済学について (経済原論Ⅰの復習と経済原論Ⅱのイントロダクション)	経済原論Ⅰの内容復習
	2	(対) 市場取引と資源配分① (市場と価格のメカニズム)	テキストP90 - P103を読む
	3	(対) 市場取引と資源配分② (資源配分のゆがみ)	テキストP103- P113を読む
	4	(対) 完全競争市場について	レジュメを復習する
	5	(対) 不完全競争市場① (独占)	テキストP120 - P132を読む
	6	(対) 不完全競争市場② (寡占、独占的競争)	テキストP136 - P143を読む
	7	(対) 市場の失敗について	テキストP146 - P161読む
	8	(対) 学習内容の復習	テキスト、レジュメを復習
	9	(対) 貨幣の機能① (貨幣の定義と機能)	テキストP301- P312を読む
	10	(対) 貨幣の機能② (マネーストックと信用乗数)	テキストP312 - P322を読む
	11	(対) インフレとデフレと失業① (インフレか失業か)	テキストP356 - P366を読む
	12	(対) インフレとデフレと失業② (デフレと失業)	テキストP367 - P380を読む
	13	(対) 高齢社会と財政	テキストPP394 - P417を読む
14	(対) 経済成長と経済発展	テキストP419 - P438を読む	
15	(対) 期末テスト		
16	(対) 学習内容の総復習	経済原論Ⅱの総復習	
テキスト・参考文献・資料など 伊藤元重著『入門経済学 第4版』日本評論社 2015年			
<p>学びの手立て</p> <p>①授業に遅刻しないようにして下さい。 ②授業中の私語、携帯電話、パソコン等の使用はやめてください。 ③日頃から、新聞の経済欄に目を通し、現実の経済に関心を持つことが重要です。</p>			
<p>評価</p> <p>授業参加度30%、課題20%、期末テスト50%の割合で評価します。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ、パブリックファイナンス、ビジネス情報分析、産業連関論、データ解析論Ⅰ・Ⅱなど
-------	---



※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ゲーム開発の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゲーム開発演習	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コンピュータの発達と共に高度な表現が可能となった現在、ゲーム開発技術の習得および関連する分野への応用など社会における重要性が高まっている。本演習では、EPIC Games社のUnreal Engineを用いてゲーム開発を行い、その機能と役割について学習し技術の習得を目指す。</p>	<p>【実務経験】ゲーム開発の実務経験を活かし、ゲーム開発の総合的な技術とその構築方法に関する演習を行う。本演習は、演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム開発に関する基本的な概念と役割について理解し、演習を通して総合的な技術を習得する。</li> <li>ゲーム開発を通して創造力を身に付け、関連分野および社会への応用について学ぶ。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ゲーム概論	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (1) デジタル技術	基本概念の理解及び講義の復習
	4	表現と技術史 (2) プラットフォーム	基本概念の理解及び講義の復習
	5	基本操作と概要	基礎技術の習得・講義の復習
	6	システム構築の基礎技術	基礎技術の習得・講義の復習
	7	プロトタイピング	基礎技術の習得・講義の復習
	8	アニメーションの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	9	ルールの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	10	AIの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	11	応用課題	技術の応用・課題制作
	12	ゲーム開発演習 (1) 企画	技術の応用・課題制作
	13	ゲーム開発演習 (2) プロトタイプ	技術の応用・課題制作
14	ゲーム開発演習 (3) 実装	技術の応用・課題制作	
15	ゲーム開発演習 (4) 検証	技術の応用・課題制作	
16	総括・課題プレゼンテーション	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。                  参考書：「作れる！学べる！ Unreal Engine4 ゲーム開発入門」荒川巧也 著、翔泳社、「Unreal Engine 4で極めるゲーム開発」湊 和久 著、株式会社ボーンデジタル</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合は不可となる）</li> <li>実習を含む内容の為、パソコン教室での講義となる。</li> <li>課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> </ul>		
評価	<p>平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (20%)、最終課題 (60%) を総合的に評価する。                  総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：3DCGアニメーション演習、コンテンツマネジメント論、UIデザイン概論</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 国際経済学を理解するために必要な基礎知識を習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年	knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 世界的に進んでいる経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。	メッセージ ミクロ経済学およびマクロ経済学の応用分野になりますが、基礎知識がなくても理解できるよう説明します。
	到達目標 国際経済学の基礎的理論を習得する。 国際貿易と経済発展との関係を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	シラバスの確認
	2	(特) 国際貿易と日本の経済成長①	国際経済学に関する文献の精読
	3	(特) 国際貿易と日本の経済成長②	国際経済学に関する文献の精読
	4	(特) 貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム	国際経済学に関する文献の精読
	5	(特) 貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整	国際経済学に関する文献の精読
	6	(特) 貿易の基礎理論③ ヘクシャー=オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論	国際経済学に関する文献の精読
	7	(特) 貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当	国際経済学に関する文献の精読
	8	(特) 貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金	国際経済学に関する文献の精読
	9	(特) 為替レートの決定①	国際経済学に関する文献の精読
	10	(特) 為替レートの決定②	国際経済学に関する文献の精読
	11	(特) IS-LM分析① IS曲線とLM曲線	国際経済学に関する文献の精読
	12	(特) IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策	国際経済学に関する文献の精読
	13	(特) IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策	国際経済学に関する文献の精読
	14	(特) ポリシーミックス①	国際経済学に関する文献の精読
15	(特) ポリシーミックス②	国際経済学に関する文献の精読	
16	(特) まとめ	復習	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 その都度紹介する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。		
	評価 レポートの提出状況 (60%) とその内容 (40%) を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ミクロ経済学、マクロ経済学
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、コンテンツマネジメントについて学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンテンツマネジメント論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、コンテンツ制作における技術やメディア、運営、法制度等の仕組みや構造について学び、マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。また、ウェブサイト構築における規格や言語、情報の視覚化、著作権問題、運営等を総合的に学ぶ。	メッセージ コンテンツ制作における技術や運営、法制度等の産業別の仕組みや構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な総合的な知識を習得してほしい。
	到達目標 ・コンテンツ制作に関する技術や構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) コンテンツマネジメント概要	基本概念の理解
	3	(特) メディアと技術 (1) Web・モバイル	講義の予習・復習
	4	(特) メディアと技術 (2) 放送	講義の予習・復習
	5	(特) デジタルコンテンツ (1) コンテンツ振興	講義の予習・復習
	6	(特) デジタルコンテンツ (2) 業界構造	講義の予習・復習
	7	(特) インターネットとコンテンツ	講義の予習・復習
	8	(特) コンテンツの権利と法制度	講義の予習・復習
9	(特) コンテンツとデジタル技術 (1) ゲーム	講義の予習・復習	
10	(特) コンテンツとデジタル技術 (2) 動画像	講義の予習・復習	
11	(特) コンテンツとデジタル技術 (3) アーカイブ	講義の予習・復習	
12	(特) 企画とプロセス	講義の予習・復習	
13	(特) 制作と進行	講義の予習・復習	
14	(特) 事例 (1) マネジメント	講義の予習・復習	
15	(特) 事例 (2) 環境と人材	講義の予習・復習	
16	(特) 総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。		
	学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。		
	評価 講義内で定期試験またはレポート提出を実施 (80%)、平常点 (20%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、UIデザイン概論、ゲーム開発演習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	最適化概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。	メッセージ 実社会で役立つ、ゲーム理論や工学の分野の最適化問題とそれを解決するためのいくつかの手法を学びます。提出物の無い場合や講義に30分以上遅刻の場合は、欠席扱いとします。
	到達目標 ゲーム理論における各種解法の習得と組合せ最適化における実社会の問題の解法を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組合せ最適化についてのあらまし	Google Classroom ファイル 1
	2	線形計画法を用いた組合せ最適化	Google Classroom ファイル 2
	3	工学における組合せ最適化問題について	Google Classroom ファイル 3
	4	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ（厳密解法と近似解法）	Google Classroom ファイル 4
	5	割り当て問題	Google Classroom ファイル 5
	6	ナップザック問題	Google Classroom ファイル 6
	7	2分木を用いた最適化の解法	Google Classroom ファイル 7
	8	多角形詰め込み問題	Google Classroom ファイル 8
	9	進化計算法による組合せ問題の解法	Google Classroom ファイル 9
	10	PERT図を用いた最適化	Google Classroom ファイル 10
	11	ゲーム理論Ⅰ（囚人のジレンマゲーム・支配戦略均衡点）	Google Classroom ファイル 11
	12	ゲーム理論Ⅱ（パレート最適、交渉ゲーム）	Google Classroom ファイル 12
	13	ゲーム理論Ⅲ（ミニマックスゲーム、ナッシュ解）	Google Classroom ファイル 13
	14	ゲーム理論Ⅲ（シャープレイ値）	Google Classroom ファイル 14
15	ゲーム理論Ⅲ（コア）	Google Classroom ファイル 15	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、Google Classroomにアップロードするファイルとなります。また、必要な資料も、PDF形式などでGoogle Classroomにアップロードしますので、それらをダウンロードして、テキストとしてください。		
	学びの手立て 毎時間、Google Classroomにアップロードされる電子ファイルを参照すること。		
	評価 提出物：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎。専門演習。卒業論文演習。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅱ（経営と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-成枝 秀介	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	スマートフォンなど身の回りの様々なモノやデバイスに取り付けられたセンサから送られてくる情報をインターネットを介して収集・活用し、機能・効果の改善を可能とするIoT（Internet of Things：モノのインターネット）が注目されている。本講義では、IoTの歴史や仕組み、基盤技術や応用例について学習する。	IoTに関する市場動向や産業・公共など色々な分野での応用事例を学習し、IoT利活用のための基礎知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT発展の経緯・歴史について説明できる。</li> <li>物理センサや無線通信技術等のIoT基盤技術概要について説明できる。</li> <li>IoTの応用事例について説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	授業内容の予習
	2	IoTの歴史と発展の経緯（1）	授業内容の予習とこれまでの復習
	3	IoTの歴史と発展の経緯（2）	授業内容の予習とこれまでの復習
	4	IoTの仕組み（1）	授業内容の予習とこれまでの復習
	5	IoTの仕組み（2）	授業内容の予習とこれまでの復習
	6	IoTの仕組み（3）	授業内容の予習とこれまでの復習
	7	IoTの基盤技術（1）	授業内容の予習とこれまでの復習
8	IoTの基盤技術（2）	授業内容の予習とこれまでの復習	
9	IoTの基盤技術（3）	授業内容の予習とこれまでの復習	
10	物理センサの仕組み（1）	授業内容の予習とこれまでの復習	
11	物理センサの仕組み（2）	授業内容の予習とこれまでの復習	
12	IoTの応用事例（1）	授業内容の予習とこれまでの復習	
13	IoTの応用事例（2）	授業内容の予習とこれまでの復習	
14	IoTの応用事例（3）	授業内容の予習とこれまでの復習	
15	まとめ	これまでの復習	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特に教科書は指定しない 参考文献・資料： ・NTTデータ「絵で見てわかるIoT/センサの仕組みと活用」翔泳社 ・テレコミュニケーション編集部「地域で活きる実践IoT」リックテレコム		
学びの手立て	授業内容の学習には、予習・復習が必要不可欠である。授業の各回に対応した内容を予習して授業に臨むこと。授業後は、授業で行った内容を復習すること。		
評価	到達目標を元に、レポートや課題などの総合点（100点）での評価を予定している。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として情報通信ネットワーク論がある。また、次のステージとして卒業論文演習ⅠⅡがある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義IV (産業と情報)	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-楠奥 繁則	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報論	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、情報通信技術の産業分野における活用、産業構造や産業の仕組みに与える影響などの理解の上に、この情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造、技術動向、人材ニーズについて学ぶ。また情報化の進展に伴い重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う動向等についても概説する。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、産業そして企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。 【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。</p>
到達目標	<p>① 情報そのもの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術や情報システムが産業に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 情報モラル、プライバシー保護、知的所有権などの情報リテラシーを習得する。 ⑤ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業情報論で何を学ぶ	ガイダンスの理解
	2	情報についての基本的理解①－分類と特性	配布資料を読み、出席すること。
	3	情報についての基本的理解②－経営資源と情報	配布資料を読み、出席すること。
	4	情報化の進展と社会そして産業との関わり	配布資料を読み、出席すること。
	5	卸・小売・物流業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	6	金融・サービス業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	7	製造・建設業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	8	情報産業の発展と社会①－情報産業の構造と市場	配布資料を熟読してもらいたい。
	9	情報産業の発展と社会②－情報産業の技術と人材	配布資料を熟読してもらいたい。
	10	身近な事例研究①－コンテンツ産業	日常を情報技術から考える。
	11	身近な事例研究②－外食産業	日常を情報技術から考える。
	12	身近な事例研究③－アパレル産業	日常を情報技術から考える。
	13	情報化基盤と新技術の開発動向	配布資料を読み、出席すること。
	14	情報化基盤と周辺環境の変化	配布資料を読み、出席すること。
15	情報化基盤と新たなビジネスモデル	配布資料を読み、出席すること。	
16	学期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)そして期末試験(60%)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習において習得した、社会・産業・生活における情報技術の活用といった基本的理解の展開として、2年次より履修が可能となる、「ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「経営科学」、「情報と職業」の受講を推奨します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	2年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場するが、この計算には産業連関分析が用いられる。産業連関分析は、産業連関表を用いて経済波及効果に限らず、様々な分析に応用される。講義では、産業連関表を用いた産業連関分析を解説して、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、その活用について学ぶ。	産業連関分析や経済波及効果は分析手法の一つで卒論作成などの分析に役立つ。Excelの操作や数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本となる。産業連関分析を学ぶことにより、経済分析の知識を習得し、題解の分析力、解決力を向上させることにつながる。
到達目標	①産業連関表から経済の循環を知る。マクロ経済学の知識を産業連関表に当てはめて理解する。 ②数学（特に行列の知識）、Excel操作を習得する。行列やExcel操作で方程式や逆行列の計算方法を理解する。 ③経済波及効果を情報リテラシーを使って考察する。経済波及効果の限界と問題点を知り、経済波及効果の実例を検証する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスによる講義内容の確認
	2	国民経済計算とGDP	講義の復習
	3	乗数モデル	講義の復習
	4	財市場の均衡	講義の復習
	5	乗数効果	講義の復習
	6	行列①：行列、逆行列の概念	講義の復習
	7	行列②：表計算ソフトによる計算	Excelの使い方の復習
	8	産業連関分析の基礎①：産業連関表について	講義の復習
	9	産業連関分析の基礎②：部門統合、投入係数など	講義の復習
	10	産業連関分析の基礎③：逆行列係数など	講義の復習
	11	産業連関分析の基礎④：付帯表など	講義の復習
	12	産業連関分析の応用①：表計算ソフトによる計算	講義の復習
	13	産業連関分析の応用②：経済波及効果の計算	講義の復習
14	産業連関分析の応用③：経済波及効果の事例分析	講義の復習	
15	産業連関分析の応用④：経済波及効果の事例分析	講義の復習	
16	定期試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 産業連関分析の理解にあたり、下記の参考書を勧める。 ①安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年 ②藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらく10入門』日本評論社2005年 ③土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年		
学びの手立て	①遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できないかもしれません。毎回遅刻せず出席してください。 ②授業内容は、毎回の講義の積み重ねで展開する。最初は簡単でも、徐々に講義内容が深まる。油断や欠席をしないで受講して下さい。 ③数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本になる。経済原論Ⅰ、Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、Ⅱを受講し、基本的な知識を学習していることが必要となる。		
評価	授業参加度及び課題レポート（30%）、定期試験（70%）で評価する。 評価は、大学の基準に従う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経済原論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学、経済数学、情報処理基礎、応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 類似科目：産業連関の基礎、産業連関の応用（どちらも地域環境政策学科提供科目）
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	2年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場するが、この計算には産業連関分析が用いられる。産業連関分析は、産業連関表を用いて経済波及効果に限らず、様々な分析に応用される。講義では、産業連関表を用いた産業連関分析を解説して、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、その活用について学ぶ。	産業連関分析や経済波及効果は分析手法の一つで卒論作成などの分析に役立つ。Excelの操作や数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本になる。産業連関分析を学ぶことにより、経済分析の知識を習得し、題解の分析力、解決力を向上させることにつながる。
到達目標	①産業連関表から経済の循環を知る。マクロ経済学の知識を産業連関表に当てはめて理解する。 ②数学（特に行列の知識）、Excel操作を習得する。行列やExcel操作で方程式や逆行列の計算方法を理解する。 ③経済波及効果を情報リテラシーを使って考察する。経済波及効果の限界と問題点を知り、経済波及効果の実例を検証する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	シラバスによる講義内容の確認
	2	(特) 国民経済計算とGDP	講義の復習
	3	(特) 乗数モデル	講義の復習
	4	(特) 財市場の均衡	講義の復習
	5	(特) 乗数効果	講義の復習
	6	(特) 行列①：行列、逆行列の概念	講義の復習
	7	(特) 行列②：表計算ソフトによる計算	Excelの使い方の復習
	8	(特) 産業連関分析の基礎①：産業連関表について	講義の復習
	9	(特) 産業連関分析の基礎②：部門統合、投入係数など	講義の復習
	10	(特) 産業連関分析の基礎③：逆行列係数など	講義の復習
	11	(特) 産業連関分析の基礎④：付帯表など	講義の復習
	12	(特) 産業連関分析の応用①：表計算ソフトによる計算	講義の復習
	13	(特) 産業連関分析の応用②：経済波及効果の計算	講義の復習
	14	(特) 産業連関分析の応用③：経済波及効果の事例分析	講義の復習
15	(特) 産業連関分析の応用④：経済波及効果の事例分析	講義の復習	
16	(特) 定期試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。資料を配布する。 産業連関分析の理解にあたり、下記の参考書を勧める。 ①安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年 ②藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらく10入門』日本評論社2005年 ③土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年
-------	--

学びの実践	学びの手立て ※本講義は、全てオンラインで行う。ポータル及びTeamsで連絡するので、両方が確認できるように準備してください。(Teamsは後ほどチームを作る。) ①後半では、Excelを使って分析しますので、Excelが使える環境を整えてください。 ②毎回、講義資料の確認と課題の提出を行わないと、段階的な学習が途切れて内容が理解できないかもしれません。 ③数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本になる。経済原論Ⅰ、Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、Ⅱを受講し、基本的な知識を学習していることが望ましい。(必要な場合は説明・復習する。)
-------	--

学びの実践	評価 ①課題レポート(30%)、定期試験(70%)で評価する。 ②評価は、大学の基準に従う。 ③評価方法を変更する場合は、事前に連絡する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経済原論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学、経済数学、情報処理基礎、応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 類似科目：産業連関の基礎、産業連関の応用(どちらも地域環境政策学科提供科目)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム開発と情報化	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業と法務、経営戦略に関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験の基礎理論、企業と法務、経営戦略の分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる ・基礎理論としての応用数学等を理解し、説明できる ・企業活動と法務について理解し、説明できる ・経営戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・技術戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・ビジネスインダストリアルについて理解し、説明できる	

学びの準備	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる ・基礎理論としての応用数学等を理解し、説明できる ・企業活動と法務について理解し、説明できる ・経営戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・技術戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・ビジネスインダストリアルについて理解し、説明できる
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・企業活動	当該講義の復習/次回講義の予習
	2	企業会計	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	応用数学：集合・命題	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	応用数学：確率・統計	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	応用数学：待ち行列理論・グラフ理論	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	OR（オペレーションズリサーチ）	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	IE分析手法・QC手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	業務分析	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	知的財産権・セキュリティ関連法規	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	法務と標準化	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	経営戦略手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	マーケティング・ビジネス戦略	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	ビジネス戦略・技術開発戦略	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	ビジネスシステム	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	e-ビジネス	当該講義の復習
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ（2019） 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2019）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	--

学びの実践	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(30%)、分野別確認テスト(10%)の合計得点により行う。 取得点数が90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可、60%未満は不可とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、プログラミング理論、プログラミング I、データベース、情報処理システム論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化社会と教育	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会と教育（初等、中等、高等）の関係を、多角的に捉える視野を育む。	メッセージ 情報技術の発展は、教育のあり方に対して大きな変化をもたらしています。まずは現状を把握し、そして今後も革新が進む情報技術を、教育にどのように活かしていくか、広い視野を持って考えていきましょう。
	到達目標 ・情報と教育との関係を説明できる ・教育における情報化社会の持つ意味と課題を説明できる ・メディア教育の持つ意味と課題を説明できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) 大学へ進学した理由	課題提出
	3	(特) より良い教育のかたち	課題提出
	4	(特) 情報と教育	課題提出・参考文献 pp. 9-19
	5	(特) 大学の授業改革と情報通信技術	課題提出・参考文献 pp. 20-33
	6	(特) Learning Style Inventory	課題提出
	7	(特) インターネット大学	課題提出・参考文献 pp. 34-50
	8	(特) 大規模公開オンライン授業	課題提出・参考文献 pp. 51-63
9	(特) 情報化社会と高等教育の未来	課題提出・参考文献 pp. 64-77	
10	(特) 学校における児童・生徒を取り巻く情報化社会への対応	課題提出・参考文献 pp. 78-95	
11	(特) 情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	課題提出・参考文献 pp. 96-130	
12	(特) 情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	課題提出・参考文献 pp. 131-156	
13	(特) 情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	課題提出・参考文献 pp. 157-176	
14	(特) メディア教育の歴史的展開	課題提出・参考文献 pp. 211-224	
15	(特) 企業への志願理由	課題提出	
16	(特) 総括	課題の総復習	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：「情報化社会と教育」放送大学教育振興会		
	学びの手立て ・受講には Google Meet と Zoom を要する。 ・第1週目には出席しない場合には登録を取り消す。 ・個人のレポートを全体に公開することがある。 ・課題提出に関しては厳正に扱う。		
	評価 各課題 (100%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育者を目指す者には、またはそれ以外の者でも教育を担う機会があった場合には、情報化社会と教育における世の情勢を捉えながら、自身の考えを以て創意工夫を凝らした教育を志すように望む。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化と法	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コンピュータ・ネットワークの急激な発達に伴って、法制度が追いついていない現状の中で、どのような問題がクリアできるのか、どのような情報を活用すべきなのかを自ら考える。商標、意匠、特に、めざましい進化を遂げるAIを用いたビジネスモデル特許への挑戦！</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で企業は、業務をどのようにIT化するかアイデアに注目しています。そしてその延長線上に知的財産権（特許、意匠、商標）が待ち受けています。今年、意匠法が大改正となり、画像デザインの権利は著作権ではなく意匠権でも権利化できます。すなわち、個人の権利者が主流となるかも、スマホのアイコンなども容易に登録できるようになりました。</p>
到達目標	<p>急激な発展に伴う情報化社会の様々な問題に対して、的確に対応できるスキルを身に付ける。</p> <p>1) 情報化における様々な法的問題の知識を習得する。 2) 情報化により発生する様々な問題への対応力を身に付ける。 3) 情報化戦略としての商標・意匠出願スキルを身に付ける。 4) AIビジネスモデル特許のスキルを身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(対) 講義ガイダンス		
	2	(特) AIビジネスモデル特許にAI技術はいらない？	小課題1 予定	
	3	(特) 情報化と知的財産権(1)：商標とは？	オリジナル商標の検討	
	4	(特) 情報化と知的財産権(2)：意匠とは？	オリジナル意匠の検討	
	5	(特) 情報化と知的財産権(3)：実用新案、特許とは？	小課題2 予定	
	6	(特) 情報化と知的財産権(4)：AIビジネス特許とは？ AIを何に使うか？ AI技術不要？	AIビジネスモデルの検討	
	7	(特) 情報化と知的財産権(5)：著作権とは？	小課題3 予定	
	8	(特) コンピュータ・プログラムの法的保護：プログラムも著作権で保護？	商標・意匠・特許の調査	
	9	(特) 不正競争防止法：企業内の秘密情報と限定提供データの保護？	商標・意匠エントリー票作成	
	10	(特) 個人情報保護：企業が入手する個人情報の保護？	商標出願データ作成	
	11	(特) 電子商取引に関する問題：インターネット売買の保護？	意匠出願データ作成	
	12	(特) 情報モラルとサイバー犯罪：ネット運営の責任？	AIモデルエントリー表作成	
	13	(特) 商標出願の実際：インターネットで特許庁に出願できる？	オリジナル商標出願	
14	(特) 意匠出願の実際：画像意匠権がソフト業界に衝撃？	オリジナル意匠出願		
15	(特) AIビジネスモデル特許の出願に挑戦？	AIビジネスモデルの作成		
16	(特) 情報化と法的問題の事例：こんなことが実際にある？	商標、意匠、AIビジネスモデル作成		
テキスト・参考文献・資料など	<p>新型コロナウイルス対策として、初回のみ対面講義の予定です。2回目以降は、Moodleで講義用資料提供、小テスト、課題等を提供します。オリジナルの資料を音声付きPDFでMoodle提供を予定しています。課題の提出は、すべてMoodleで行います。各評価もMoodleで提示します。</p>			
学びの手立て	<p>講義の資料、課題提出などすべてMoodleで配布、提出となります。Moodleの取扱い、課題提出についての説明は、初回の講義で行なう予定です。事例を中心とし、実践的な講義です。一般的には知られていないが、産業情報技術を事業に活かすために、これだけは掴んでおきたい、掴んでおけば効果的に展開できる知的財産権のスキルです。各自のオリジナル商標・意匠を考え、特許庁にインターネット出願するスキルを身につけます。オリジナルのAIビジネスモデル特許を考えます。</p>			
評価	<p>講義において、小課題(小テスト)を3回程度と、メインの課題(商標課題、意匠課題、AIビジネスモデル特許課題)を総合的に評価します。配点は、積み上げ式です。各自で課題を選択して回答を提出する。</p> <p>1) 小課題：3問 各5点満点 合計15点満点 2) 商標課題 50点満点 3) 意匠課題 50点満点 4) AIビジネスモデル特許課題：35点満点</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>特に知的財産権の中で商標・意匠に関しては、自分で考え、自分で調べ、自分で出願できるスキルが身につき、企業の知財担当者としてのスキルともなります。急激な進化を伴うAIを活かしたビジネスモデル特許のスキルは今後企業にとって必要なスキルとなる。2030年を目指す、政府の知的財産推進計画2019に掲げられた「脱平均」「尖った才能が活躍しやすい」社会を創造する担い手になる。次のステージは企業での実践です。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度以降の入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 情報処理技術の基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション・ソフトウェアの分類	教科書・参考書の内容確認
	2	(特) OSの機能と構成・OSの管理機能<ジョブ・タスク管理>	講義の予習・復習
	3	(特) OSの管理機能<記憶管理>	講義の予習・復習
	4	(特) OSの管理機能<その他の管理機能>	講義の予習, 単元テスト
	5	(特) プログラム言語の分類・言語プロセッサ	講義の予習, 単元・確認テスト
	6	(特) ファイルとレコード・ファイルの管理・バックアップ	講義の予習, 単元テスト
	7	(特) インターネットの基本構成・サービス	講義の予習, 単元テスト
	8	(特) インターネットの標準プロトコル	講義の予習, 単元テスト
9	(特) ネットワークアーキテクチャ	講義の予習, 単元テスト	
10	(特) LANの基礎技術	講義の予習, 単元テスト	
11	(特) ネットワークの基礎技術	講義の予習・復習	
12	(特) 伝送制御技術・IoT関連技術・ネットワーク運用管理・管理手法	講義の予習, 単元・確認テスト	
13	(特) 情報セキュリティの概念	講義の予習・復習	
14	(特) 情報セキュリティ技術	講義の予習, 単元テスト	
15	(特) セキュリティ対策・セキュリティ実装技術	講義の予習, 単元・確認テスト	
16	(対) 期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」インフォテック・サーブ (2019) 参考書： 「ITワールドサブノート」インフォテック・サーブ (2019) アंक「パソコンの仕組みの絵本」翔泳社 (2013) アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社 (2014) アंक「TCP/IPの絵本 第2版」翔泳社 (2018)		
	学びの手立て 「履修の心構え」毎回、演習問題および課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 毎回、講義範囲の演習問題を出題。 課題として第3部で単元テスト3回、第5部で単元テスト4回、第6部で単元テスト2回、各分野（第3部、第6部、第7部）で確認テストを実施。 評価は期末試験(50%)、課題 (35%)、演習問題(15%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：コンピュータ概論, プログラミング理論, 情報処理システム論, 情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II, ウェブプログラミング, データベース, 情報処理システム演習, ロボットシミュレーション
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	メッセージ Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻、ならびに課題未提出の場合は、欠席扱いとします。
	到達目標 課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	Google Classroom ファイル 1
	2	APP Inventor開発環境について	Google Classroom ファイル 2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	Google Classroom ファイル 3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	Google Classroom ファイル 4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	Google Classroom ファイル 5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	Google Classroom ファイル 6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	Google Classroom ファイル 7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	Google Classroom ファイル 8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	Google Classroom ファイル 9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	Google Classroom ファイル 10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	Google Classroom ファイル 11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	Google Classroom ファイル 12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	Google Classroom ファイル 13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	Google Classroom ファイル 14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	Google Classroom ファイル 15	
16			
	テキスト・参考文献・資料など APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いず、Google Classroomへアップロードされた電子ファイルを用います。 Android関連書籍。関連Webページ		
	学びの手立て 毎時間の講義内容をGoogle Classroomにアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java JDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価 提出物（10～12回程度）：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に位置づけられます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	メッセージ Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻、ならびに課題未提出の場合は、欠席扱いとします。
	到達目標 課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	Google Classroom ファイル 1
	2	APP Inventor開発環境について	Google Classroom ファイル 2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	Google Classroom ファイル 3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	Google Classroom ファイル 4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	Google Classroom ファイル 5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	Google Classroom ファイル 6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	Google Classroom ファイル 7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	Google Classroom ファイル 8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	Google Classroom ファイル 9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	Google Classroom ファイル 10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	Google Classroom ファイル 11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	Google Classroom ファイル 12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	Google Classroom ファイル 13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	Google Classroom ファイル 14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	Google Classroom ファイル 15	
16			
	テキスト・参考文献・資料など APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いず、Google Classroomへアップロードされた電子ファイルを用います。 Android関連書籍。関連Webページ		
	学びの手立て 毎時間の講義内容をGoogle Classroomにアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java JDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価 提出物（10～12回程度）：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査と内部監査に関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験のシステム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム戦略・システム企画について理解し、説明できる</li> <li>・システム開発技術について理解し、説明できる</li> <li>・ソフトウェア開発管理技術について理解し、説明できる</li> <li>・プロジェクトマネジメントについて理解し、説明できる</li> <li>・サービスマネジメント・システム監査について理解し、説明できる</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション、情報システム戦略の概要	次回講義の予習・単元テスト
	2	(特) 情報システム企画	単元テスト・第3部確認テスト
	3	(特) システム開発プロセス	講義の予習・復習
	4	(特) ソフトウェア実装プロセス：要件定義～詳細設計	講義の予習・単元テスト
	5	(特) ソフトウェア実装プロセス：構築～受入れ支援	講義の予習・復習
	6	(特) 保守・廃棄プロセス	講義の予習・単元テスト
	7	(特) ソフトウェア開発手法	講義の予習・単元テスト
	8	(特) ソフトウェア設計手法	講義の予習・復習
9	(特) システム開発環境	講義の予習・第4部確認テスト	
10	(特) プロジェクトマネジメントの概要	講義の予習・復習	
11	(特) サブジェクトグループのマネジメント	講義の予習・第5部確認テスト	
12	(特) サーマネジメントの概要	講義の予習・復習	
13	(特) サーマネジメントの手法	講義の予習・第6部確認テスト	
14	(特) サービスの運用	講義の予習・復習	
15	(特) システム監査と内部統制	第7部確認テスト・講義の総復習	
16	(対) 期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ (2019) 参考書：「IT戦略とマネジメントサブノート」インフォテック・サーブ (2019) 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ (2019)		
	学びの手立て 「履修の心構え」 毎回、演習課題および課題を課すので、必ず取り組むこと 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること		
	評価 毎回、講義範囲の演習問題を出題。 課題として第3部で単元テスト2回、第4部で単元テスト3回、各分野（第3部から第7部）で確認テストを実施。 評価は期末試験(50%)、課題(35%)、演習問題(15%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「プログラミング理論」「システム開発と情報化」 次のステージとして「経営情報システム論」「人工知能概論」がある。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報数学	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、基礎数学に引き続き専門科目の履修に必要な知識を学ぶ。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 集合とベクトル、行列、微分など、情報系専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	講義ガイダンス/受講受付	シラバスの確認及び次回講義の予習
	2	集合と論理(i)	講義の復習および課題演習
	3	集合と論理(ii)	講義の復習および課題演習
	4	集合と論理(iii)	講義の復習および課題演習
	5	ベクトル(i)	講義の復習および課題演習
	6	ベクトル(ii)	講義の復習および課題演習
	7	行列(i)	講義の復習および課題演習
	8	行列(ii)	講義の復習および課題演習
	9	行列の応用(i)	講義の復習および課題演習
	10	行列の応用(ii)	講義の復習および課題演習
	11	微分(i)	講義の復習および課題演習
	12	微分(ii)	講義の復習および課題演習
	13	積分(i)	講義の復習および課題演習
	14	積分(ii)	講義の復習および課題演習
15	微分積分の応用	講義の復習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 未定(初回講義で周知します) 参考資料: ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版店		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 課題20%, 試験80% で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に関連する講義科目が次のステージとなる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-八幡 幸司	3年	Moodleで行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。	インターネットで使われるプロトコルの基本からネットワークの応用技術まで学ぶ。情報処理概論などにおいてネットワークの基本的な知識を学習済みであることが望ましい。
到達目標	プロトコル階層モデルを理解する インターネットでの実用面での運用法について理解する 基本的なセキュリティ技術について理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション・情報ネットワークの歴史	次回講義の予習
	2	(特)第2章アナログ通信のデジタル化	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	(特)第3章 デジタル伝送技術、第4章 デジタル交換技術	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	(特)第5章 通信プロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	(特)第6章 アクセスネットワーク	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	(特)第7章 LAN	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	(特)第8章 IP技術	当該講義の復習/次回講義の予習
8	(特)第9章 TCP	当該講義の復習/次回講義の予習	
9	(特)第10章 ルーティング	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	(特)第11章 携帯電話とスマートフォン	当該講義の復習/次回講義の予習	
11	(特)第12章 ネットワークセキュリティ	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	(特)第13章 インターネットサービス	当該講義の復習/次回講義の予習	
13	(特)情報セキュリティの概要	当該講義の復習/次回講義の予習	
14	(特)第14章 VOIPとマルチキャスト	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	(特)総まとめ	当該講義の復習	
16	(特)総合演習・期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	教科書： ・宇野新太郎「情報通信ネットワークの基礎」(2016) 参考文献： ・インフォテック・サーブ「ITワールド」インフォテック・サーブ(2018) ・アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社(2009) ・アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社(2003)		
学びの手立て	「履修の心構え」 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 「学びを深めるために」 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。		
評価	試験及び成績の規程に基づき出席回数3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「情報通信ネットワーク実習」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と職業	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-岡田 良	2年	ptt697@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ20年で様変わりしたIT産業の変遷と発展要因を学ぶとともに、現在及び近い将来の業界トレンドを理解する。さらに職種に関する理解を深め各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し高いモチベーションをもつことを目的としている。現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。</p>	<p>将来、IT業界への就労に世帯を持つ学生はもちろん、他業界においても情報技術はどのように貢献しているのかを知りたい学生向けの講義としています。（私は）産業振興のプロフェッショナルとして地域の振興の考え方についても述べていきます。さらに就職活動に対する考え方についてや面接などの対応方法についても取り組んでいきます。</p>
到達目標	<p>今日の学生は仕事に関する知識に乏しいため目指す職種像が描けていないでしょう。このような状態でやみくもに就職活動に挑んでも必ずしも良い結果につながるとは言えないと考えています。本講義履修後はIT業界だけでなく様々な職種の理解ができるようになるとともに、企業が内定を出すまでの経緯を学ぶことにより、以て就労するための過程を知ることになります。本講義を通して学生の”人間力”を養えればと考えております。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の目的と概要をガイダンス。	ガイダンスの理解
	2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説する。	当該講義の復習
	3	さまざまな産業の動向やその職種や企業活動について理解を深める。	当該講義の復習
	4	多様化するIT産業の職種について正しく理解する（その1）。	当該講義の復習
	5	多様化するIT産業の職種について正しく理解する（その2）。	当該講義の復習
	6	沖縄県および自治体の政策を学び、IT業界の変遷と業界の動向を学ぶ。	当該講義の復習
	7	過去20年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索する。	当該講義の復習
	8	講師自身の職務（IM）や実践に触れながら地域振興の必要性と理解を深める。	当該講義の復習
	9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。	当該講義の復習
	10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。	当該講義の復習
	11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。	当該講義の復習
	12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。	当該講義の復習
	13	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する（1）。	当該講義の復習
14	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する（2）。	当該講義の復習	
15	講義のまとめ	最終試験に向けて試験範囲の総復習	
16	学期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストおよび資料は講義時にプロジェクター投影する。また、参考文献は講義時に紹介する。	
学びの手立て	この講義で学んだIT産業の概要や沖縄県の取り組みなど情報と職業に関する知識を得ることができれば、他の理論的な講義をより深く理解することができるであろう。将来、情報関連の仕事に就きたいと考える者は受講する方が望ましい。		
評価	授業態度平常点および学期末試験の結果（採点割合：平常点40%、試験60%）を判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるものの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	専門演習等でこの講義で学んだ知識が活かせると考える。今後、起業を考える者、就職して本格的に情報系の仕事をする者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術についてプログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。制作したWebサイトは公開する。	CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> <li>学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	(特) Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	3	(対) Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	4	(特) Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
	5	(対) Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	6	(特) Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習
	7	(対) Webデザイン：素材の制作1 文字	教科書の予習・復習
	8	(特) Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	9	(対) Webデザイン：素材の制作2 画像処理・動画像	教科書の予習・復習
	10	(特) Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	11	(対) Webサイトの運用	教科書の予習・復習
	12	(特) 課題制作：企画と基本構造構築	Webサイト作成
	13	(対) 知的財産権	教科書の予習・復習
14	(特) 課題制作：技術の応用	Webサイト作成	
15	(対) 課題制作：技術の検証と発表準備	Webサイト作成	
16	(特) 総括		
テキスト・参考文献・資料など			
教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>			
評価			
平常点 (10%) ならびに各回での作成課題 (20%)、最終課題 (70%) を重視し総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術についてプログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。制作したWebサイトは公開する。	CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> <li>学んだ知識・スキルを活用し課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス, インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	(対) Webページを実現する技術: HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	3	(特) Webデザイン: Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	4	(対) Webページを実現する技術: CSSの基礎	教科書の予習・復習
	5	(特) Webデザイン: 情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	6	(対) Webページを実現する技術: 文書要素の制御	教科書の予習・復習
	7	(特) Webデザイン: 素材の制作1 文字	教科書の予習・復習
	8	(対) Webページを実現する技術: 文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	9	(特) Webデザイン: 素材の制作2 画像処理・動画像	教科書の予習・復習
	10	(対) Webページを実現する技術: CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	11	(特) Webサイトの運用	教科書の予習・復習
	12	(対) 課題制作: 企画と基本構造構築	Webサイト作成
	13	(特) 知的財産権	教科書の予習・復習
	14	(対) 課題制作: 技術の応用	Webサイト作成
15	(特) 課題制作: 技術の検証と発表準備	Webサイト作成	
16	(対) 総括		

テキスト・参考文献・資料など
教科書: 「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書: 「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>

評価
平常点 (10%) ならびに各回での作成課題 (20%)、最終課題 (70%) を重視し総合的に行う。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目: ウェブデザイン演習, ウェブプログラミング, UIデザイン概論, コンテンツマネジメント論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人工知能概論	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい スマートフォンや自動車、Webサービスなど、社会のあらゆる分野において人工知能は重要な役割を担うようになりました。そこにはディープラーニングという技術の存在があります。本講義では講義と演習を通して、ディープラーニングの原理を学びます。	メッセージ 講義だけでなく、実際にコードを書いたり、デバッグしたりと多くの時間がかかりますが、演習を通じてより深く理解していきましょう。
	到達目標 ・Python の基礎を理解し、説明できる。 ・ディープラーニングやその基礎となる理論を理解し、説明できる。 ・ディープラーニングを利用し、その方法を説明できる。 ・ディープラーニングの応用例について理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	Python入門	
		時間外学習の内容	
	3	パーセプトロン (1) パーセプトロンとは	ガイダンスの理解・教科書の通読
	4	パーセプトロン (2) 多相パーセプトロン	教科書の理解と課題の提出
	5	ニューラルネットワーク (1) パーセプトロンからニューラルネットワークへ	教科書の理解と課題の提出
	6	ニューラルネットワーク (2) 3層ニューラルネットワークの実装	教科書の理解と課題の提出
	7	ニューラルネットワークの学習 (1) データから学習する	教科書の理解と課題の提出
	8	ニューラルネットワークの学習 (2) 学習アルゴリズムの実装	教科書の理解と課題の提出
	9	誤差逆伝播法 (1) 計算グラフ	教科書の理解と課題の提出
	10	誤差逆伝播法 (2) 活性化関数レイヤの実装	教科書の理解と課題の提出
	11	学習に関するテクニック (1) パラメータの更新	教科書の理解と課題の提出
	12	学習に関するテクニック (2) 正則化	教科書の理解と課題の提出
	13	畳み込みニューラルネットワーク	教科書の理解と課題の提出
	14	ディープラーニング	教科書の理解と課題の提出
	15	総括	教科書の理解と講義の振り返り
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト ・斎藤 康毅「ゼロから作るDeep Learning」 (2016)		
	学びの手立て ・Python の理解に努めましょう。 ・演習を通して、深い理解に繋げましょう。 ・複雑な理論も、焦らずじっくり時間を掛けて理解しましょう。		
	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において学んだディープラーニングの原理を足がかりに、最先端技術の理解や自身のシステムの開発に役立てていきましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、専門技術の習得及びアニメーション表現とその構築方法に関する演習を行う。演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。
	到達目標 ・アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基礎技術の習得・課題の提出
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	7	アニメーション表現 (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	9	リギング (1) 基本構造	基礎技術の習得・課題の提出
	10	リギング (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、専門技術の習得及びアニメーション表現とその構築方法に関する演習を行う。演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。
	到達目標 アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基礎技術の習得・課題の提出
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	7	アニメーション表現 (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	9	リギング (1) 基本構造	基礎技術の習得・課題の提出
	10	リギング (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	---



※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に、暗号化とセキュリティがあります。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セキュリティ概論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、社会的に深刻なものとなってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法、そして近未来の量子暗号まで、それらの概要を学ぶことをねらいとしている。</p>	<p>私達は、知らず知らずのうちに暗号化技術を利用しています。暗号化技術を知ることが、高度情報社会を知ることと個人情報の大切さを理解することになります。</p>
到達目標	R S A公開鍵暗号方式とエルガマル暗号方式における暗号化と復号を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ギリシア・ローマ時代の暗号（シーザー暗号、スキュレータ）	Google Classroomファイル1
	2	江戸時代の暗号（上杉暗号）	Google Classroomファイル2
	3	第二次世界大戦と暗号技術（赤／紫暗号、エニグマ）	Google Classroomファイル3
	4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）	Google Classroomファイル4
	5	情報セキュリティの登場	Google Classroomファイル5
	6	社会基盤としての暗号	Google Classroomファイル6
	7	現代社会と暗号利用（電子マネー、電子決済、デジタル放送など）	Google Classroomファイル7
	8	DES型暗号	Google Classroomファイル8
	9	共通鍵暗号	Google Classroomファイル9
	10	公開鍵暗号	Google Classroomファイル10
	11	素数と余りと法の世界	Google Classroomファイル11
	12	R S A暗号方式	Google Classroomファイル12
	13	エルガマル暗号方式	Google Classroomファイル13
14	電子署名・ハッシュ関数／ハッシュ値	Google Classroomファイル14	
15	未来の暗号と量子暗号方式	Google Classroomファイル15	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、Google Classroomに講義動画と講義のPDFファイルがアップロードされます。また参考となる資料も、pdf形式やパワーポイント形式、あるいは動画でアップロードされます。</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義において、Google Classroomにアップロードされる電子ファイルを参照すること。</p>		
評価	<p>毎回の課題の提出：100%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>最適化概論。専門演習。情報処理システム演習。卒業論文演習。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。</p>	<p>本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。</p>
到達目標	システム開発プロセスについて理解し、Webアプリの開発に必要な技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス/受講受付	演習課題の整理
	2	(対) 演習課題(i)の設定	要件定義の調査/演習課題の整理
	3	(対) 要件定義	基本設計の調査/演習課題の整理
	4	(対) 基本設計	詳細設計の調査/演習課題の整理
	5	(対) 詳細設計	テストの調査/演習課題の整理
	6	(対) 開発テスト	演習課題の整理
	7	(対) コーディング	演習課題の整理/発表資料の作成
	8	(対) 発表会(i)および演習課題(ii)の設定	レイアウトの調査/演習課題の整理
9	(対) Webアプリのレイアウト	UIの調査/演習課題の整理	
10	(対) WebアプリのUI	画像表示の調査/演習課題の整理	
11	(対) Webアプリの画像表示	画面遷移の調査/演習課題の整理	
12	(対) Webアプリの画面遷移	データ管理の調査/演習課題の整理	
13	(対) Webアプリのデータ管理	デバイス制御調査/演習課題の整理	
14	(対) Webアプリの公開	演習課題の整理/発表資料の作成	
15	(対) 発表会(ii)	演習課題の整理	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著 「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 永田順伸 著 「PHP7+MariaDB/MySQL マスターブック」, マイナビ</p> <p>(3) 大重美幸 著 「詳細!Swift4 iPhoneアプリ開発 入門ノート」, ソーテック</p>		
学びの手立て	<p>「履修の心構え」</p> <p>遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」</p> <p>指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>		
評価	基本的に欠席は認めない。発表(2割), 演習試験(8割)で判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次のステージとして「専門演習Ⅰ」, 「専門演習Ⅱ」がある。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail : sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Pythonによるプログラミングを通して問題解決能力の養成、基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また、プログラミングのみならずフィジカルコンピューティングについても検討を行っていく。	メッセージ 授業の最終日までに、ITパスポート試験、または、CG-ARTS協会マルチメディア検定ベーシック以上を合格するようにしてください。最後には各自で課題作成に取り組み、ゼミ内で発表会を行います。
	到達目標 Pythonに関する一般的な知識を有し、小規模なプログラムが適切に書ける。ITに関する基礎的な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特)オリエンテーション・Pythonプログラミングの基礎 (1)
	2	(対)Pythonプログラミングの基礎 (2) 制御構文1
	3	(特)Pythonプログラミングの基礎 (3) 制御構文2
	4	(対)Pythonプログラミングの基礎 (4) リスト
	5	(特)Pythonプログラミングの基礎 (5) 辞書型
	6	(対)Pythonプログラミングの基礎 (6) 関数
	7	(特)Pythonの理解度確認
	8	(対)ゲームを作ってみよう (1) 図形描画
	9	(特)ゲームを作ってみよう (2) 迷路ゲーム
	10	(対)ゲームを作ってみよう (3) アクションゲーム
	11	(特)機械学習に挑戦してみよう (1) アヤメの分類
	12	(対)機械学習に挑戦してみよう (2) 手書き文字認識
	13	(特)機械学習に挑戦してみよう (3) 写真判定
	14	(対)個人製作によるシステムの企画・開発 (1)
15	(特)個人製作によるシステムの企画・開発 (2)	
16	(対)最終発表会	
テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】クジラ飛行機「ゼロからやさしくはじめるPython入門」マイナビ出版 (2018) 【参考文献】金宏和實「はじめるPython! ゼロからのゲームプログラミング」日経BP (2018) 廣瀬豪「Pythonでつくる ゲーム開発 入門講座」ソーテック社 (2019) 柴田淳「みんなのPython 第4版」SBクリエイティブ (2016) 増田知彰「図解速習DEEP LEARNING」シーアンドアール研究所(2019)		
学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。 演習時間以外にも課外活動(情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等)を紹介しますので、積極的に参加するようにしましょう。		
評価 評価は演習中の課題(50%)、資格取得および模擬試験(50%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる  
技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能の基礎部分を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を傳達する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) C#スクリプトの基礎	教科書 pp. 54-115・課題の実施
	3	(特) オブジェクトの配置と動かし方	教科書 pp. 116-149・課題の実施
	4	(特) UIと監督オブジェクト	教科書 pp. 150-185・課題の実施
	5	(特) Prefabと当たり判定	教科書 pp. 186-239・課題の実施
	6	(特) Physicsとアニメーション	教科書 pp. 240-315・課題の実施
	7	(特) 3Dゲームの作り方	教科書 pp. 316-369・課題の実施
	8	(特) レベルデザイン	教科書 pp. 370-441・課題の実施
	9	(特) 自主製作進捗報告 (1)	課題の実施
	10	(特) 自主製作進捗報告 (2)	課題の実施
	11	(特) 自主製作進捗報告 (3)	課題の実施
	12	(特) 自主製作進捗報告 (4)	課題の実施
	13	(特) 自主製作進捗報告 (5)	課題の実施
14	(特) 自主製作進捗報告 (6)	課題の実施	
15	(特) 自主製作進捗報告 (7)	課題の実施	
16	(特) 自主製作進捗報告 (8)	課題の実施	
テキスト・参考文献・資料など	北村愛実 (2020) . Unityの教科書 Unity 2020完全対応版 SBクリエイティブ		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・受講には Google Meet, Zoom, Unity の実行環境を要する。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を傳達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、3年次の専門演習 I (必修科目) への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	各課題 (100%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習は、後の必須科目である、専門演習 I, 専門演習 II, 卒業論文演習 I, 卒業論文演習 II へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、情報技術に関する基礎知識をベースとして、デジタル技術を活用したコンテンツ制作及びメディア表現（コンピュータグラフィックス、映像メディア、Web技術、デザイン等）に必要な知識と技能習得を目的とする。	【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、CG技術ならびにメディア等の関連技術に関する演習を行う。本演習では、コンテンツ制作に必要な基礎知識ならびに技術習得を目指すため、講義外での取り組みが必要となる。また資格取得などに積極的に取り組むこと。
到達目標	情報技術及びメディア等に関する基礎技術を学び、デジタルコンテンツ制作に必要な基本技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(対) メディア概論	講義の理解及び復習
	3	(対) メディア表現演習 (1) 基礎技術と表現	講義の復習・演習課題作成
	4	(対) メディア表現演習 (2) 応用課題	講義の復習・演習課題作成
	5	(対) コンピュータグラフィックス概論	講義の理解及び復習
	6	(対) コンピュータグラフィックス基礎 (基礎技術と機能)	講義の復習・演習課題作成
	7	(対) コンピュータグラフィックス応用 (表現と活用)	講義の復習・演習課題作成
	8	(対) 開発環境と技術 (開発プロセスと機能)	講義の復習・演習課題作成
	9	(対) 基礎技術 (条件とアニメーション実装)	講義の復習・演習課題作成
	10	(対) 技術の応用 (UIとシステム構築)	講義の復習・演習課題作成
	11	(対) Web技術と表現 (1) 基礎技術	講義の復習・演習課題作成
	12	(対) Web技術と表現 (2) 動的表現	講義の復習・演習課題作成
	13	(対) Web技術と表現 (3) システムと応用	講義の復習・演習課題作成
14	(対) 技術とデザイン (1) 基礎技術	課題制作	
15	(対) 技術とデザイン (2) 応用課題	課題制作	
16	(対) 総括・発表プレゼンテーション	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	初回の講義で周知する。		
学びの手立て	個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。		
評価	評価は、平常点 (20%) 及び課題への取り組みや成果等 (80%) を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「専門演習 I」, 「専門演習 II」がある。
-------	---

※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	空き時間にSNSソフト「Zoom」で受け付けるので、メールで予約してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業はゼミ生同士の交流を促し、1つのチームとして協働できるようになることを目的とします。</p> <p>◆そのため与えられた課題に対して【チーム】で協力し合って取り組むことを求めます。</p>	<p>◆開講初期は活動テーマを与えてそれに取り組んでもらいますが、最終的にはゼミ生が活動テーマを設定し、計画的に実施できるようになることを目指します。活動テーマは自由ですが【ゼミ全体での合意形成】を条件とします。</p> <p>◆感染症の動向により、活動が中止されたり、オンラインでの実施に切り替えられたりする場合があります。</p>
到達目標	<p>●各自が自主的に活動や相互扶助に取り組むことを通じて、互いに信頼関係を結ぶことができるようになる（終了時のアンケートで評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 受講ガイダンス	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(対) チーム編成とアイスブレイク	自己紹介の準備をする
	3	(対) 研究テーマの選定	研究テーマを選ぶ
	4	(対) 問いの立て方	問いを立てる
	5	(対) 仮説の導出	仮説を導く
	6	(対) 研究テーマ発表用資料の作成	発表資料を作成する
	7	(対) 研究テーマ発表・検討会	発表の準備をする
	8	(対) 研究テーマの精緻化	研究テーマを確定する
	9	(対) 小論文の書き方	小論文の書き方を学ぶ
	10	(対) 小論文の執筆	小論文を執筆する
	11	(対) 小論文の添削	小論文を完成させる
	12	(対) 小論文発表	発表の準備をする
	13	(対) 自己PRの書き方	自己PRの書き方を学ぶ
14	(対) 自己PRの執筆	自己PRを執筆する	
15	(対) 自己PRの添削	自己PRを完成させる	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。</p>			
学びの手立て			
<p>◆この授業の受講者は、基本的に卒業までの2年半を共に学ぶこととなります。その過程で就職活動と卒業研究に取り組み、内定を得ると同時に卒業論文を完成させる必要に迫られます。これらはいずれも長く困難な取り組みであり、また各自が自力で乗り越えなければならない試練でもあります。その苦しみや達成感を共有できるのは教員ではなく、同じ境遇にある【ゼミメンバー】です。</p> <p>◆このことを念頭に、この授業では教員の指示がなくても他者と支え合い、チームとして自主的・自律的に行動できるようになることを重視します。そのため、ゼミ生からの提案に応じて授業内容を変更する場合があります。</p>			
評価			
●終了時のアンケート100%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：専門演習Ⅰ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	2年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データ分析を行うための基礎知識（統計学、回帰分析等）の習得を目指す。	メッセージ 現在、私達は様々な問題に直面している。その中から各自の気になる社会問題を取り上げ、分析し、報告ができるようにする。
	到達目標 ①社会問題の分析ができる。 ②分析方法について理解する。 ③データを入手・利用できる。 ④分析結果等を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)イントロダクション	講義内容の確認
	2	(対)輪読①	指定図書の前読、発表準備
	3	(対)輪読②	指定図書の前読、発表準備
	4	(対)輪読③	指定図書の前読、発表準備
	5	(対)輪読④	指定図書の前読、発表準備
	6	(対)輪読⑤	指定図書の前読、発表準備
	7	(対)輪読⑥	指定図書の前読、発表準備
	8	(対)輪読⑦	指定図書の前読、発表準備
9	(対)輪読⑧	指定図書の前読、発表準備	
10	(対)輪読⑨	指定図書の前読、発表準備	
11	(対)輪読⑩	指定図書の前読、発表準備	
12	(対)テーマの設定・データの入手①	テーマの設定・データの入手	
13	(対)テーマの設定・データの入手②	テーマの設定・データの入手	
14	(対)テーマの設定・データの入手③	テーマの設定・データの入手	
15	(対)プレゼンテーション	プレゼン準備	
16	(対)プレゼンテーション・総括	プレゼン準備	
	テキスト・参考文献・資料など 授業初めに図書を指定する。参考書は下記を勧める。 ①小島寛之(著)『統計学入門 完全独習』ダイヤモンド社 ②白砂堤津耶(著)『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社 ③田中隆一(著)『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 ④Jeffrey M. Wooldridge 『Introductory Econometrics: A Modern Approach 7th Edition』Cengage		
	学びの手立て ※本講義は、対面授業の形式で行う。授業では、ポータル及びTeamsを使って連絡することがあるので、両方が確認できるように準備してください。(Teamsは後ほどチームを作る。)ただし、オンライン授業に変更する時は、事前に連絡する。 ①毎回必ず出席してください。わからない点等は、遠慮なく質問してください。 ②輪読は担当箇所を指定する。 ③授業中の私語・スマホの利用等は、許可がない限り禁止とする。 ④わからない点、聞き逃した点、確認したい点等があれば、遠慮なく質問してください。 ⑤オフィスアワーを積極的に活用してください。		
	評価 ①授業参加度及び課題(50%)、プレゼン等(50%)で評価する。 ②評価は大学の基準に従う。 ③評価方法を変更する場合は、事前に連絡する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：演習I・II、データ解析論I・II等 関連科目：応用ミクロ経済学I・II、応用マクロ経済学I・II、産業連関論等
-------	---

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を持ち、  
解決力、創造力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	授業終了後に教室で受付けます。それ以外は研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割を果たすべきなのかについて研究することです。沖縄県は、地域経済と自治体財政が深い関係にあります。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習します。次に、沖縄の振興と財政の役割について学習します。</p>	<p>身近な沖縄県の経済、産業について学び、さらに経済や地域を振興していくにはどうすればよいかいっしょに考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①基本的な情報収集力、情報の取捨選択力を見につける ②取捨選択した情報を読み取る能力を身につけ、テーマを設定する力をつける ③課題レポートに取り組み、テーマ設定、論理展開力、プレゼンテーション力を高める</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 専門演習基礎の概要説明	配布資料を復習する
	2	(対) 日本経済の概要①	参考文献①を読む
	3	(対) 日本経済の概要②	参考文献①を読む
	4	(対) 沖縄県経済の概要①	参考文献②、③を読む
	5	(対) 沖縄県経済の概要②	参考文献②、③を読む
	6	(対) 沖縄県経済の概要③	参考文献②、③を読む
	7	(対) 地域振興と財政①	参考文献④P105-P119を読む
	8	(対) 地域振興と財政②	参考文献④P105-P119を読む
	9	(対) 沖縄振興計画①	参考文献④P105-P119を読む
	10	(対) 沖縄振興計画②	参考文献④P105-P119を読む
	11	(対) プレゼンテーションの要領①	プレゼンテーションの準備を行う
	12	(対) プレゼンテーションの要領②	プレゼンテーションの準備を行う
	13	(対) プレゼンテーション①	プレゼンテーションを行う
14	(対) プレゼンテーション②	プレゼンテーションを行う	
15	(対) プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	
16	(対) プレゼンテーションの総括	成果と課題を確認する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>第一回の演習の時間に説明します。資料は印刷物、PDFファイルとして配布する予定です。</p> <p>①『経済財政白書』内閣府、各年版 ②『沖縄県経済の概況』内閣府、各年版 ③『沖縄：新たな挑戦 経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ④『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>①授業中の私語、 아이폰等の機器の使用はやめてください。 ②日頃から、日本経済や沖縄県経済の情報について関心をもってください。新聞やテレビ、インターネット上に有益な情報があります。</p>		
評価	<p>授業参加度60%、課題の提出状況20%、プレゼンテーションの内容20%の割合で評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 パブリックファイナンス、地域財政論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---



※ポリシーとの関連性

社会に必要な問題発見能力・分析力を養うため、基本的な情報処理技術を習得し、問題解決力および解決策を導き出す創造力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」を設定している。この試験と連動した形で講義を進め、情報技術を学ぶ。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な情報技術（プログラミング、データベース、ネットワーク関連等）の知識を得て、自分で個別テーマの選定をできるレベルまで引き上げる。どのようなツールや技術を用いれば、どのような事ができるのかなど、ウェブアプリケーションやスマホ・タブレット用のアプリ開発などの準備や手順確認などを自力でできるようにする。</p>	<p>演習科目なので基本的に欠席は認めない。皆出席を求める。1年、2年前期で学んだ情報技術および経済経営の知識を生かして、より実践的なアプローチをスタートさせる。積極的に講義参加する姿勢が重要である。高いモチベーションを持って望んで欲しい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	ウェブサイト等のアカウント作成
	2	(対) 情報処理技術基礎 1	課題問題
	3	(特) 情報処理技術基礎 2	課題問題
	4	(対) 情報処理技術基礎 3	課題問題
	5	(特) システム設計とは？	内容の復習
	6	(対) プログラミングの課題 1	内容の復習
	7	(特) プログラミングの課題 2	内容の復習
	8	(対) プログラミングの課題 3	課題レポート
	9	(特) データベース設計 1	内容の復習
	10	(対) データベース設計 2	内容の復習
	11	(特) データベース設計 3	内容の復習
	12	(対) データベース設計 4	課題レポート
	13	(特) ネットワーク関連技術 1	内容の復習
14	(対) ネットワーク関連技術 2	課題レポート	
15	(特) 個別テーマの設定	個別テーマプレゼン準備	
16	(対) 試験 個別テーマ提案プレゼン	プレゼンの考察	
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
	学びの手立て	卒業研究のテーマ選びがこの講義のメインテーマである。そのためには、色々な知識や技術を修得しなければならない。様々な技術やツールを学び、次のステップに進んで欲しい。	
	評価	評価は課題レポートとプレゼンテーションで50%、資格取得および模擬試験50%で判断する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この講義で得た知識や技術をベースに3年次の専門演習 I および専門演習 II での個別研究を進めていく。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行う。 (1) テーマ絞り込みのための調査研究 (2) テーマに沿った研究	各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。		
学びの準備	到達目標	テーマに沿った研究成果の報告書の提出。2月末。		
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		授業計画 (テーマ・時間外学習の内容を含む)		
		第1週 : 専門演習基礎のガイダンス、ならびに専門演習ならびに卒業論文演習への取り組みについて 第2～8週 : テーマに沿った調査研究を行い、2～3回ほどプレゼンテーションをしてもらう。 第9～15週 : テーマに沿った研究成果の報告をし、報告書作成に向けての取り組みについて議論する。 第16週 : 報告書の提出		
		第2週から15週までは、発表・報告者のそれぞれが設定したテーマに沿って調査した内容を発表、あるいは報告してもらう。目安として、発表・報告者は10分ほどの説明を用意し、その後、課題ならびに方向性について議論する。  その他 : 学外ゼミとして、外国の調査を行うことがある (今までの例: ファストファッション、コピー商品、売り場の設定、貧富の差などの生活環境など)。  時間外学習の内容: 各自、個別のテーマに関する取り組みを行ってもらう。		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	各自のテーマに沿った、資料など。		
	学びの手立て	常にグローバル社会について関心を払うこと。また、グローバル社会を支えている最新技術動向、グローバル社会そのものにも関心を持つこと。		
	評価	授業態度: 20%。提出物: 40%。プレゼンテーション: 40%。 授業態度: 他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない (例: おしゃべり等)。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	専門演習 I、II。卒業論文演習 I、II。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>講義当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の習得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を期待します。また本演習は、続く「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の基盤を形成する大切な科目であることに留意してもらいたいと考えます。</p>	<p>毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、演習時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。</p>
到達目標	<p>①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	3	コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用）	講義の振り返り、レポート作成
	4	マルチメディア①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	5	マルチメディア②（企業システムへの応用）	配布資料及びテキストの熟読
	6	システム部門で必要とされるハードウェアの知識①	配布資料及びテキストの熟読
	7	システム部門で必要とされるハードウェアの知識②	講義の振り返り、レポート作成
	8	データベース・システム①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	9	データベース・システム②（企業システムにおけるDBの役割）	講義の振り返り、レポート作成
	10	データベース・システムの設計	配布資料及びテキストの熟読
	11	データベース・プログラミング①	プログラミング課題への取り組み
	12	データベース・プログラミング②	プログラミング課題への取り組み
	13	システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識	配布資料及びテキストの熟読
14	企業内ネットワーク・システムの知識	配布資料及びテキストの熟読	
15	企業内情報システムの問題解決技法	配布資料及びテキストの熟読	
16	データの集計と統計処理技法	配布資料及びテキストの熟読	
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。                  栢木 厚『イメージ&amp;クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』技術評論社                  城田 比佐子『情報処理教科書 出るところだけ! ITパスポート』翔泳社                  五十嵐 聡『ITパスポートパーフェクトラーニング過去問題集』技術評論社</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。                  ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。                  ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。                  ④ 演習内容に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
評価	<p>演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)、各種情報関連資格の取得状況等(10%)に基づき総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	空き時間にSNSソフト「Zoom」で受け付けるので、メールで予約してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆専門演習 I と II を通して学術研究の方法を学び、研究テーマを設定して調査・分析を行っていただきます。研究結果は専門演習 II の最終回までに「研究ノート（卒業研究の土台となる論文）」にまとめてもらいます。</p>	<p>◆研究は「調べ学習」ではなく、何らかの問題を解決するために調査・分析・提言を行うことです。そのため「興味のあること（好きなこと）」ではなく、「不便だと思うこと」「問題だと思うこと」「疑問に思うこと」など、解決が必要な事柄をテーマとして選定してください。</p>
到達目標	<p>①研究テーマを設定し、問いを立てて仮説（持論）を導くことができる（研究ノートで評価） ②研究ノートの執筆に必要な水準の文献調査・情報収集・データ分析を行うことができる（個別指導で評価）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/ゼミ方針の確認	ゼミ合宿の企画案を作成する
	2	(特) 研究のテーマ設定	個別指導を受けて研究を進める
	3	(特) 先行研究分析	個別指導を受けて研究を進める
	4	(特) 先行研究分析の結果発表	個別指導を受けて研究を進める
	5	(特) 問い立てと仮説の導出	個別指導を受けて研究を進める
	6	(特) 研究指導 1	個別指導を受けて研究を進める
	7	(特) 研究指導 2	個別指導を受けて研究を進める
8	(特) 研究指導 3	個別指導を受けて研究を進める	
9	(特) 研究指導 4	個別指導を受けて研究を進める	
10	(特) 研究指導 5	個別指導を受けて研究を進める	
11	(特) 研究指導 6	個別指導を受けて研究を進める	
12	(特) 研究指導 7	個別指導を受けて研究を進める	
13	(特) 研究指導 8	個別指導を受けて研究を進める	
14	(特) 研究指導 9	個別指導を受けて研究を進める	
15	(特) 研究指導 10	個別指導を受けて研究を進める	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>※新型コロナウイルスの流行に伴い、特例授業（SNSによる遠隔授業や個別指導）を行います。したがって遠隔授業や個別指導の受講をもって出席となるため、欠席6回以上による単位の未認定に注意してください。</p>		
評価	<p>①研究ノート50% ②個別指導50%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習基礎、専門演習 II、卒業論文演習 I・II 次のステージ：専門演習 II</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、  
解決力、創造力を養成します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。それ以外は研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめてプレゼンテーションを行います。各自でテーマをしばり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これによって4年次の卒業論文演習で論文をまとめる際の基本的事項を学びます。	メッセージ 沖縄県の経済や産業について学び、地域の振興をはかるにはどうするかいっしょに考えていきましょう。
	到達目標 ①学習した内容から、各自の研究テーマを設定する能力を身につける ②多くの情報の中から、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力をつける ③レポート・論文計画を作成することにより、テーマの設定、論理展開、情報の取集・分析、情報をまとめる能力を身につける ④レポートの報告を通じて、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を高める	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 沖縄県の経済①	参考文献③を読む
	2	(特) 沖縄県の経済②	参考文献④を読む
	3	(特) 沖縄振興計画①	参考文献①P105-P119を読む
	4	(特) 沖縄振興計画②	参考文献①P105-P119を読む
	5	(特) 沖縄振興計画③	参考文献①P105-P119を読む
	6	(特) 論文計画の作成①	各自で論文計画を作成する
	7	(特) 論文計画の作成②	各自で論文計画を作成する
	8	(特) 論文計画の作成③	各自で論文計画を作成する
	9	(特) 情報収集・整理・分析①	図書館・HPを利用して情報収集
	10	(特) 情報収集・整理・分析②	図書館・HPを利用して情報整理
	11	(特) 情報収集・整理・分析③	収集・整理した情報の分析を行う
	12	(特) 論文計画のプレゼンテーション①	論文計画のプレゼンテーション
	13	(特) 論文計画のプレゼンテーション②	論文計画のプレゼンテーション
	14	(特) 論文計画の修正①	各自で論文計画を修正する
15	(特) 論文計画の修正②	各自で論文計画を修正する	
16	(特) 演習の総括	論文計画の総点検を行う	
	テキスト・参考文献・資料など 演習の時間に随時、参考文献を紹介し、また資料を配布します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『沖縄新たな挑戦経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ③『沖縄経済の概況』内閣府HP、各年版 ④『県経済の見通し』沖縄県庁HP、各年版		
	学びの手立て ①授業中の私語、 아이폰等の機器の使用はやめて下さい。 ②ゼミの連絡はメールで行いますが、きちんと確認してください。 ③沖縄県の経済、産業を中心として各自が取り組みたいテーマを絞っていきます。各自が関心のある分野を探つてテーマ設定を行ってください。		
	評価 授業参加度50%、課題の取り組み状況30%、プレゼンテーション等20%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II、パブリックファイナンス、地域財政論 I・II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、専門演習基礎で学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら説明していく。	演習科目なので基本的に欠席は認めない。皆出席を求める。夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどを取り上げる。個別研究テーマを掘り下げるといふメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。
到達目標	基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	システム環境準備
	2	システム設計系卒論の説明	考察
	3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明	考察
	4	卒業論文と就職希望業種との連携	考察
	5	eラーニングコンテンツの説明	考察
	6	過去の卒論内容紹介 1	考察
	7	過去の卒論内容紹介 2	考察
	8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について	履歴書、エントリーシート課題
	9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？	履歴書、エントリーシート課題
	10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 1	個別テーマの考察
	13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 2	個別テーマの考察
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 3	個別テーマの考察	
15	卒業論文中間発表 1	他の学生のテーマについて考察	
16	卒業論文中間発表 2 および総括	他の学生のテーマについて考察	
実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
	学びの手立て	将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力（情報技術や経済経営の知識、考える力）を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。	
	評価	個別プレゼンテーションの内容60%と課題レポート（もしくは試験）40%で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の専門演習Ⅱにつなげていく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、卒業論文の執筆、成果発表のための基本となる演習内容となります。具体的には、卒業論文の主題設定、研究資料の収集・整理、データの収集・解析を通し卒業論文に必要となる多岐にわたる情報の活用技術について学び、続く報告書の作成において論文執筆に向けた文章力の獲得、さらに報告書にてまとめ上げた内容の適切なプレゼンテーションによる発表力の養成にあたります。</p>	<p>毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、演習時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。</p>
到達目標	<p>①研究資料の収集が的確に行える。                  ②研究データの図形処理、統計処理が行える。                  ③資料・データに基づいた報告書が作成できる。                  ④報告書に基づく必要かつ十分なプレゼンテーションが行える。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	研究資料の収集方法①	配布資料及びテキストの熟読
	3	研究資料の収集方法②	配布資料及びテキストの熟読
	4	研究資料の収集方法③	配布資料及びテキストの熟読
	5	データの整理と解析手法①	配布資料及びテキストの熟読
	6	データの整理と解析手法②	配布資料及びテキストの熟読
	7	データの整理と解析手法③	配布資料及びテキストの熟読
8	資料に基づく調査結果報告①	当該演習の振り返り、報告書の作成	
9	資料に基づく調査結果報告②	当該演習の振り返り、報告書の作成	
10	資料に基づく調査結果報告③	当該演習の振り返り、報告書の作成	
11	資料に基づく調査結果報告④	発表練習とパワーポイントの作成	
12	資料に基づく調査結果報告⑤	発表練習とパワーポイントの作成	
13	専門演習 I 発表会①	発表練習とパワーポイントの作成	
14	専門演習 I 発表会②	発表の振り返り、見直しと改善	
15	専門演習 I 発表会③	発表の振り返り、見直しと改善	
16	発表会の総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・佐藤 望他「アカデミック・スキルズ(第2版)」慶應義塾大学出版会(2012)                  ・柳川 範之「東大教授が教える独学勉強法」草思社文庫(2017)                  ・野村 進「調べる技術・書く技術」講談社新書(2008)</p> <p>適宜、各自の取り組む課題にふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
評価	<p>演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する(知の発見)！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に専門演習Ⅱおよび卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1~2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。</li> <li>(4) プレゼンの能力を高める。</li> <li>(5) 卒業論文構想の確定。</li> </ul>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	3	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	4	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	5	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	6	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	7	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	8	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	9	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	10	研究テーマ関連の文献精査と研究報告	文献精査、報告内容の準備
	11	研究テーマ関連の文献精査と研究報告	文献精査、報告内容の準備
	12	研究テーマ関連の文献精査と研究報告	文献精査、報告内容の準備
	13	研究テーマ関連の文献精査と研究報告	文献精査、報告内容の準備
	14	研究テーマ関連の文献精査と研究報告	文献精査、報告内容の準備
15	卒論研究構想報告	卒論研究構想の作成	
16	総括		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点：50% (普段の学習態度、学習状況など) 課題点：50% (提出課題・卒論構想の内容など)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 3年次の専門演習Ⅱ</p>
-------	----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	専門演習 I・II、卒業論文演習 I・II は、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 対面講義の場合、30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。

到達目標	卒業論文演習までの全体の半分を終了する。
------	----------------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容を含む)</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容を含む)</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。今後、それに続いて、テーマに沿った研究 (必要なら新しいよう紗、あるいは再調査) をこの専門演習 I で行い、その結果を専門演習 II に引き継ぎます。この専門演習 I でテーマを確立しておくことを勧めます。</p> <p>第1週 : 専門演習のガイダンス、ならびに専門演習 II ならびに卒業論文演習 I・II への取り組みについて                  第2～15週 : テーマに沿った研究の進捗状況の報告を行い、2～3回ほどプレゼンテーションをしてもらう。                  また、卒業論文作成に向けての取り組みについて議論する。                  第16週 : 報告書の提出</p> <p>第2週から15週までは、発表・報告者のそれぞれが設定したテーマに沿って研究した内容を発表、あるいは報告してもらう。目安として、発表・報告者は10分ほどの説明を用意し、その後、課題ならびに方向性について議論する。</p> <p>その他 : 学外ゼミとして、外国の継続調査、あるいは比較調査を行うことがある (今までの例: タイと台湾のファストファッション、コピー商品などの比較調査)。</p> <p>時間外学習の内容: 各自、個別のテーマに関する取り組みを行ってもらう。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	各自のテーマに沿った文献。論文など。

学びの手立て	まじめにコツコツやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。
--------	---

評価	数回、個々の定めたテーマに関する提出物: 100%。
----	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II。卒業論文演習 I、II
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある課題テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の課題テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>(2-13週目) 進捗報告 ～ 課題テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>(14週目) 発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>(15週目) 発表会 時間外の学習内容：課題成果物の整理</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。発表(4割)、課題成果物(6割)で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	メール(ikemiyagi@okiu.ac.jp), または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>回帰分析に関わるExcel計算を各自で実行できるようになる。 貨幣需要関数の計量経済分析を通じて金融経済を理解する。</p>	<p>Excelを利用した計量経済分析を習得するだけでなく、金融経済の学習に興味が続くよう、工夫します。</p>
到達目標	<p>回帰分析の結果を解釈して文章で説明できる。 ダミー変数を利用した計算結果を説明できる。 実証分析の結果を報告・ディスカッションできる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読む
	2	専門演習基礎の復習	Excelファイルを復習する
	3	マネタリー・ベースとコールレートを調べる①	散布図と計算結果を対応
	4	マネタリー・ベースとコールレートを調べる②	計算結果を理解し、記述する
	5	貨幣需要関数を学ぶ①：回帰分析	参考文献[3]第10章を読む
	6	貨幣需要関数を学ぶ②：計算結果を理解する	参考文献[3]第10章を読む
	7	ダミー変数を使う①：定数項ダミー	参考文献[4]第7章を読む
	8	ダミー変数を使う②：係数ダミー	参考文献[4]第7章を読む
	9	学習内容の復習1	学んだ内容を記述できるように
	10	実証分析を行う①：データを紹介する、選ぶ。	データ収集の方法を復習する
	11	実証分析を行う②：分析の背景を学ぶ	経済学的な背景を復習する
	12	実証分析を行う③：計算結果を記述する	計算結果を解釈する
	13	実証分析を行う④：分析結果を発表する - 1	記述内容を加筆・修正する
14	実証分析を行う⑤：分析結果を発表する - 2	記述内容を加筆・修正する	
15	学習内容の復習2	学んだ内容を再現できるように	
16	総括の時間		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。</p> <p>参考文献  [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。  [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。  [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。  [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 ― Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。</p>		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。</li> <li>学びを深めるために：Excel計算とWord記述の学習内容をつなげること。Excel計算の手順、Word記述の内容を確認しなおすことで到達目標の達成を目指す。</li> <li>実習の各内容について、受講生の達成度を調べ、解説する時間を設ける。</li> </ol>		
評価	<p>課題発表30%：実証分析の結果を報告・ディスカッションできるかを測る。  提出課題30%：実証分析の結果を解釈・記述できるかを測る。  実習成果20%：学習したExcel計算を各自で実行できるかを測る。  平常点20%：身につけることを前提に実習しているかを測る。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、③計算結果を理解する演習を続けます。  関連科目として、「ビジネス情報分析 I・II」、「データ解析論 I・II」、「ファイナンシャルエコノミクス I・II」を受講しておくとう良いでしょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail : sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。	原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

到達目標	卒業研究を行うにあたり、基礎的な技術修得、ならびに、文献検索などの情報収集能力を修得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス・研究とは	テキスト・関連資料をよく読む
	2	(対) 理科系の作成技術 (1)	テキスト・関連資料をよく読む
	3	(対) 理科系の作成技術 (2)	テキスト・関連資料をよく読む
	4	(対) 理科系の作成技術 (3)	テキスト・関連資料をよく読む
	5	(対) 研究・論文とは	研究テーマの検討
	6	(対) 問題意識・研究計画とは	研究テーマの検討
	7	(対) 先行研究の調べ方 (1)	研究テーマの検討
	8	(対) 先行研究の調べ方 (1)	研究テーマの検討
	9	(対) 評価方法の検討方法 (1)	研究テーマの検討
	10	(対) 評価方法の検討方法 (2)	研究テーマの検討
	11	(対) 個別報告 (1)	調査研究・システム開発
	12	(対) 個別報告 (2)	調査研究・システム開発
	13	(対) 個別報告 (3)	調査研究・システム開発
	14	(対) 個別報告 (4)	調査研究・システム開発
15	(対) ゼミ内発表会 (1)	発表準備	
16	(対) ゼミ内発表会 (2)	発表準備	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：久間月慧太郎，木下是雄「まんがでわかる 理科系の作文技術」中央公論新社（2018）</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木下是雄「理科系の作文技術」中央公論新社（1981）</li> <li>・酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」共立出版（2017）</li> <li>・酒井聡樹「これから学会発表する若者のために 第2版—ポスターと口頭のプレゼン技術—」共立出版（2018）</li> <li>・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）</li> </ul>
----	--

学びの手立て	<p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>
--------	---

評価	<p>評価は報告時のレポート・プレゼンテーション(80%)，講義中の課題(20%)の合計得点により行う。</p> <p>総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 II</p>
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる  
技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通告する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施	
9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施	
10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施	
11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施	
12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施	
13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施	
14	発表会 (1)	課題の実施	
15	発表会 (2)	課題の実施	
16	発表会 (3)	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通告する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の専門演習Ⅱ(必修科目)への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	論文 (50%) , プレゼンテーション (50%)		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、専門演習基礎で習得した技能、調査をもとに、各自がテーマを設定して個別の研究に取り組む。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組む。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。 ・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	研究テーマと資料収集 (1)	研究資料調査
	3	研究テーマと資料収集 (2)	研究資料調査
	4	研究テーマと資料収集 (3)	研究資料調査
	5	研究計画	研究計画の立案及び検討
	6	個別テーマに関する調査 (1)	計画に基づいた調査研究
	7	個別テーマに関する調査 (2)	計画に基づいた調査研究
	8	個別テーマに関する調査 (3)	計画に基づいた調査研究
	9	課題制作及び調査報告 (1)	計画に基づいた調査・課題制作
	10	課題制作及び調査報告 (2)	計画に基づいた調査・課題制作
	11	課題制作及び調査報告 (3)	計画に基づいた調査・課題制作
	12	課題制作及び調査報告 (4)	計画に基づいた調査・課題制作
	13	課題制作及び発表資料作成 (1)	発表資料の作成
	14	課題制作及び発表資料作成 (2)	発表資料の作成
15	研究成果中間発表	資料作成・発表	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。		
	学びの手立て 個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。		
	評価 評価は、平常点 (20%) 及び課題への取り組みや成果等 (80%) を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「専門演習 I」で設定した研究計画・テーマに基づいて、「専門演習 II」へと継続して取り組む。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「自分のテーマに沿った研究」を遂行すること以外にありません。	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について引き続き、自ら吸収し、切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 自分のテーマに沿った専門演習のテーマを発表してもらいます。	

学びの準備	ねらい 「自分のテーマに沿った研究」を遂行すること以外にありません。	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について引き続き、自ら吸収し、切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 自分のテーマに沿った専門演習のテーマを発表してもらいます。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容を含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。今後、それに続いて、テーマに沿った研究（必要なら新しいよう紗、あるいは再調査）を専門演習Ⅰで行っています。その結果をこの専門演習Ⅱに引き継ぎます。この専門演習Ⅱでは、研究の内容の深化を求めます。</p> <p>第1週 : 専門演習Ⅱのガイダンス、ならびに卒業論文演習Ⅰ・Ⅱへの取り組みについて 第2～15週 : テーマに沿った研究の進捗状況の報告を行い、2～3回ほどプレゼンテーションをしてもらう。また、卒業論文作成に向けての取り組みについて議論する。 第16週 : 報告書の提出</p> <p>第2週から15週までは、発表・報告者のそれぞれが設定したテーマに沿って研究した内容を発表、あるいは報告してもらう。目安として、発表・報告者は10分ほどの説明を用意し、その後、課題ならびに方向性について議論する。</p> <p>その他 : 学外ゼミとして、外国の継続調査、あるいは比較調査を行うことがある（今までの例：タイと台湾のファストファッション、コピー商品などの比較調査）。</p> <p>時間外学習の内容：各自、個別のテーマに関する取り組みを行ってもらう。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。最新技術動向の調査研究から、技術の習得。あるいは各種統計データから導かれる結論について、積極的に取り組んで自らの解を得ること。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。最新技術動向の調査研究から、技術の習得。あるいは各種統計データから導かれる結論について、積極的に取り組んで自らの解を得ること。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>授業態度：20%。提出物：40%。プレゼンテーション：40%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない（例：おしゃべり等）。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある課題テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の課題テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の課題テーマに取り組む。</p> <p>（1週目：対面授業）ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>（2-11週目：対面授業）進捗報告 ～ 課題テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>（12週目：対面授業）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（13週目：対面授業）発表会 時間外の学習内容：課題成果物の整理</p> <p>（14週目：対面授業）研究論文の作成ポイント 時間外の学習内容：課題成果物の整理</p> <p>（15週目：対面授業）社会人特別講話 時間外の学習内容：特別講話に関するレポート作成</p> <p>（16週目：対面授業）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。発表(4割)、課題成果物(6割)で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習Ⅰ」がある。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性

「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail : sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 卒業研究を行うにあたり、基礎的な技術修得、ならびに、文献検索などの情報収集能力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス・研究とは	テキスト・関連資料をよく読む
	2	(対) 理科系の作成技術 (1)	テキスト・関連資料をよく読む
	3	(対) 理科系の作成技術 (2)	テキスト・関連資料をよく読む
	4	(対) 理科系の作成技術 (3)	テキスト・関連資料をよく読む
	5	(対) 研究・論文とは	研究テーマの検討
	6	(対) 問題意識・研究計画とは	研究テーマの検討
	7	(対) 先行研究の調べ方 (1)	研究テーマの検討
	8	(対) 先行研究の調べ方 (2)	研究テーマの検討
	9	(対) 評価方法の検討方法 (1)	研究テーマの検討
	10	(対) 評価方法の検討方法 (2)	研究テーマの検討
	11	(対) 個別報告 (1)	調査研究・システム開発
	12	(対) 個別報告 (2)	調査研究・システム開発
	13	(対) 個別報告 (3)	調査研究・システム開発
	14	(対) 個別報告 (4)	調査研究・システム開発
15	(対) ゼミ内発表会 (1)	発表準備	
16	(対) ゼミ内発表会 (2)	発表準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：久間月慧太郎，木下是雄「まんがでわかる 理科系の作文技術」中央公論新社（2018） 参考書籍： ・木下是雄「理科系の作文技術」中央公論新社（1981） ・酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」共立出版（2017） ・酒井聡樹「これから学会発表する若者のために 第2版—ポスターと口頭のプレゼン技術—」共立出版（2018） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 評価は報告時のレポート・プレゼンテーション(80%)，講義中の課題(20%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅰ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる  
技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通告する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	3	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	4	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	5	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	6	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	7	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
	8	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	9	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	10	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	11	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	12	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	13	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
14	(特) 発表会 (1)	課題の実施	
15	(特) 発表会 (2)	課題の実施	
16	(特) 発表会 (3)	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・受講には Google Meet, Zoom, Unity の実行環境を要する。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通告する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の卒業論文演習Ⅰ(必修科目)への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	論文 (50%) , プレゼンテーション (50%)		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、卒業論文演習Ⅰ, 卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「  
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、「専門演習Ⅰ」で設定した個別の研究テーマの調査・研究を深め、更なる考察を行う。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組み、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」につなげていく。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに関する考察を深め、各自で設定した目標達成に向けて計画的に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(対) 開発環境の検討	開発環境の調査
	3	(対) 開発技術の整理	技術の検討・学習
	4	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	5	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	6	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	7	(対) 進捗発表	発表資料作成
	8	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	9	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	10	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	11	(対) 進捗発表	発表資料作成
	12	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	13	(対) 調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	14	(対) 進捗発表	発表資料作成
15	(対) 発表資料及び課題等の作成	発表資料作成	
16	(対) 研究成果発表	発表・課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。		
	学びの手立て 毎回、個別の研究テーマに関連した課題を設定し取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。		
	評価 評価は、平常点 (20%) 及び課題への取り組みや成果等 (80%) を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「専門演習Ⅱ」で取り組んだ研究テーマを深め、「卒業論文演習Ⅰ」へと継続して取り組む。
-------	--

※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	空き時間にSNSソフト「Zoom」で受け付けるので、メールで予約してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆専門演習ⅠとⅡを通して学術研究の方法を学び、研究テーマを設定して調査・分析を行ってもらいます。研究結果は専門演習Ⅱの最終回までに「研究ノート（卒業研究の土台となる論文）」にまとめてもらいます。</p>	<p>◆この授業は各自が自立して研究活動を行えるようになることを目的とするため、個別指導を行います。</p> <p>◆研究は個人で行ってもらうため、必然的に各自で論文を執筆することになります。したがって授業時間内にすべての受講者が個別指導を受けられるわけではないため、空き時間を見つけて積極的に個別指導を受けてください。</p>
到達目標	●研究テーマに即した調査・分析を行い、研究ノートを執筆することができる（研究ノートで評価）	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 受講ガイダンス/ゼミ方針の確認	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 研究ノート執筆指導1	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	3	(特) 研究ノート執筆指導2	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	4	(特) 研究ノート執筆指導3	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	5	(特) 研究ノート執筆指導4	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	6	(特) 研究ノート執筆指導5	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	7	(特) 研究ノート執筆指導6	個別指導を受けて研究ノートを執筆
	8	(特) 研究ノート執筆指導7	個別指導を受けて研究ノートを執筆
9	(特) 研究ノート執筆指導8	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
10	(特) 研究ノート執筆指導9	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
11	(特) 研究ノート執筆指導10	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
12	(特) 研究ノート執筆指導11	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
13	(特) 研究ノート執筆指導12	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
14	(対) 研究ノート執筆指導13	個別指導を受けて研究ノートを執筆	
15	(特) 研究ノート執筆指導14	研究ノートを完成させて提出する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。		
学びの手立て	<p>◆出席は取らず、研究ノートの完成度で研究成果を判断します。したがって、研究ノートの完成度を高めるために、自主的・積極的に個別指導を受けてください。なお、感染症防止の観点から、個別指導はSNSソフトの「Zoom」で行います（予約制）。</p> <p>◆研究ノートを提出しない場合や、「規定の水準に満たない」と判断した場合は、単位を認定できません。その場合、卒業や就職活動に影響が生じる可能性が高くなることに十分留意してください。</p>		
評価	●研究ノート100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：卒業論文演習Ⅰ</p>

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、問題解決力、創造力を養成します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰで学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。また卒業論文作成に向けて各自でテーマを絞り、情報収集、整理、分析を行い、論文計画を作成する。論文としてまとめる能力を高め、さらに報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。	メッセージ 沖縄県の経済や産業について学び、地域振興をはかるにはどう対応したらよいかいっしょに学んでいきましょう。
	到達目標 ①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を高めます。 ②テーマに関連する情報を収集、整理、分析する能力を養います。 ③論文作成の基本事項を学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 沖縄県の経済①	参考文献③、④を読む
	2	(対) 沖縄県の経済②	参考文献③、④を読む
	3	(対) 沖縄振興計画①	政府関係HPで情報収集
	4	(対) 沖縄振興計画②	政府関係HPで情報収集
	5	(対) 沖縄振興計画③	政府関係HPで情報収集
	6	(対) 論文計画の作成①	論文計画を各自で作成
	7	(対) 論文計画の作成②	論文計画を各自で作成
	8	(対) 論文計画の作成③	論文計画を各自で作成
	9	(対) 論文関連情報の収集・整理①	各自で情報収集と整理
	10	(対) 論文関連情報の収集・整理②	各自で情報収集と整理
	11	(対) 論文関連情報の収集・整理③	各自で情報収集と整理
	12	(対) 論文関連情報の収集・整理④	各自で情報収集と整理
	13	(対) 論文計画のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備と報告
	14	(対) 論文計画のプレゼンテーション②	プレゼンテーションの準備と報告
15	(対) 論文計画のプレゼンテーション③	プレゼンテーションの準備と報告	
16	(対) 演習Ⅱの総括	論文計画の総点検を行う	
テキスト・参考文献・資料など 第一回の演習の時間に説明します。関連資料を演習の際に配布します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ②『沖縄新たな挑戦 経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ③『沖縄県経済の概況』内閣府、各年版 ④『県経済の見通し』沖縄県、各年版			
学びの手立て ①演習中の私語、演習関連以外のHPの閲覧、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②ゼミの連絡は大学メールで行いますので、確認してください。			
評価 授業の参加度50%、課題の取り組み状況30%、プレゼンテーションの内容等20%の割合で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) パブリックファイナンス、地域財政論Ⅰ・Ⅱ (上位科目) 卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

社会に必要な問題発見能力・分析力を養うため、基本的な情報処理技術を習得し、問題解決力および解決策を導き出す創造力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は専門演習基礎、専門演習Ⅰおよび企業インターンシップで学んだ基本的および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。	演習科目なので基本的に欠席は認めない。皆出席を求める。個別研究テーマを掘り下げるといふメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。
到達目標	基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	システム環境準備
	2	(特) 過去の卒業論文の紹介	全体考察
	3	(対) 論文の書き方・注意事項など	考察
	4	(特) システム設計系卒論の目標設定	全体考察
	5	(対) コンテンツ制作系卒論の目標設定	全体考察
	6	(特) 個別報告(プレゼン) 1	個別研究の開発作業
	7	(対) 個別報告(プレゼン) 2	個別研究の開発作業
8	(特) 個別報告(プレゼン) 3	個別研究の開発作業	
9	(対) 個別報告(プレゼン) 4	個別研究の開発作業	
10	(特) 個別報告(プレゼン) 5	個別研究の開発作業	
11	(対) 個別報告(プレゼン) 6	個別研究の開発作業	
12	(特) 個別報告(プレゼン) 7	個別研究の開発作業	
13	(対) 卒業論文中間発表会 1	個別研究の開発作業	
14	(特) 卒業論文中間発表会 2	個別研究の開発作業	
15	(対) 総括	考察	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に個別テーマ毎に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力（情報技術や経済経営の知識、考える力）を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。		
	評価 個別プレゼンテーションの内容50%、卒業論文中間発表50%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、4年次開講の卒業論文演習Ⅰにつなげていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を期待します。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。</p>	<p>毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。</p>
到達目標	<p>①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	基本計画①・・・仕様書	配布資料及びテキストの熟読
	3	基本計画②・・・システム化計画書	配布資料及びテキストの熟読
	4	基本計画③・・・開発計画書	配布資料及びテキストの熟読
	5	外部設計の基本	当該講義内容の振り返り
	6	内部設計の基本	当該講義内容の振り返り
	7	プログラム設計の基本①	配布資料及びテキストの熟読
	8	プログラム設計の基本②	配布資料及びテキストの熟読
	9	モジュール化とインターフェイス	当該講義内容の振り返り
	10	処理手順のデザイン①	配布資料及びテキストの熟読
	11	処理手順のデザイン②	配布資料及びテキストの熟読
	12	設計内容の文章化①	配布資料及びテキストの熟読
	13	設計内容の文章化②	作成文書の校正と改善
14	設計文書のレビュー①	作成文書の校正と改善	
15	設計文書のレビュー②	発表の振り返りと見直し	
16	総括	発表の振り返りと見直し	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・羽生 章洋「はじめよう！プロセス設計～要件定義のその前に」技術評論社(2016) ・羽生 章洋「はじめよう！要件定義～ビギナーからベテランまで」技術評論社(2015) ・高安 厚思「システム設計の謎を解く 改訂版」SBクリエイティブ(2017)</p> <p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。以下、参考文献。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
評価	<p>演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」に向けた基礎的な演習内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また就職活動に向けての情報収集（就職説明会などへの積極的な参加）。
到達目標	(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。 (2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 (3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。 (4) プレゼンの能力を高める。 (5) 卒業論文研究テーマや課題の確定、卒業論文の中間発表。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	(対) 卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	3	(対) 卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	4	(対) 卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	5	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	6	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	7	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	8	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	9	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	10	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	11	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	12	(対) 卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	13	(対) 卒業研究中間発表の取り組み	中間発表資料作成
14	(対) 卒業研究中間発表の取り組み	中間発表資料作成	
15	(対) 卒業研究中間発表	中間発表の準備	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
学びの手立て	(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 (2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。 (3) 新型コロナウイルスの感染防止のため対面授業ができない場合は、特例授業（遠隔授業）で代替します。		
評価	平常点：50%（普段の学習態度、学習・発表状況など） 発表点：50%（発表の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の卒業論文演習Ⅰ
-------	----------------------------



※ポリシーとの関連性

経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	4年	空き時間にSNSソフト「Zoom」で受け付けるので、メールで予約してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆専門演習 I・II で調査・分析した内容（研究ノート）を元に、より深い考察を行うための調査と分析を行います。</p> <p>◆この授業で行った研究の結果は、卒業論文演習 II（後期開講）で卒業論文にまとめてもらいます。</p>	<p>◆この授業は各自が自立して研究活動を行えるようになることを目的とするため、個別指導を行います。</p> <p>◆研究は個人で行ってもらうため、必然的に各自で論文を執筆することになります。それを念頭に、II で研究成果をまとめることができるよう、研究を計画的に進めてください。</p>
	到達目標	
	●テーマに添って研究を進めることができる（個別指導で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/ゼミ方針の確認	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 研究指導 1	個別指導を受けて研究を進める
	3	(特) 研究指導 2	個別指導を受けて研究を進める
	4	(特) 研究指導 3	個別指導を受けて研究を進める
	5	(特) 研究指導 4	個別指導を受けて研究を進める
	6	(特) 研究指導 5	個別指導を受けて研究を進める
	7	(特) 研究指導 6	個別指導を受けて研究を進める
8	(特) 研究指導 7	個別指導を受けて研究を進める	
9	(特) 研究指導 8	個別指導を受けて研究を進める	
10	(特) 研究指導 9	個別指導を受けて研究を進める	
11	(特) 研究指導 10	個別指導を受けて研究を進める	
12	(特) 研究指導 11	個別指導を受けて研究を進める	
13	(特) 研究指導 12	個別指導を受けて研究を進める	
14	(特) 研究指導 13	個別指導を受けて研究を進める	
15	(特) 研究指導 14	個別指導を受けて研究を進める	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。		
	学びの手立て		
	※新型コロナウイルスの流行に伴い、特例授業（SNSによる遠隔授業や個別指導）を行います。したがってSNSによる遠隔授業・個別指導の受講や課題の提出をもって出席となるため、欠席6回以上による単位の未認定に注意してください。		
	評価		
	●個別指導100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：専門演習基礎、専門演習 I・II、卒業論文演習 II 次のステージ：卒業論文演習 II

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を養い、自らの見解を論理的に論文としてまとめる能力を高めます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの演習(専門演習基礎、演習ⅠⅡ)で論文のテーマ設定と論理展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきました。これを基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していきます。卒業論文演習Ⅰでは、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、中間報告とディスカッションを行い、卒業論文作成を進めていきます。</p>	<p>卒業論文の作成を通じて、自らの見解を論理的に展開し、論拠をもって論述する力を高めましょう。</p>
到達目標	<p>①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を身につけます                  ②テーマに関連する情報を取捨選択し活かす能力を身につけます                  ③卒業論文作成を通じて、論文を作成する基本事項を身につけます</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 卒業論文のテーマ設定と論理展開①	各自でテーマと目次を検討
2	(特) 卒業論文のテーマ設定と論理展開②	各自でテーマと目次を検討	
3	(特) 卒業論文のテーマ設定と論理展開③	各自でテーマと目次を検討	
4	(特) 論文関連情報の収集と整理①	情報収集と整理を行う	
5	(特) 論文関連情報の収集と整理②	情報収集と整理を行う	
6	(特) 論文関連情報の収集と整理③	情報収集と整理を行う	
7	(特) 論文関連情報の収集と整理④	情報収集と整理を行う	
8	(特) 中間報告とディスカッション①	中間報告の準備と実施	
9	(特) 中間報告とディスカッション②	中間報告の準備と実施	
10	(特) 中間報告とディスカッション③	中間報告の準備と実施	
11	(特) 卒業論文作成①	各自で卒業論文作成	
12	(特) 卒業論文作成②	各自で卒業論文作成	
13	(特) 卒業論文作成③	各自で卒業論文作成	
14	(特) 卒業論文作成④	各自で卒業論文作成	
15	(特) 卒業論文作成⑤	各自で卒業論文作成	
16	(特) 卒業論文演習Ⅱの総括	卒論の成果と課題を確認する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>第一回の演習の時間に参考文献、資料を紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①演習時間の私語、授業と関係のないHPの閲覧、携帯電話の使用はやめてください。                  ②演習に関連する連絡は大学メールを通じて行います。必ず確認するようにしてください。                  ③欠席する場合は、メールで欠席とその理由を連絡して下さい。また欠席届を出してください。</p>		
評価	<p>授業参加度40%、卒論の進行状況確認40%、中間報告におけるプレゼンテーションの内容20%の割合で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目                  (関連科目) パブリックファイナンス、地域財政論Ⅰ・Ⅱ                  (上位科目) 卒業論文演習Ⅱ</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、大学での集大成となる卒業論文の作成を通じ、これまでの学びを総括すると同時に、社会人としての基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「専門演習Ⅱ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。本講義において研究テーマを選定し、研究計画を立案した後、先行研究調査、資料収集、言語選定と開発環境整備を行いながら、続く「卒業論文演習Ⅱ」に備えます。</p>	<p>【実務経験】応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、生活、企業、地域社会における諸課題をシステムにより解決することを目指す卒業論文の指導にあたります。毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。最後まで諦めずに取り組んでもらいたいと考えます。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマに沿ったシステム開発が行える。</li> <li>卒業研究発表会へ積極的に参加できる。</li> <li>卒業論文を執筆し、製本する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習 I について	
	2	具体的な研究テーマの検討と決定①	様々な観点から熟考する。
	3	具体的な研究テーマの検討と決定②	様々な観点から熟考する。
	4	研究テーマのレビュー①	積極的に報告する。
	5	研究テーマのレビュー②	積極的に報告する。
	6	研究計画の立案①	様々な観点から熟考する。
	7	研究計画の立案②	様々な観点から熟考する。
	8	研究計画のレビュー①	積極的に報告する。
	9	研究計画のレビュー②	積極的に報告する。
	10	先行研究の調査と整理	自主的に取り組む。
	11	開発に用いる言語の選定	研究テーマとの関連を考慮する。
	12	開発環境の構築と整備①	積極的に取り組む。
	13	開発環境の構築と整備②	積極的に取り組む。
14	開発に用いる言語の習得①	自主的に取り組む。	
15	開発に用いる言語の習得②	自主的に取り組む。	
16	開発に用いる言語の習得③	自主的に取り組む。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。		
	学びの手立て		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</li> <li>② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</li> <li>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</li> <li>④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</li> </ol>		
	評価		
	演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習は、「卒業論文演習Ⅱ」に向けた演習内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	4 年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に卒業論文演習Ⅱの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また、積極的に就職活動を展開すること。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。</li> <li>(4) プレゼンの能力を高める。</li> <li>(5) 卒業論文の中間発表。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	3	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	4	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	5	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	6	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	7	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	8	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	9	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	10	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	11	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	12	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	13	卒業論文中間報告の取り組み	中間報告資料作成
14	卒業論文中間報告の取り組み	中間報告資料作成	
15	卒業論文中間報告	中間報告の準備	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> </ul>		
評価	平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など）、課題点：50%（提出課題の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の卒業論文演習Ⅱ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4 年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	専門演習 I・II、卒業論文演習 I・II は、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。また、論文演習なので、成果物として PDF で提出してもらいます。遠隔講義の場合は、提出物を持って出席扱いとします。また対面講義の場合は、30分以上の遅刻を欠席扱いとします。
到達目標	イメージとしては、卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容を含む)</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了し、専門演習 I と専門演習 II で研究内容の深化を図りました。卒業論文演習 I では、今まで調査研究してきた内容を論文としてまとめ、文書に残す作業を行います。</p> <p>第 1 週 : 卒業論文演習 I のガイダンス、卒業論文の提出について                  第 2 ~ 15 週 : テーマに沿った研究の進捗状況の報告ならびに報告書の提出を適宜行い、2 ~ 3 回ほど卒業論文制作の進捗を確認し、最終報告書である卒業論文作成に向けての取り組みについて議論する。                  第 16 週 : 卒業論文の第一稿を報告書として提出</p> <p>第 2 週から 15 週までは、報告者各自が設定したテーマに沿って研究した内容をまとめた報告書 (卒業論文の叩き台) を発表、あるいは報告してもらおう。目安として、発表・報告者は 10 分ほどの説明を用意し、その後、卒業論文をどのようにまとめていくかについて議論する。</p> <p>その他 : 学外ゼミとして、卒論制作に必要な海外の再調査を行うことがある (今までの例: タイと台湾のファストファッション、コピー商品などの比較調査)。</p> <p>時間外学習の内容: 各自、個別のテーマに関する取り組みを行ってもらおう。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。</p>
評価	<p>数回の個々のテーマに沿った提出物: 100%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習 II</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・取組成果を文書として取りまとめる確に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の習得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習で取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
学びの手立て	<p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。課題成果物（10割）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail : sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習I・IIにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習I・IIでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。</p>	<p>原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。</p>
到達目標	テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・テーマ報告	発表準備
	2	雑誌・論文検索などの資料収集の復習	調査研究・システム開発
	3	個別報告（1）	調査研究・システム開発
	4	個別報告（2）	調査研究・システム開発
	5	個別報告（3）	調査研究・システム開発
	6	個別報告（4）	調査研究・システム開発
	7	個別報告（5）	調査研究・システム開発
	8	個別報告（6）	調査研究・システム開発
	9	個別報告（7）	調査研究・システム開発
	10	個別報告（8）	調査研究・システム開発
	11	予稿作成	予稿作成・調査研究・システム開発
	12	予稿作成・添削	予稿作成・調査研究・システム開発
	13	発表予行演習（1）	発表練習
14	発表予行演習（2）	発表練習	
15	卒論中間発表会（1）	発表練習	
16	卒論中間発表会（2）	発表練習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木下是雄「理科系の作文技術」中央公論新社（1981）</li> <li>・久間月慧太郎，木下是雄「まんがでわかる 理科系の作文技術」中央公論新社（2018）</li> <li>・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版」共立出版（2015）</li> <li>・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>		
	評価		
	<p>評価は報告時のレポート・プレゼンテーション(80%)，議論への参加度(20%)の合計得点により行う。</p> <p>総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文演習 II

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる  
技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4 年	m. sou@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。	・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通告する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施
	3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施
	4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施
	5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施
	6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施
	7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施
	8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施
	9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施
	10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施
	11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施
	12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施
	13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施
14	発表会（1）	課題の実施	
15	発表会（2）	課題の実施	
16	発表会（3）	課題の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指定する。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通告する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>		
	評価		
	論文（50%）, プレゼンテーション（50%）		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	本演習は、後の必須科目である卒業論文演習 II、および卒業論文発表へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて取り組んだ研究テーマを深く掘り下げ、研究の集大成となる卒業論文の作成および論文内容の更なる充実を図る。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を作成する。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	卒業論文及び研究計画の作成	個別研究テーマに関する活動
	3	卒業論文及び研究計画の作成	個別研究テーマに関する活動
	4	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	5	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	6	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	7	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	8	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動
9	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
10	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
11	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
12	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
13	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
14	発表資料及び課題等の作成	個別研究テーマに関する活動	
15	研究成果報告	資料作成・発表	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、専門演習Ⅱで取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。		
	評価 評価は、平常点（20%）及び課題への取り組みや成果等（80%）を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「卒業論文演習Ⅱ」がある。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	4年	空き時間にSNSソフト「Zoom」で受け付けるので、メールで予約してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆卒業論文演習Ⅰで行った研究を継続し、その成果を卒業論文にまとめてもらいます。</p> <p>到達目標</p> <p>●これまでの研究成果を卒業論文にまとめて発表することができる（卒業論文で評価）</p>	<p>◆この授業は各自が自立して研究活動を行えるようになることを目的とするため、個別指導を行います。</p> <p>◆研究は個人で行ってもらうため、必然的に各自で論文を執筆することになります。したがって授業時間内にすべての受講者が個別指導を受けられるわけではないため、空き時間を見つけて積極的に個別指導を受けてください。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
		回	テーマ
		1	(特) 受講ガイダンス/ゼミ方針の確認
		2	(対) 卒業論文執筆指導 1
		3	(特) 卒業論文執筆指導 2
		4	(特) 卒業論文執筆指導 3
		5	(特) 卒業論文執筆指導 4
		6	(特) 卒業論文執筆指導 5
		7	(特) 卒業論文執筆指導 6
		8	(特) 卒業論文執筆指導 7
		9	(特) 卒業論文執筆指導 8
		10	(特) 卒業論文執筆指導 9
		11	(特) 卒業論文執筆指導 10
		12	(特) 卒業論文執筆指導 11
		13	(特) 卒業論文執筆指導 12
		14	(特) 卒業論文執筆指導 13
		15	(対) 卒業論文執筆指導 14
		16	
	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。	
	学びの手立て	<p>◆出席は取らず、卒業論文の完成度で研究成果を判断します。したがって、卒業論文の完成度を高めるために、自主的・積極的に個別指導を受けてください。なお、感染症防止の観点から、個別指導はSNSソフトの「Zoom」で行います（予約制）。</p> <p>◆卒業論文を提出しない場合や、「規定の水準に満たない」と判断した場合は、単位を認定できないことに留意してください。</p>	
	評価	●卒業論文100%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を養い、自らの見解を論文として論述する能力を高めます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、整理、分析をさらに進め、具体的に論文を作成していきます。経過報告で論文の展開、進行状況を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいきます。最終報告では、卒業論文の内容を報告、質疑を行い、プレゼンテーション、ディスカッション能力を高めます。	大学における学習の最終成果としての卒業論文をしっかりと完成させましょう。また、プレゼンテーション、ディスカッションの能力も身につけましょう。
到達目標	テーマ、論理構成のしっかりした論文を作成し、卒業論文の最終報告を通じて報告能力を高めます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 情報収集・整理・分析と卒論作成①	各自で論文を作成する
	2	(対) 情報収集・整理・分析と卒論作成②	各自で論文を作成する
	3	(対) 情報収集・整理・分析と卒論作成③	各自で論文を作成する
	4	(対) 情報収集・整理・分析と卒論作成④	各自で論文を作成する
	5	(対) 情報収集・整理・分析と卒論作成⑤	各自で論文を作成する
	6	(対) 卒業論文の経過報告①	卒論の経過報告準備と実施
	7	(対) 卒業論文の経過報告②	卒論の経過報告準備と実施
	8	(対) 卒業論文の経過報告③	卒論の経過報告準備と実施
	9	(対) 卒業論文の経過報告④	卒論の経過報告準備と実施
	10	(対) 卒業論文の経過報告⑤	卒論の経過報告準備と実施
	11	(対) 卒業論文の修正①	各自で卒論の修正を行う
	12	(対) 卒業論文の修正②	各自で卒論の修正を行う
	13	(対) 卒業論文の修正③	各自で卒論の修正を行う
14	(対) 卒業論文の最終報告①	最終報告の準備と実施	
15	(対) 卒業論文の最終報告②	最終報告の準備と実施	
16	(対) 卒業論文の最終報告③	最終報告の準備と実施	
実践	テキスト・参考文献・資料など 第一回の演習の際に参考文献、資料等を紹介します。		
学びの手立て	①演習時間の私語、演習に関係のないHPの閲覧、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②演習の連絡は大学メールを通じて行います。必ず確認するようにして下さい。 ③欠席する場合は、連絡して下さい。また欠席届を提出して下さい。		
評価	授業参加度30%、卒論の進捗状況30%、卒論の最終提出と最終報告40%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文で学んだテーマ設定力、論理構成力、報告能力を実社会における生活や仕事の中で活かします。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、大学での集大成となる卒業論文の作成を通じ、これまでの学びを総括すると同時に、社会人としての基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「卒業論文演習Ⅰ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。「卒業論文演習Ⅰ」において作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文として整理し、卒業論文研究発表会に備えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマに沿ったシステム開発が行える。</li> <li>卒業研究発表会へ積極的に参加できる。</li> <li>卒業論文を執筆し、製本する。</li> </ul>	<p>【実務経験】応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、生活、企業、地域社会における諸課題をシステムにより解決することを目指す卒業論文の指導にあたります。毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。最後まで諦めずに取り組んでもらいたいと考えます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習Ⅱについて	
	2	システム開発①	自主的にシステム開発にあたる。
	3	システム開発②	自主的にシステム開発にあたる。
	4	システム開発③	自主的にシステム開発にあたる。
	5	システム開発④	自主的にシステム開発にあたる。
	6	システム開発⑤	自主的にシステム開発にあたる。
	7	システムレビュー①	積極的にレビューに参加する。
	8	システムレビュー②	積極的にレビューに参加する。
	9	システムレビュー③	積極的にレビューに参加する。
	10	卒業論文作成①	卒業論文を執筆する。
	11	卒業論文作成②	卒業論文を執筆する。
	12	卒業論文作成③	卒業論文を執筆する。
	13	卒業論文作成④	卒業論文を執筆する。
14	卒業論文作成⑤	卒業論文を執筆する。	
15	卒業論文中間発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
16	卒業論文研究発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。		
	学びの手立て		
	① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。		
	② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。		
	③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。		
	④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。		
	評価		
	演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文の作成において、培った情報収集力、読解力、文章力、プレゼン力、システム開発力といった様々な能力を、社会人となって大いに発揮してもらいたいと思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	4年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また積極的に就職活動を展開すること。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。</li> <li>(4) プレゼンの能力を高める。</li> <li>(5) 卒業論文の作成。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	3	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	4	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	5	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	6	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	7	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	8	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	9	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	10	(対) 卒業論文研究指導	データの整理分析
	11	(対) 卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	12	(対) 卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	13	(対) 卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
14	(対) 卒業論文最終発表	発表資料の準備	
15	(対) 卒業論文内容の点検と原稿作成	卒業論文の作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> <li>(3) 新型コロナウイルスの感染防止のために対面授業ができない場合は、特例授業（遠隔授業）で代替します。</li> </ul>		
評価	平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など）、発表点：50%（発表の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職後の社会人としての活躍。または大学院などへの進学。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。また、論文演習なので、成果物としてPDFで提出してもらいます。遠隔講義の場合は、提出物を持って出席扱いとします。また対面講義の場合は、30分以上の遅刻を欠席扱いとします。
	到達目標 卒業論文を作成し提出する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容を含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了し、専門演習Ⅰと専門演習Ⅱで研究内容の深化を図りました。そして、卒業論文演習Ⅰでは、卒業論文の初稿を提出してもらっています。卒業論文Ⅱでは、今まで研究してきた内容を論文としてまとめながら、章立てや卒業論文の内容について深化を求めます。</p> <p>第1週 : 卒業論文演習Ⅱのガイダンス、卒業論文の提出について                  第2～15週 : テーマに沿った研究の進捗状況の報告ならびに報告書の提出を適宜行い、2～3回ほど卒業論文制作の進捗を確認し、最終報告書である卒業論文作成に向けての最終調整を行う。                  第16週 : 卒業論文を提出</p> <p>第2週から15週までは、報告者各自が設定したテーマに沿って研究した内容をまとめた卒業論文の章立てや内容について報告してもらおう。目安として、発表・報告者は10分ほどの説明を用意し、その後、卒業論文をどのような深化させ、まとめていくか議論する。</p> <p>時間外学習の内容 : 各自、個別のテーマに関する取り組みを行ってもらおう。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度 : 20%。提出物 : 60%。プレゼンテーション : 20%。                  授業態度 : 他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない(例 : おしゃべり等)。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>就職</p>
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習および卒業論文演習Ⅰで取り組んだ内容を基に、卒業研究として取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目：対面授業) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目：対面授業) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目：対面授業) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
	<p>評価</p> <p>基本的に欠席は認めない。卒業論文（10割）で判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。</p>	<p>原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。</p>
到達目標	テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス・中間発表会の振り返り	資料整理・発表準備
	2	(対) 雑誌・論文検索などの資料収集の復習	調査研究・システム開発
	3	(特) 個別報告 (1)	調査研究・システム開発
	4	(対) 個別報告 (2)	調査研究・システム開発
	5	(特) 個別報告 (3)	調査研究・システム開発
	6	(対) 個別報告 (4)	調査研究・システム開発
	7	(特) 個別報告 (5)	調査研究・システム開発
	8	(対) 個別報告 (6)	調査研究・システム開発
	9	(特) 予稿作成・添削 (1)	予稿作成・調査研究・システム開発
	10	(対) 予稿作成・添削 (2)	予稿作成・調査研究・システム開発
	11	(特) 発表予行演習 (1)	発表練習
	12	(対) 発表予行演習 (2) ・卒論最終発表会	発表練習
	13	(特) 卒論作成 (1)	卒論作成
14	(対) 卒論作成・添削 (1)	卒論作成	
15	(特) 卒論作成・添削 (2)	卒論作成	
16	(対) 卒論作成・提出	卒論作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久間月慧太郎，木下是雄「まんがでわかる 理科系の作文技術」中央公論新社（2018）</li> <li>・木下是雄「理科系の作文技術」中央公論新社（1981）</li> <li>・酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」共立出版（2017）</li> <li>・酒井聡樹「これから学会発表する若者のために 第2版—ポスターと口頭のプレゼン技術—」共立出版（2018）</li> </ul>		
学びの手立て	<p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>		
評価	<p>評価は卒業論文の完成度(50%)，報告時のレポート・プレゼンテーション(30%)，議論への参加度(20%)の合計得点により行う。</p> <p>総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習を通して学んだ知識・技術をもとに今後は各自でさらに深化させていく。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性

本演習は、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる  
技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびプログラムをはじめとした実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	3	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	4	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	5	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	6	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	7	(特) 論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
	8	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	9	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	10	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	11	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	12	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	13	(特) プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
14	(特) 発表会 (1)	課題の実施	
15	(特) 発表会 (2)	課題の実施	
16	(特) 発表会 (3)	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・受講には Google Meet, Zoom, Unity の実行環境を要する。</li> <li>・授業に貢献しない者や欠席の多い者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>		
評価	論文 (50%) , プレゼンテーション (50%)		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習までに学んだことを礎として、今後も学習に臨み、更なる知識と技術を身に付けていくこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰにおいて取り組んだ内容を深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を完成させる。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) 課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	3	(特) 課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	4	(特) 課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	5	(特) 課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	6	(特) 課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	7	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	8	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
9	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
10	(特) 進捗報告	報告資料作成	
11	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
12	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
13	(特) 卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
14	(特) 発表資料及び課題等の作成	発表資料作成	
15	(特) 研究成果発表	発表資料作成・発表	
16	(特) 総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、卒業論文演習Ⅰで取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。		
	評価 評価は、平常点（20%）及び課題への取り組みや成果等（80%）を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎から専門演習（Ⅰ、Ⅱ）、卒業論文演習（Ⅰ、Ⅱ）を通して学んだ知識、習得した技術を統括し、卒業後の就業に活かす。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域産業概論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業行動と産業構造の関係を考察できるようになる。</li> <li>企業の競争戦略をゲーム理論を使って考察できるようになる。</li> <li>県内企業の様々な戦略を考える機会を提供する。</li> </ul>	就職活動をする上で、企業行動と地域産業の理解は不可欠です。将来、どのような企業に就職したらいいのかを考える機会を提供できればと思います。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>①ゲーム理論の基礎的な考え方を習得している。</li> <li>②業界によって異なる企業の行動・戦略を理解できるようになる。</li> <li>③沖縄の企業と産業についての基礎知識を習得し、就活に役立てることができる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス (講義内容、評価方法、注意事項の説明)	シラバスの確認
	2	(対) 地域産業構造とSCPパラダイム	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	(特) SCPパラダイムと5フォース	同上
	4	(特) ゲーム理論とは何か?	同上
	5	(特) ゲーム理論の基礎	同上
	6	(特) 実験ナッシュ均衡	同上
	7	(特) ゲーム理論を使った県内企業・産業分析①	同上
	8	(特) ゲーム理論を使った県内企業・産業分析②	同上
	9	(特) ゲーム理論を使った県内企業・産業分析③	同上
	10	(特) 小売業界の分析 (サンエーの経済学)	同上
	11	(特) 県内コンビニ業界の立地戦略①	同上
	12	(特) 県内コンビニ業界の立地戦略②	同上
	13	(特) 参入阻止ゲーム①	同上
	14	(特) 参入阻止ゲーム②	同上
15	(対) 総括	同上	
16	試験またはレポート	同上	

テキスト・参考文献・資料など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：特に使用しません。説明資料を配布します。</li> <li>・参考文献：講義中に適宜、参考文献を紹介します。</li> </ul>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の理解を促進するため、企業関係者を適宜招聘し意見交換会を行います。</li> <li>・講義内容は皆さんの理解度、関心に合わせて一部変更する場合があります。</li> <li>・理解を深めるため、毎日新聞を読んで知見を広げ、考える習慣を身につけてください。</li> </ul>

評価
・評価は平常点 (30%)、授業内での課題提出 (30%)、試験またはレポート (40%) とします。

学びの継続
次のステージ・関連科目 アジアビジネス事業、アジア経済論、国際経済学、環境資源経済論ⅠⅡなど

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高めま  
す。

[ /一般講義]

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域財政論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3 年	授業後に教室で受け付けます。授業後は研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	都道府県、市町村は国の財政と連携して福祉、教育、社会資本といった公共財を提供しており、国と地方公共団体の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっています。また、地方公共団体の地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方財政の基本的しくみ、財政依存の高い沖縄県の財政と地域振興について学習します。	地方公共団体の財政や地域振興を理解することが重要になっています。講義で基本的なしくみを学び、皆さんの住んでいる市町村や沖縄県の財政や地域振興について理解を深めましょう。
	到達目標	
	①地方財政の基本的なしくみを理解することができる ②財政依存の高い沖縄県の財政の実情について理解できる ③地域振興における地方公共団体の取り組みについて理解できる	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 地域と財政① (地方財政について)	参考文献①P1-P10を読む
	2	(特) 地域と財政② (都道府県・市町村の役割)	参考文献①P1-P10を読む
	3	(特) 地方分権と国・地方の役割①	参考文献②P192-P206を読む
	4	(特) 地方分権と国・地方の役割②	参考文献②P192-P206を読む
	5	(特) 地域公共財①	配布資料を復習する
	6	(特) 地域公共財②	配布資料を復習する
	7	(特) 地方歳入について① (地方税、地方交付税)	参考文献①P42-P53を読む
	8	(特) 地方歳入について② (国庫支出金、地方債など)	参考文献①P42-P53を読む
	9	(特) 地方歳出について① (目的別歳出、教育費、民生費、土木費など)	参考文献①P31-P40を読む
	10	(特) 地方歳出について② (性質別歳出、義務的経費、投資的経費など)	参考文献①P31-P40を読む
	11	(特) 地方交付税による財源調整①	参考文献①P68-P78を読む
	12	(特) 地方交付税による財源調整②	参考文献①P68-P78を読む
	13	(特) 国庫支出金のしくみと課題①	参考文献P79-P91を読む
14	(特) 国庫支出金のしくみと課題②	参考文献P79-P91を読む	
15	(特) 沖縄県の財政と課題①	沖縄県HPの財政関係資料を読む	
16	(特) 沖縄県の財政と課題②	沖縄県HPの財政関係資料を読む	
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献は以下のとおりです。第一回の講義の時間にテキスト及び参考文献の紹介を行います。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『財政学』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ③『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ④『地方財政白書』、総務省		
	学びの手立て		
	①授業は特例で実施します。 ②地方自治の制度を調べる場合は、比較的新しい参考文献を利用してください。また、地方財政を所管する総務省HP、都道府県、市町村のHPも参考になります。あるいは新聞報道などで実情を知ることができます。		
	評価		
	授業参加度50%、課題レポートの提出状況50%で評価します。		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 地域財政論Ⅱ、パブリックファイナンスなどの関連科目を履修すると経済や社会についての理解が深まります。
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。それ以外 は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域財政論Ⅰで学んだ地方財政の基本的なしくみの理解を基に、地方債、地方公営企業、第三セクター、都市の財政問題、高齢化と地方財政について取りあげます。次に地域振興と沖縄県の振興開発について取り上げます。地方公共団体の地域振興における役割や、沖縄振興の実情について学習します。	都道府県や市町村の役割が高まっており、これを理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や、沖縄県の財政、地域振興について理解を深めましょう。
到達目標	①地方財政の基本的なしくみを理解することができる ②沖縄県の財政の実情について理解できる ③地域振興における地方公共団体の取り組みを理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 地方債による財源調達①	参考文献①P93-P104を読む
	2	(対) 地方債による財源調達②	参考文献①P93-P104を読む
	3	(対) 地方公営企業と第三セクターの課題①	参考文献③P303-321を読む
	4	(対) 地方公営企業と第三セクターの課題②	参考文献③P303-P321を読む
	5	(対) 都市財政①(わが国の都市の概況)	配布資料復習する
	6	(対) 都市財政②(都市化と財政重要)	配布資料を復習する
	7	(対) 高齢化と地方財政①(高齢化の現状と課題)	参考文献③P273-P299を読む
	8	(対) 高齢化と地方財政②(民生費の動向)	参考文献③P273-P299を読む
	9	(対) 財政分析①(自治体の財政分析の概要)	配布資料を読む
	10	(対) 財政分析②(沖縄県市町村の財政分析)	配布資料を読む
	11	(対) 沖縄県の財政①	内閣府HP、沖縄県HPの資料を読む
	12	(対) 沖縄県の財政②	内閣府HP、沖縄県HPの資料を読む
	13	(対) 地域振興と沖縄振興計画①	参考文献①P105-P119を読む
14	(対) 地域振興と沖縄振興計画②	参考文献①P105-P119を読む	
15	(対) 地域振興と沖縄振興計画③	参考文献①P105-P119を読む	
16	(対) 講義の総括	配布資料を復習する	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 参考文献は以下の通りです。第一回の講義の時間にテキスト・参考文献について紹介します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文堂 ②『財政学』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ③『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ④『地方財政白書』、総務省		
学びの手立て	①授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②「地域財政論Ⅰ」で地方財政の基本的なしくみを理解している前提で講義を進めます。 ③地方財政の制度を調べる場合は、新しい参考文献を利用してください。総務省のHPや県・市町村のHPも参考にして下さい。また、新聞報道からも財政の実情を知ることができます。		
評価	授業参加度20%、課題レポートの提出状況20%、試験60%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 パブリックファイナンス、ツーリズムビジネス論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論、環境資源経済論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱなどを履修すると経済、産業についての理解がさらに深くなります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	知的情報処理	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今日の企業では、変動の激しい市場や社会からの多様なニーズに対して迅速かつ柔軟に応じていくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に知的情報処理について学習する。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。
到達目標	人間の知的情報とは何かを理解し、その科学的アプローチを習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	シラバスの確認及び次回講義の予習
	2	知的情報処理の概要	講義の復習および課題演習
	3	情報と曖昧さ(i)	講義の復習および課題演習
	4	情報と曖昧さ(ii)	講義の復習および課題演習
	5	不確定情報の処理(i)	講義の復習および課題演習
	6	不確定情報の処理(ii)	講義の復習および課題演習
	7	知的尺度の処理(i)	講義の復習および課題演習
8	知的尺度の処理(ii)	講義の復習および課題演習	
9	知的尺度の処理(iii)	講義の復習および課題演習	
10	システム制御とファジィ関係(i)	講義の復習および課題演習	
11	システム制御とファジィ関係(ii)	講義の復習および課題演習	
12	システム制御とファジィ関係(iii)	講義の復習および課題演習	
13	知的情報処理と推論アルゴリズム(i)	講義の復習および課題演習	
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(ii)	講義の復習および課題演習	
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(iii)	講義の復習	
16	試験・総括		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト: 未定(初回講義で周知します) 参考資料: ・中島信之「ファジィ数学のおはなし」倍風館 ・井上, 天笠「ファジィ理論の基礎」朝倉書店		
学びの実践	学びの手立て		
	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
学びの実践	評価		
	試験結果(80%), レポート(20%)により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目として「経営科学」「専門演習」「卒業論文演習」がある。

※ポリシーとの関連性 ツーリズム・ビジネスに係わる様々な理論とケースを学習することで、観光・サービス分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々なツーリズムビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、ツーリズムビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</p>	<p>本講義はツーリズムビジネスにおいて多様な役割を果たしている主体が観光客に利便性と楽しさを伝えるためのどのような活動を行っているのかを説明します。</p>
到達目標	<p>1. 現在のツーリズムビジネスについての基礎的な知識を理解することになる。</p> <p>2. 観光目的地のツーリズムビジネスの特徴を学習することで、観光分野で活躍できるような力を得ることになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	I. 観光の重要産業：①旅行業	沖縄の旅行企業を調べる
	3	I. 観光の重要産業：②ホテル業	沖縄の高級ホテルを調べる
	4	I. 観光の重要産業：③航空輸送業	沖縄に就航する航空社を調べる
	5	I. 観光の重要産業：④テーマパーク	沖縄のテーマパークを調べる
	6	I. 観光の重要産業：⑤鉄道事業	日本の観光鉄道を調べる
	7	I. 観光の重要産業：⑤博物館・水族館・動物園	日本の重要博物館を調べる
	8	中間テスト	個別学習
	9	II. 地域主体の観光事業：①地域の観光まちづくり事業	沖縄の観光まちづくり事業を調べる
	10	II. 地域主体の観光事業：②観光地の集客イベント事業	沖縄の観光イベントを調べる
	11	II. 地域主体の観光事業：③サステナブル・ツーリズム	沖縄のEcoツーリズムを調べる
	12	II. 地域主体の観光事業：④リゾート事業	沖縄のリゾート特徴を調べる
	13	II. 地域主体の観光事業：⑤スポーツ・ツーリズムと集客都市	沖縄マラソン大会を調べる
14	II. 地域主体の観光事業：⑥インバウンドの観光事業	沖縄の観光統計を調べる	
15	学習内容のまとめ	個別学習	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：高橋一夫・大津正和・吉田順一 編著『1からの観光 第1版』碩学舎、2010年。</p> <p>2. その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</p> <p>2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</p>		
評価	<p>1. 出席・受講態度を積極的に反映します。 *5回以上の無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</p> <p>2. 中間テスト1回(場合によってレポートに振替)40%</p> <p>3. 期末テスト1回60%。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p> <p>次のステージ：『ツーリズムビジネスⅡ』</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ツーリズムビジネスにおいて、観光マーケティングの役割とその意義を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。</p>	<p>本講義では、日本または沖縄のツーリズムビジネスの発展または将来のために何が必要なのかを受講生と一緒に考えてみます。また、受講生の調査内容を実務的な報告書の形に表現する演習を行います。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ツーリズムビジネスの基礎的な商品構成要素について理解する。</li> <li>2. 世界の重要な観光地でのツーリズムビジネスの特徴を理解する。</li> <li>3. 新しいツーリズムビジネスの商品を開発する企画力を身につける。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	1次調査課題のガイダンス：世界の観光地のツーリズムビジネスの特徴(グループ分け)	授業資料を参考
	3	1次発表課題—観光産業調査期間(グループ調査)	グループ調査活動
	4	1次発表—観光産業調査の発表①	グループ発表・ディスカッション
	5	1次発表—観光産業調査の発表②	グループ発表・ディスカッション
	6	1次発表—観光産業調査の発表③	グループ発表・ディスカッション
	7	2次調査課題のガイダンス：旅行社のパッケージ商品	授業資料を参考
	8	2次発表課題—旅行社のパッケージ商品調査期間(グループ調査)	グループ調査活動
	9	2次発表—旅行社のパッケージ商品の発表①	グループ発表・ディスカッション
	10	2次発表—旅行社のパッケージ商品の発表②	グループ発表・ディスカッション
	11	2次発表—旅行社のパッケージ商品の発表③	グループ発表・ディスカッション
	12	3次調査課題のガイダンス：新観光商品開発・戦略	授業資料を参考
	13	3次発表課題—新観光商品開発・戦略調査期間(グループ調査)	グループ調査活動
	14	3次発表—新観光商品開発・戦略の発表①	グループ発表・ディスカッション
15	3次発表—新観光商品開発・戦略の発表②	グループ発表・ディスカッション	
16	3次発表—新観光商品開発・戦略の発表③	グループ発表・ディスカッション	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</li> </ol>
-------	--

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</li> </ol>
--------	---

評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度を積極的に反映します。 *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. グループ発表(レポート)3回によって評価します。 *1次発表20%、2次発表30%、3次発表50%</li> </ol>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。 次のステージ：なし。</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	3年	kazuhiro.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計学についての基本的な概念について解説し、身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの演習を行います。講義の目的は統計学的な知識を身に付け、客観的な根拠に基づく判断が行える析能力を身につけることです。	身長が「高い、低い」というのは人によって違う主観的なものですが、身長「170cm」は誰の基準でも同じ客観的なものです。こうした数値をデータといい、データの集まりが統計になります。この講義ではデータや統計の基礎知識を学び、さらにその活用について考えていきましょう。

学びの準備	到達目標
	①記述統計学の基本的な考え方について理解しましょう。 テストの点数が平均点より上か下か一喜一憂するかもしれません。しかし、点数といったデータの分布やばらつき具合を分析して、点数が良いのか悪いのか判断する必要があります。 ②推測統計学、標本調査の仕組みを理解しましょう。 世の中のデータのほとんどは一部の人を調査したもので、全員（例：日本国民全員）を調べたものではありません。しかし、推測統計学では、ある程度のデータで全体の状況を推測することができます。推測統計、標本調査の基本を身につけましょう。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、データの性質について	定性と定量の違い
	2	記述統計① 平均の意味	代表値の計算
	3	記述統計② 分散、標準偏差	標準偏差の計算
	4	記述統計③ 基準値と偏差値	基準値と偏差値の計算
	5	確率論の基礎（正規分布、確率変数、確率密度関数）	基準値と正規分布の計算
	6	母集団と標本	標準調査・抽出方法の復習
	7	大数の法則、中心基本定理	推測統計学の課題
	8	母平均の推定	母平均の推定の計算
	9	母比率の推定	母比率の推定の計算
	10	統計的仮説検定	帰無仮説・対立仮説の設定
	11	t分布、t推定	t推定の計算
	12	t検定、母平均の検定	検定統計量、p値の計算
	13	散布図、相関とは	相関関係の復習
	14	相関係数について	相関係数の計算
15	無相関の検定	無相関検定の課題	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 演習の初めの時間に紹介します 高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめて下さい。そうすることで試験問題を解答することができます。
-------	--

学びの実践	評価 授業参加度及び課題レポート（30%）、定期試験（70%）で評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 類似科目：共通科目、他学部での統計・社会調査科目 関連科目：データ解析論Ⅱ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 上位科目：データ解析論Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	3年	後期のオリエンテーションの時間に「問い合わせ先」についてお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において原因と結果の因果関係を主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠を示す必要があります。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析があります。この講義では多変量解析の手法として一般的である重回帰分析を中心に学習します。	原因と結果といった因果関係を探るときどちらが原因でどちらが結果かがわからない場合があります。あるいは間違った原因を断定しているかもしれません。講義ではデータに基づき、客観的に関係性を特定することができます。ここで学んだ内容は、レポートや卒業論文の作成において、自分の主張を論拠づけるツールとして役立ちます。
到達目標	①回帰分析とその分析手法を理解しましょう。 ②異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにしましょう。 ③分析手法の使用条件と分析により明らかにできること、できないことを理解しましょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義概要	データ分析Ⅰの復習など
2	(特) 単回帰モデル、最小二乗法など	変数の定義などの学習	
3	(特) 重回帰モデルについて	Excelによる回帰分析	
4	(特) 重相関、決定係数について	重相関・決定係数の計算方法の復習	
5	(特) 自由度調整済みの決定係数	最適な回帰モデルの判別	
6	(特) 誤差項の仮定	Excelによる検定方法の復習	
7	(特) 統計的仮説検定、t検定など	Excelによる検定方法の復習	
8	(特) 信頼区間、予測について	Excelによる検定方法の復習	
9	(特) 回帰分析の応用例	演習問題の回答	
10	(特) ダミー変数について	演習問題の回答	
11	(特) 数量化理論	演習問題の回答	
12	(特) 非線形回帰	Excelによる検定方法の復習	
13	(特) ログ・リニア分析	Excelによる検定方法の復習	
14	(特) ロジスティック回帰分析	Excelによる検定方法の復習	
15	(特) 定期試験	講義・試験問題の復習	
16	(特) 講義演習のまとめ		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 演習の初めの時間に紹介します 高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年		
学びの手立て	※本講義は、全てオンラインで行う。ポータル及びTeamsで連絡するので、両方が確認できるように準備してください。(Teamsは後ほどチームを作る。) ①毎回、講義資料の確認と課題の提出を行わない場合、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがある。 ②課題にきちんと取り組んでください。 ③講義や課題の提出において、Excelを使うので、使える環境を整えてください。 ④講義資料の説明・解説等がわからない場合や、質問がある場合は、遠慮なく連絡してください。		
評価	①課題レポート(30%)、定期試験(70%)で評価します。 ②評価は、大学の基準に従います。 ③評価方法を変更する場合は、事前に連絡します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：データ解析論Ⅰ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ 上位科目：卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ(卒論におけるデータ分析の活用)
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説するウェブアプリケーション作成の際に必要なDB連携技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、ウェブアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望する。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	システム環境準備
	2	データベースの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	SQL(Structured Query Language)の基本	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	データ操作 1	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	データ操作 2	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	ここまでまとめおよび確認テスト	問題確認と復習
	8	AccessによるSQL実習 1	課題
9	AccessによるSQL実習 2	課題	
10	MySQL実習 1	課題	
11	MySQL実習 2	課題	
12	MySQL実習 3	課題	
13	応用ツールによるデータベース構築実習 1	考察	
14	応用ツールによるデータベース構築実習 2	考察	
15	最終試験	問題の確認および復習	
16	総括	次のステップへの準備	
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義資料はPDF化しウェブ上に掲載する。そのため、初回講義において説明を行うので必ず出席すること(無断欠席の場合には登録を取り消す)。テキスト補助および参考書として以下を用いる。 「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ 「新・明解Java 入門編」、柴田 望洋、ソフトバンククリエイティブ		
	学びの手立て プログラミング理論およびプログラミングⅠが履修済みであることが望ましい。また、ウェブプログラミングおよびプログラミングⅡも履修済みもしくは今後履修することが望ましい。パソコンを使った演習科目なので、欠席をするとついて行けなくなるため皆出席を求める。		
	評価 授業態度平常点60点、課題レポートおよび試験240点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングⅡ、ウェブプログラミング、情報系の専門演習基礎、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱなど。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説するウェブアプリケーション作成の際に必要なDB連携技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、ウェブアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望する。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	システム環境準備
	2	データベースの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	SQL(Structured Query Language)の基本	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	データ操作1	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	データ操作2	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	ここまでまとめおよび確認テスト	問題の確認および復習
	8	AccessによるSQL実習1	課題
	9	AccessによるSQL実習2	課題
	10	MySQL実習1	課題
	11	MySQL実習2	課題
	12	MySQL実習3	課題
	13	応用ツールによるデータベース構築実習1	考察
14	応用ツールによるデータベース構築実習2	考察	
15	最終試験	問題の確認および復習	
16	総括	次のステップへの準備	
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義資料はPDF化しウェブ上に掲載する。そのため、初回講義において説明を行うので必ず出席すること(無断欠席の場合には登録を取り消す)。テキスト補助および参考書として以下を用いる。 「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ 「新・明解Java 入門編」、柴田 望洋、ソフトバンククリエイティブ		
	学びの手立て プログラミング理論およびプログラミングⅠが履修済みであることが望ましい。また、ウェブプログラミングおよびプログラミングⅡも履修済みもしくは今後履修することが望ましい。パソコンを使った演習科目なので、欠席をすると行けなくなるため皆出席を求める。		
	評価 授業態度平常点60点、課題レポートおよび試験240点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングⅡ、ウェブプログラミング、情報系の専門演習基礎、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱなど。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ITの可能性と社会課題について考えます

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	ハイブリッド型人材育成特別講義	期別	曜日・時限	単位
	担当者	FROGS/Ryukyufrogs 畑中ひらり	後期	金 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	h. hatanaka (_AT_)frogs-corp. jp * (_AT_)の文字を@に置き換えてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムである。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、興味を持ってもらうことをねらいとしています。	本講義では情報をインプットするだけでなく、体感型のワークショップを取り入れ、実際に” やってみる” ことを重要視しています。未来を考え、楽しみながら自分たちでよりよい未来を創る、ということを実感してもらいたいと考えています。

到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味が湧く。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション	本時の内容整理・振り返り
	2	(対)Ryukyufrogs卒業生キャリア講話「キャリア選択の多様性～選択と決断～」	本時の内容整理・振り返り
	3	(特)〇〇×テクノロジーの事例紹介と課題解決ワークショップ	本時の内容整理・振り返り
	4	(特)課題発表とチームビルディング (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	5	(特)デザイン思考ワークショップ	本時の内容整理・振り返り
	6	(特)チームで新サービスを考える① (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	7	(特)チームで新サービスを考える② (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	8	(特)中間プレゼンテーション	本時の内容整理・振り返り
	9	(特)プロトタイプを作るには (講義とワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	10	(特)フィールドワークを実践するには (講義とワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	11	(特)チームでサービスを創る① (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	12	(特)プレゼンテーションの基礎を学ぶ	本時の内容整理・振り返り
	13	(特)チームでサービスを創る② (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	14	(特)チームでサービスを創る③ (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
15	(対)チームでサービスを創る④ (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り	
16	(対)最終成果報告会		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはありませんが、スマートフォンやノートPC、タブレットなどを所有している人は持参してください。
-------	---

学びの手立て	インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。何か今の自分を変えたい、何か自分で作って世の中を良くしたい、と思っている方はぜひご参加ください。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。
--------	---

評価	最終成果報告のクオリティ(80%)と全講座を通じ受講時の言動など(20%)を評価します。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とします。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 創ることの楽しみに気づいた学生には、県内外で行われている勉強会やイベント情報を提供し、参加を促します。
-------	--

※ポリシーとの関連性 産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高めるために、経済社会における国の財政について学習します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 パブリックファイナンス	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前村 昌健	前期	木 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は、研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国の財政の役割は、市場を通じては供給不能か困難である公共財を供給すること、民間部門（家計、企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにあります。まず、国の財政の役割、しくみを学習し、次に所得税、消費税、法人税、公債といった歳入を取り上げます。その後、社会保障、公共事業といった歳出についてふれます。最後に国の借金といった財政の抱える問題を学習します。	メッセージ 経済は企業や家計のほかに、財政が関係しています。日本の財政のしくみや今後の課題を理解することが重要になってきています。
	到達目標 ①国の財政の基本的しくみが理解できる ②国の歳入の基本である税や国債、主要な歳出である社会保障、公共事業など歳出の内容を理解する ③国の借金の累増や社会保障など財政の抱える問題について理解できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 市場と公共部門の役割①	教科書①PP1-35を読む
	2	(特) 市場と公共部門の役割②	教科書①PP1-35を読む
	3	(特) 財政のしくみ①	教科書①PP1-35を読む
	4	(特) 財政のしくみ②	教科書①PP1-35を読む
	5	(特) 歳入と租税①（所得税）	教科書①PP73-86を読む
	6	(特) 歳入と租税②（消費税、法人税）	教科書①PP121-133を読む
	7	(特) 歳入と公債について	教科書①PP143-155を読む
	8	(特) 公共支出について①（公共事業）	教科書①PP53-68を読む
9	(特) 公共支出について②（社会保障）	教科書①PP53-68を読む	
10	(特) 財政赤字と財政の持続可能性①	教科書①PP143-155を読む	
11	(特) 財政赤字と財政の持続可能性②	教科書①PP143-155を読む	
12	(特) 社会保障と財政①（年金）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧	
13	(特) 社会保障と財政②（医療）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧	
14	(特) 情報化と公共部門の役割①	情報通信白書、該当部分閲覧	
15	(特) 情報化と公共部門の役割②	情報通信白書、該当部閲覧	
16	(特) 講義の総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書、参考文献については講義の初めの時間に説明します。 ①池宮城秀正編著『財政学』ミネルヴァ書房 ②林宜嗣著『財政学』、新世社、 ③図説『日本の財政』東洋経済		
	学びの手立て ①講義は特例授業で実施します。 ②経済原論Ⅰ、Ⅱで基本的な経済学の知識を理解しておくことが重要です。経済学の基本的知識を基に市場の働きを支える政府の役割、財政についての理解が深まります。 ③財務省HP、厚生労働省HPなどインターネット上にも有益な情報がありますので参考にして下さい。		
	評価 成績は、授業参加度30%、課題レポートの提出状況70%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 都道府県、市町村の財政を学ぶ「地域財政論Ⅰ」、「地域財政論Ⅱ」を受講すると、経済社会及び財政の理解がさらに深まります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	2年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスシーンに登場する様々なシチュエーションやトピックを通して英語の4 Skills (Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。国際的な職場で仕事をすることを想定したアクティビティやロールプレイを取り入れ、実践的な授業を行う。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。</p>	<p>【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、ビジネスに関連した実践的な英語を伝授し、現場で使えるように指導します。社会人になってから「ビジネス英語を受講して良かった!」と思ってもらえるような有意義な授業にしたいと思います。仕事で活かせる英語・異文化の知識を是非学んでください! 講師の雑談も好評です!</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や授業で学んだ英単語や表現の理解ができる。</li> <li>ビジネスシーンで基本的な英語を使い、意思疎通ができる。</li> <li>ビジネスシーンで想定される問題を自分なりに考え、行動し、解決できる。</li> <li>異文化に対する理解を深める。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション&ガイダンス Unit 1: First meetings	Unit 1復習、Unit 2予習
	2	Unit 2: You and your company	Unit 2復習、Unit 3予習
	3	Unit 3: Visiting a client	Unit 3復習、Unit 4予習
	4	Unit 4: Business activities	Unit 4復習、Unit 5予習
	5	Unit 5: Fixing an appointment	Unit 5復習、Unit 6予習
	6	Unit 6: Requests and offers	Unit 6復習、Unit 7予習
	7	Unit 7: Company and personal history	Unit 1-7復習
	8	Unit 1-7 Review &課題	Unit 8予習
	9	Unit 8: Making plans	Unit 8復習、Unit 9予習
	10	Unit 9: Opinions and preferences	Unit 9復習、Unit 10予習
	11	Unit 10: Directions and invitations	Unit 10復習、Unit 11予習
	12	Unit 11: Entertaining 課題提出	Unit 11復習、Unit 12予習
	13	Unit 12: Saying goodbye	Unit 8-12復習、TOEIC予習
	14	Unit 8-12 Review	Unit 1-12 復習、TOEIC予習
15	Introduction to TOEIC	TOEIC復習、Unit 1-12 復習	
16	Final Examination 期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Business Venture Student Book (with practice for the TOEIC Test) 緑の本です。(朝野書房やアマゾンなどで購入可) その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>【重要】受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>ほぼ毎回クイズ・小テストを行い学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection (25%) ②課題 (25%) ③クイズ・小テスト (25%) ④ 期末テスト (25%) を総合的に判断して評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日常生活に英語を取り入れる方法を自分なりに考え、工夫し、学習の継続に努めてほしい。自分の目的にあった共通英語の授業や他の英語関連の教科も積極的に受講すること。特に英語V-VI (英検) と英語VII (TOEIC) は、資格取得と同時にモチベーション向上にもなるので是非チャレンジしてほしい。英語のコミュニケーション力を更に高めるため3、4年次に「グローバルオフィスコミュニケーション」を受講することを勧める。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスエコノミクスⅠ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆現在、企業経営とグローバル化・IT化は不可分といえる状況にあります。そこでこの授業では、国内企業がどのような競争戦略をとっているか、また「情報」という新たな資源をどのように活用しているかについて理解してもらうことを目的とします。</p> <p>◆さらに授業で学んだ知識を活用して業界研究・企業分析を行ってもらい、就職活動で実際に使える知識を身につけてもらいます。</p>	<p>◆「業界」は複数の企業で構成されており、その中で競争は必然的に生じます。そのためこの授業では、企業間で競争が生じるしくみや、競争を回避するための手法について説明します。</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業はビデオ教材と課題による代替授業とし、質疑応答はSNSを用いて行います。</p>

到達目標
①ビジネスエコノミクスの定義と基礎的な理論を理解し、説明することができる（課題で評価）
②授業で学んだ知識を活かし、業界研究・企業分析を行うことができる（課題01、06、11で評価）

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 授業概要：ビジネスエコノミクスⅠ	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) これが「ビジネスエコノミクス」だ！	授業内容の復習をする
	3	(特) 業界研究と企業分析の方法	業界研究の方法を理解する
	4	(特) 経営戦略の経済学的分析	課題01を仕上げて提出する
	5	(特) 国境を超えて広がるビジネス	課題02を仕上げて提出する
	6	(特) 価格戦略と利益のしくみ	課題03を仕上げて提出する
	7	(特) 価格差別による価格競争の回避	課題04を仕上げて提出する
	8	(特) 巧みな価格戦略	課題05を仕上げて提出する
	9	(特) 非線形価格	課題06を仕上げて提出する
	10	(特) 流通における価格戦略	課題07を仕上げて提出する
	11	(特) エージェンシー理論	課題08を仕上げて提出する
	12	(特) 大規模小売店の台頭	課題09を仕上げて提出する
	13	(特) 流通構造と価格戦略の変化	課題10を仕上げて提出する
	14	(特) 強力な流通システムの盛衰	課題11を仕上げて提出する
15	(特) ダイエー・松下30年戦争（前編）	課題12を仕上げて提出する	
16			

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年2月</p> <p>②早稲田大学商学部ビジネス・エコノミクス研究会『入門ビジネス・エコノミクス』中央経済社、2006年5月</p>

学びの手立て
<p>◆この授業ではビデオ教材や配付資料による講義・指導を行い、その内容に関する課題の提出を課します。</p> <p>◆出欠は各回の提出課題（Webフォルダに提出）によって確認します。</p> <p>◆またテーマに沿った業界研究を行ってもらいます。なお業界研究のテーマは受講者の希望を考慮して差し替える場合があります。</p> <p>◆クラス全員の業界研究の通読、優れた業界研究の選出、その選出理由と得られた学びについての記述を求めます。</p>

評価
①課題63%（7%×9回）
②業界研究（課題01（11%）、06（11%）、11（15%））37%

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経済原論Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：ビジネスエコノミクスⅡ</p>



※ポリシーとの関連性 経済の諸課題に対する問題発見力・分析力を身につけ、将来起こりうる問題に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスエコノミクスⅡ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	オフィスアワーの時間帯にSNSソフト「Zoom」で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>◆この授業は業界研究と企業分析に取り組みながら、実際の企業が他社との競争を避けるために行っている戦略と、その帰結として生じる業界の成り立ちを理解することを目的とします。</p> <p>◆そのため授業で学んだ知識を活用して業界研究・企業分析を行ってもらい、就職活動で実際に使える知識を身につけてもらいます。</p>	<p>◆新型コロナウイルス感染防止のため、すべての授業は配付資料やパワーポイント等の視覚教材と課題を組み合わせた「特例授業」とし、質疑応答はSNSを用いたオフィスアワーで行います。</p>

到達目標
①ビジネスエコノミクスの定義と基礎的な理論を理解し、説明することができる（課題で評価）
②授業で学んだ知識を活かし、業界研究・企業分析を行うことができる（課題の「業界研究1～3」で評価）

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 受講ガイダンス/授業概要と受講ルール	ガイダンスの内容を再確認する
	2	(特) 業界研究の方法	課題01を仕上げ提出する
	3	(特) ダイエー・松下30年戦争（後編）	課題02を仕上げ提出する
	4	(特) ゲーム理論と企業の戦略	課題03を仕上げ提出する
	5	(特) 業界研究1「自動車産業の構造と主要企業の戦略」	課題04を仕上げ提出する
	6	(特) ゲーム理論を応用した戦略	課題05を仕上げ提出する
	7	(特) 戦略的ポジショニング	課題06を仕上げ提出する
	8	(特) デジタル化によるビジネスの転換	課題07を仕上げ提出する
	9	(特) 情報技術の進化と競争戦略の変化	課題08を仕上げ提出する
	10	(特) 業界研究2「ビール業界の構造と主要企業の戦略」	課題09を仕上げ提出する
	11	(特) 国境を越えるビジネス	課題10を仕上げ提出する
	12	(特) 通商摩擦と価格設定	課題11を仕上げ提出する
	13	(特) 多国籍企業の戦略	課題12を仕上げ提出する
	14	(特) 為替レートと利益	課題13を仕上げ提出する
15	(特) 業界研究3「ロボット産業の構造と主要企業の戦略」	課題14を仕上げ提出する	
16			

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年2月</p> <p>②丸山雅祥『経営の経済学 第3版』有斐閣、2017年2月</p>

学びの手立て
<p>◆特例授業の受講支援として大学が奨学金と貸出PCを提供しているため、個人のPCか貸出PCでの受講が前提です。スマートフォンやタブレットでの受講は禁じませんが、これらを使用した場合のトラブルに関する【救済措置はない】点に注意してください。</p> <p>◆出欠は確認しませんが、「欠席6回以上は単位を認定しない」という学部規定に則り、課題を6つ以上提出しなかった場合は単位を認定しません。</p> <p>◆提出課題では、授業内容に沿った業界研究も行ってもらいます。対象とする業界は受講者の希望に応じて差し替える場合があります。</p>

評価
①課題55% (5%×11回)
②業界研究45% (15%×3回)

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：ビジネスエコノミクスⅠ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：応用ミクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅰ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にインターネットなどから経済ビジネスに関わるデータを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	メッセージ 本講義は、パソコンを用いた演習形式で行います。不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。
	到達目標 ①表計算ソフトExcelによる視覚的なデータ処理の技法を身につける。 ②視覚的なデータ処理の結果を読み取る能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読むこと
	2	推移・比較分析	当日内容の復習
	3	順位・比較分析	当日内容の復習
	4	内訳・比較分析	当日内容の復習
	5	関係分析	当日内容の復習
	6	比較・関係分析	当日内容の復習
	7	階層分析	当日内容の復習
	8	集中度・格差分析	当日内容の復習
	9	中間復習	これまで学習した内容の総合復習
	10	原因の影響度分析	当日内容の復習
	11	売上傾向分析	当日内容の復習
	12	伸び率分析	当日内容の復習
	13	データの集計分析	当日内容の復習
	14	CS分析	当日内容の復習
15	総合復習	総合復習	
16	課題提出確認		
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。			
学びの手立て 疑問点や不明な点があったら、積極的に質問し、解決に努めてほしい。			
評価 平常点：40%、課題点：60%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス情報分析Ⅱ、専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義ではビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にはインターネット上からのビジネスおよび経済産業データの収集、表計算ソフトなどの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	①本科目は社会調査士資格の認定科目です。②第1回目は対面授業で、ガイダンスを行いますので全員必ず出席すること。③授業に関する不明点は積極的に質問し解決するように努めてほしい。④本授業の履修登録は「ビジネス情報分析Ⅰ」の単位取得済み者が望ましい。
到達目標	①統計分析の手法を把握する。授業は統計学やデータ分析の概説部分から始まり、定義・計算の方法や背景、理由を解説します。背景や理由を知ることによって分析手法が必要な理由や応用事例を知ることができる。 ②統計分析を実践する。ただ知識として把握するだけでなく、練習問題や課題を解くことで社会などの現場や卒業論文のデータ分析に応用できる能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 講義概要ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	(特) 既存統計資料の収集と読み方	当日内容の復習
	3	(特) 記述統計量 (平均)	当日内容の復習
	4	(特) 記述統計量 (分散、標準偏差)	当日内容の復習
	5	(特) 記述統計量 (変動係数)	当日内容の復習
	6	(特) 時系列データの分析指標 (指数化、成長率、寄与率)	当日内容の復習
	7	(特) 単純集計と度数分布	当日内容の復習
8	(特) クロス集計とクロス集計表	当日内容の復習	
9	(特) 散布度、散布図	当日内容の復習	
10	(特) 相関関係、疑似相関、因果関係の概念	当日内容の復習	
11	(特) 相関分析 (相関係数)	当日内容の復習	
12	(特) 相関分析 (相関比)	当日内容の復習	
13	(特) 相関分析 (連関係数)	当日内容の復習	
14	(対) 因果関係分析 (直線回帰)	当日内容の復習	
15	(対) 因果関係分析演習 (直線回帰)	復習とテスト準備	
16	(対) テスト	テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。 参考文献：菅民郎『らくらく図解統計分析教室』オーム社、渡辺美智子・神田智弘『実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析』秀和システムなど。		
学びの手立て	疑問点や不明な点があったら、積極的に質問し、解決に努めてほしい。		
評価	平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ビジネス情報分析Ⅰ、データ解析特論Ⅱ 上位科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、IT技術における基礎知識を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジュアル情報処理	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい CG技術に関する基礎的な理解と、プログラミングなどに知識を利用する技術を修得することを目指します。	メッセージ アニメーション、映像、ゲーム、VR、ARアプリなどのソフトウェア開発を行うために必要な知識です。
	到達目標 CG分野において簡単な開発や設計を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス・ビジュアル情報処理とデジタルカメラモデル
	2	デジタルカメラモデル（1）：座標系とモデリング
	3	デジタルカメラモデル（2）：デジタル画像と画像処理
	4	モデリング（1）：形状モデル
	5	モデリング（2）：ポリゴン曲面の表現
	6	レンダリング（1）：隠面消去・シェーディング
	7	レンダリング（2）：マッピング・大域照明計算
	8	アニメーション（1）：CGアニメーションの構成
	9	アニメーション（2）：リアルタイムアニメーションと実写映像
	10	画像の濃淡変換とフィルタリング処理
	11	画像の解析
	12	パターン・特徴の検出とパターン認識
	13	シーンの復元
	14	ビジュアル情報処理システム（1）：CGと画像処理の融合
15	ビジュアル情報処理システム（2）：入出力装置・記録形式	
16	期末試験	
	時間外学習の内容	
	次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など	
	テキスト：「ビジュアル情報処理 -CG・画像処理入門- [改訂新版]」画像情報教育振興協会（2017） 参考書：「コンピュータグラフィックス[改訂新版]」画像情報教育振興協会（2015） 「CGエンジニア検定エキスパート・ベーシック公式問題集 [改訂第三版]」画像情報教育振興協会（2018） 「ProcessingによるCGとメディアアート」講談社（2018）	
	学びの手立て	
	難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。	
	評価	
	試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(70%)、講義中の課題(30%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：3DCGアニメーション演習、ゲーム開発演習
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクス I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	メール(ikemiyagi@okiu.ac.jp), または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>次の内容の基本を理解してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 預金による貯蓄に必要な考え方</li> <li>2. 企業の投資プロジェクトに必要な考え方</li> <li>3. 株式による貯蓄に必要な考え方</li> </ol>	<p>ファイナンスの学習は「貯める・借りる」の計算から始まります。実生活に役立つファイナンスの計算を身につけて下さい。</p>
	到達目標	
	<p>株式による貯蓄のリスク・リターンを説明できる。</p> <p>株式による貯蓄の分散効果を説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読む
	2	現在価値と将来価値①	金額と利子率を変えた計算
	3	現在価値と将来価値②	第3回練習問題を解く
	4	NPVとIRR①	第4回練習問題を解く
	5	NPVとIRR②	第5回練習問題を解く
	6	投資収益率①	第6回練習問題を解く
	7	投資収益率②	第7回練習問題を解く
	8	学習内容の復習：確認テスト1	テスト結果を復習する
	9	期待収益率・分散・標準偏差①	公式の復習
	10	期待収益率・分散・標準偏差②	第9回との違いを確認する
	11	共分散・相関係数①	公式の復習
	12	共分散・相関係数②	第11回との違いを復習する
	13	分散効果①	分散効果の意味を復習する
14	分散効果②	第14回練習問題を解く	
15	学習内容の復習：確認テスト2	テスト結果を復習する	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>教科書は使用しない。プリントを配布して実習を進め、解説する。</p> <p>参考文献</p> <p>[1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。</p> <p>[2]内田浩史『金融』有斐閣、2016年。</p> <p>[3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。</p>		
	学びの手立て		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。</li> <li>2. 学びを深めるために：Excel計算とWord記述の学習内容をつなげること。Excel計算の手順、Word記述の内容を確認しなおすことで到達目標の達成を目指す。</li> <li>3. 受講生の達成度を測るために確認テストを2回行う。テスト結果を受講生に報告、解説する。</li> </ol>		
	評価		
	<p>期末テスト50%：到達目標の達成度を測る。</p> <p>確認テスト・課題30%：リスクとリターン、分散効果についてExcel計算できるかを測る。</p> <p>平常点20%：適切にExcelファイルを作成しているかを測る。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学習した内容を、「貯める・借りる」選択の問題解決に役立ててもらいたい。</p> <p>証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのもよい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 プログラミング理論	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 安里 肇	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい コンピュータ・ソフトウェアを中心とした情報処理の基本的な問題を扱う。具体的には、プログラミング言語の種類、流れ図の基本、基本アルゴリズムの理解、プログラミング言語Javaのコーディングの参考例などを取り上げて講義を進めていく。	メッセージ 本講義では、基本的な論理構成手法（基本アルゴリズム）を覚えること（英語の基本文法）を基本に、例題を基本アルゴリズムの組み合わせで構成し（簡単な英作文）、フローチャート（流れ図）の作成等を行う。ウェブ会議システムを使ったオンラインでの授業も行うのでパソコンを保持していないと受講は難しい。初回講義（オンライン）は必ず出席すること（無断欠席の場合は登録を取り消す）。
	到達目標 構造化プログラミングが理解できる。 簡単なプログラムのフローチャートが理解できる。 探索や整列など基本的なアルゴリズムが理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特) ガイダンス
	2	(対) アルゴリズム・フローチャート・構造化プログラミング
	3	(特) プログラミング言語の種類と分類
	4	(対) データ累計とカウンタ
	5	(特) java言語によるプログラム例
	6	(対) 基本データ構造 1次元配列
	7	(特) 基本データ構造 2次元配列
	8	(対) 前半まとめと確認問題
	9	(特) システムエンジニアの仕事とは？
	10	(対) スタック・キュー・リスト
	11	(特) サーチ（検索）アルゴリズム
	12	(対) ソート（並べ替え）アルゴリズム1
	13	(特) ソート（並べ替え）アルゴリズム2
	14	(対) その他の応用アルゴリズム 後半まとめと確認問題
	15	(特) 総括 講義のまとめ
16	(対) 試験	
		時間外学習の内容
		ウェブサイトからのダウンロード
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		問題確認と復習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／問題確認と復習
		講義全体の復習
		次のステップへの準備

テキスト・参考文献・資料など  
ウェブサイトにて講義時に使用する資料を配布（講義で使用する資料をPDF化し公開する）するため、初回の講義は必ず出席すること（無断欠席の場合は登録を取り消す）。参考文献は講義時に紹介する。  
基本テキスト：「ITワールド」インフォテック・サーブ

学びの手立て  

- ・プログラミングの基礎的科目である本講義の単位を取得できないと、他の情報系講義の取得が難しくなる。
- ・入学時の基本知識の個人差が大きくなる傾向があるため、欠席をするとついて行けなくなる者が多い。よって、本講義は皆出席を求める。
- ・課題（締め切り厳守）を提出しない者には試験を受けさせない。
- ・講義を受講するだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、予習復習を怠らず、疑問点はその都度、質問すること。

評価  
授業態度平常点80点、課題レポートおよび試験220点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。

学びの継続  
次のステージ・関連科目  
講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論  
演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットシミュレーション

※ポリシーとの関連性

本講義は、特にプログラミングにおいて、情報化が進展する時代に対応した解決策を提案できる技能の養成に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、手続き型プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。</li> <li>・統合開発環境を利用することができる。</li> <li>・画面出力・入力プログラムを実装することができる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装することができる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス・Javaをはじめよう	ガイダンスの理解・課題の実施
	2	(対) 画面時文字を表示しよう (1) Javaプログラムの作成と実行	教科書 pp. 1-23・課題の実施
	3	(対) 画面時文字を表示しよう (2) 画面への表示とストリーム	教科書 pp. 1-23・課題の完了
	4	(対) 変数を使おう (1) 型	教科書 pp. 25-49・課題の実施
	5	(対) 変数を使おう (2) 初期化と代入	教科書 pp. 25-49・課題の完了
	6	(対) プログラムの流れと分岐 (1) if文	教科書 pp. 51-91・課題の実施
	7	(対) プログラムの流れと分岐 (2) アルゴリズム	教科書 pp. 51-91・課題の完了
8	(対) プログラムの流れと繰り返し (1) do文	教科書 pp. 93-139・課題の実施	
9	(対) プログラムの流れと繰り返し (2) 多重ループ	教科書 pp. 93-139・課題の完了	
10	(対) 基本型と演算 (1) 基本型と参照型	教科書 pp. 141-175・課題の実施	
11	(対) 基本型と演算 (2) 演算と型	教科書 pp. 141-175・課題の完了	
12	(対) 配列 (1) 配列と多次元配列	教科書 pp. 177-219・課題の実施	
13	(対) 配列 (2) 配列の操作と拡張for文	教科書 pp. 177-219・課題の完了	
14	(対) メソッド (1) 配列を扱うメソッド	教科書 pp. 221-265・課題の実施	
15	(対) メソッド (2) 多重定義	教科書 pp. 221-265・課題の完了	
16	(対) 期末試験	試験勉強・採点後の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解Java 入門」ソフトバンククリエイティブ (2016)</li> <li>・「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018)</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ (2017)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014)</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。</li> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・課題(締め切り厳守)を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>		
評価	各課題 (30%)、各演習 (30%)、期末試験 (40%)		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングIIに臨む場合、2ヵ月の期間が空くので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めること。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指す。 プログラミング言語にはJavaを用いる。 Javaの文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようにすることを旨とする。	メッセージ 履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する基本的な知識を有し、簡単なプログラムが書ける。	

学びの準備	到達目標 Javaに関する基本的な知識を有し、簡単なプログラムが書ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション、画面に文字を表示しよう	次回講義の予習
	2	(対) 変数 (1) : 型・初期化	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	3	(対) 変数 (2) : キーボードからのデータ取得	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	4	(対) プログラムの流れの分岐 (1) : if文による条件分岐	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	5	(対) プログラムの流れの分岐 (2) : 論理演算子・条件演算子	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	6	(対) プログラムの流れの分岐 (3) : switch文による条件分岐	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	7	(対) プログラムの流れの繰り返し (1) : do文, while文による繰り返し	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	8	(対) プログラムの流れの繰り返し (2) : for文による繰り返し	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	9	(対) プログラムの流れの繰り返し (3) : 多重ループ・break文とcontinue文	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	10	(対) 基本形と演算	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	11	(対) 配列 (1) : 配列の基本	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	12	(対) 配列 (2) : 多次元配列	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	13	(対) メソッド (1) : メソッドの基本	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	14	(対) メソッド (2) : 配列を扱うメソッド	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	15	(対) メソッド (3) : メソッドの多重定義	当該講義の復習
16	(対) 期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田望洋「新・明解Java入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016) 「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018) 参考書籍：柴田 望洋, 由梨 かおる「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ (2017) アンク「プログラミングの絵本」翔泳社 (2016) アンク「Javaの絵本第3版」翔泳社 (2016) リンダ・リウカス「ルビオのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社 (2016)
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	--

学びの実践	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、演習課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：コンピュータ概論、プログラミング理論、ロボットシミュレーション 次のステージ：プログラミングII、データベース、ウェブプログラミング
-------	---



※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となり、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つ基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、基本的なプログラミング技術の習得を目指します。プログラミング言語としてJavaを採用していますが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮します。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは、その概要と仕組みを説明できる。</li> <li>・画面出力・入力プログラムを実装できる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装できる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装できる。</li> </ul>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を演習する。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プログラミング言語とJava</td><td>配布資料の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>変数における識別子と型</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>変数における宣言と利用</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>4</td><td>式と演算子</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>5</td><td>演算子の優先順位と型変換</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>6</td><td>関係演算子とif文</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>if-else文とswitch文</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>8</td><td>for文とwhile文</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>do-while文</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>10</td><td>配列</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>多次元配列</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>12</td><td>オブジェクト指向とクラスの基礎的理解</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>13</td><td>フィールドとメソッド</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>14</td><td>オブジェクトの作成</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>オブジェクトの利用</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	プログラミング言語とJava	配布資料の読み込みと理解	2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解	3	変数における宣言と利用	演習課題への真摯な取り組み	4	式と演算子	教科書の読み込みと理解	5	演算子の優先順位と型変換	演習課題への真摯な取り組み	6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解	7	if-else文とswitch文	演習課題への真摯な取り組み	8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解	9	do-while文	演習課題への真摯な取り組み	10	配列	教科書の読み込みと理解	11	多次元配列	演習課題への真摯な取り組み	12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解	13	フィールドとメソッド	演習課題への真摯な取り組み	14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解	15	オブジェクトの利用	演習課題への真摯な取り組み	16	期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	プログラミング言語とJava	配布資料の読み込みと理解																																																			
2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解																																																			
3	変数における宣言と利用	演習課題への真摯な取り組み																																																			
4	式と演算子	教科書の読み込みと理解																																																			
5	演算子の優先順位と型変換	演習課題への真摯な取り組み																																																			
6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解																																																			
7	if-else文とswitch文	演習課題への真摯な取り組み																																																			
8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解																																																			
9	do-while文	演習課題への真摯な取り組み																																																			
10	配列	教科書の読み込みと理解																																																			
11	多次元配列	演習課題への真摯な取り組み																																																			
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解																																																			
13	フィールドとメソッド	演習課題への真摯な取り組み																																																			
14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解																																																			
15	オブジェクトの利用	演習課題への真摯な取り組み																																																			
16	期末試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など																																																					
学びの手立て																																																					
評価																																																					

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空きますので、それまでは自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	1年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。	第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。課題作成等でPCが必要となる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは、その概要と仕組みを説明できる。</li> <li>・画面出力・入力の実装できる。</li> <li>・構造化プログラミングが理解できる。</li> <li>・簡単なプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装できる。</li> <li>・オブジェクト指向の基本が理解できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス プログラミング言語とJava 構造化プログラミングとは？	システム環境 コンパイルの手順
	2	(対) 変数における識別子と型	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	(対) 式と演算子	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	(対) if-else文とswitch文1	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	(対) if-else文とswitch文2	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	(対) for文とwhile文	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	(対) do-while文	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	(対) 配列	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	(対) ここまでのまとめと確認問題	問題の確認および復習
	10	(対) 多次元配列 1	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	(対) 多次元配列 2	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	(対) オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	(対) フィールドとメソッド	当該講義の復習/次回講義の予習
14	(対) オブジェクトの作成および利用	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	(対) 最終試験	問題の確認および復習	
16	(対) 総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	「明解Java 入門編」 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ 「ITワールド」 インフォテック・サーブクリエイティブ 参考文献は、講義時に紹介する。 なお、第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目で欠席をするとついて行けなくなるため、皆出席を求める。</li> <li>・課題（締め切り厳守）を提出しない者には試験の受験を認めない。</li> <li>・課題プログラミングは必ず、自ら作るように心がける。わからない場合には教員・友人に聞いて作成しても構わないが、他の者が作ったプログラムをそのまま提出した場合にはペナルティを課す。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、予習復習を怠らず、疑問点はその都度、質問すること。</li> </ul>		
	評価		
	授業態度平常点60点、課題レポートおよび試験240点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空くので、その間は自主的にプログラムの実装や復習を行い、次のステージであるプログラミングⅡを受講できるように準備すること。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、オブジェクト指向プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・クラス変数とクラスメソッドの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・パッケージの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・クラスの派生と多相性の仕組みを理解し、活用できる。</li> <li>・抽象クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・インタフェースの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス・プログラミングⅠの復習</td> <td>ガイダンスの理解・教科書の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子</td> <td>教科書 pp. 267-297・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数</td> <td>教科書 pp. 267-297・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）</td> <td>教科書 pp. 299-333・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド</td> <td>教科書 pp. 299-333・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）</td> <td>教科書 pp. 335-361・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子</td> <td>教科書 pp. 335-361・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）</td> <td>教科書 pp. 363-385・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>パッケージ（2）パッケージとアクセス制御</td> <td>教科書 pp. 363-385・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承</td> <td>教科書 pp. 387-423・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）</td> <td>教科書 pp. 387-423・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>抽象クラス（1）抽象メソッド</td> <td>教科書 pp. 425-451・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>抽象クラス（2）文書化コメント</td> <td>教科書 pp. 425-451・課題の完了</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>インタフェース</td> <td>教科書 pp. 453-469・課題の実施</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末試験</td> <td>試験勉強および復習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>総括</td> <td>課題・教科書の復習</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	ガイダンスの理解・教科書の復習	2	クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	教科書 pp. 267-297・課題の実施	3	クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数	教科書 pp. 267-297・課題の完了	4	日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）	教科書 pp. 299-333・課題の実施	5	日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド	教科書 pp. 299-333・課題の完了	6	クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）	教科書 pp. 335-361・課題の実施	7	クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子	教科書 pp. 335-361・課題の完了	8	パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）	教科書 pp. 363-385・課題の実施	9	パッケージ（2）パッケージとアクセス制御	教科書 pp. 363-385・課題の完了	10	クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承	教科書 pp. 387-423・課題の実施	11	クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）	教科書 pp. 387-423・課題の完了	12	抽象クラス（1）抽象メソッド	教科書 pp. 425-451・課題の実施	13	抽象クラス（2）文書化コメント	教科書 pp. 425-451・課題の完了	14	インタフェース	教科書 pp. 453-469・課題の実施	15	期末試験	試験勉強および復習	16	総括	課題・教科書の復習
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	ガイダンスの理解・教科書の復習																																																	
	2	クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	教科書 pp. 267-297・課題の実施																																																	
	3	クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数	教科書 pp. 267-297・課題の完了																																																	
	4	日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）	教科書 pp. 299-333・課題の実施																																																	
	5	日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド	教科書 pp. 299-333・課題の完了																																																	
	6	クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）	教科書 pp. 335-361・課題の実施																																																	
	7	クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子	教科書 pp. 335-361・課題の完了																																																	
	8	パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）	教科書 pp. 363-385・課題の実施																																																	
	9	パッケージ（2）パッケージとアクセス制御	教科書 pp. 363-385・課題の完了																																																	
	10	クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承	教科書 pp. 387-423・課題の実施																																																	
	11	クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）	教科書 pp. 387-423・課題の完了																																																	
	12	抽象クラス（1）抽象メソッド	教科書 pp. 425-451・課題の実施																																																	
	13	抽象クラス（2）文書化コメント	教科書 pp. 425-451・課題の完了																																																	
14	インタフェース	教科書 pp. 453-469・課題の実施																																																		
15	期末試験	試験勉強および復習																																																		
16	総括	課題・教科書の復習																																																		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解Java 入門」ソフトバンククリエイティブ（2016）</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ（2017）</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス（2014）</li> <li>・アंक「Javaの絵本 第3版」翔泳社（2016）</li> </ul>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1週目には出席しない場合には登録を取り消す。</li> <li>・指定した教科書の第1章から第7章までの内容は、前もって完全に理解しておくこと。</li> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>

評価
各課題（30%），各演習（30%），期末試験（40%）

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報コースに進むには、まずプログラミングⅡで十分に基礎を身に付けるべきである。但し、プログラミングⅡまではあくまで基礎でしかないため、今後は自身でプログラミングの学習を進める必要がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	メッセージ 第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。2年次を優先して登録する。プログラミングⅠを履修済みの者、もしくは、同等の知識を有している者のみが登録することができる。
	到達目標 ・簡単なプログラムが書ける。 ・オブジェクト指向についての基本的な事柄が理解できる。 ・クラスの仕組みを理解している。 ・オブジェクトとクラスの理解に基づいた実装ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 構造化プログラミングとオブジェクト指向	講義準備
	2	プログラミングⅠの復習1	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	プログラミングⅠの復習2	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	構造化プログラミングの確認問題	問題確認と復習
	5	クラスの基本(1) クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	クラスの基本(2) フィールドとインスタンス変数	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	日付クラスの作成(1) アクセッサ(ゲッターとセッター)	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	日付クラスの作成(2) 文字列化とtoStringメソッド	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	クラス変数とクラスメソッド(1) クラス変数(静的フィールド)	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	クラス変数とクラスメソッド(2) 静的初期化子とインスタンス初期化子	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	パッケージ	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	クラスの派生と多相性	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	抽象クラス	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	インタフェース	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	最終試験	問題確認と復習
	16	総括	次のステップへの準備
	テキスト・参考文献・資料など 「明解Java 入門編」 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ 「ITワールド」インフォテック・サーブクリエイティブ 参考文献は、講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目で欠席をすると行けなくなるため、皆出席を求める。 ・課題(締め切り厳守)を提出しない者には試験の受験を認めない。 ・課題プログラミングは必ず、自ら作るように心がける。わからない場合には教員・友人に聞いて作成しても構わないが、他の者が作ったプログラムをそのまま提出した場合にはペナルティを課す。 ・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、予習復習を怠らず、疑問点はその都度、質問すること。		
	評価 授業態度平常点60点、課題レポートおよび試験240点、合計300点の90%以上で秀、80%以上で優、70%以上で良、60%以上で可、60%未満が不可とする。なお、1/3以上欠席した者は試験を受けさせない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習においてプログラミングの基礎力を習得したことを前提とし、その展開として「ウェブプログラミング」、「情報処理システム演習」、「データベース」、「UIデザイン論」、「ビジュアル情報処理」の履修を推奨します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となり、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つ基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、 オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、プログラミングⅠにおいて、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指していく。よって原則として、プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学びながら、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングⅠの学習範囲を習得している。</li> <li>・オブジェクト指向についての基本的な事柄が理解できる。</li> <li>・オブジェクトとクラスの理解に基づいた実装ができる。</li> <li>・パッケージ、派生と多相性、抽象クラスを実装できる。</li> </ul>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を演習する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解と次回講義の予習
	2	構造化プログラミングの復習①	配布資料の読み込みと理解
	3	構造化プログラミングの復習②	配布資料の読み込みと理解
	4	オブジェクト指向の基本的理解	配布資料の読み込みと理解
	5	クラスの基本①	教科書の読み込みと理解
	6	クラスの基本②	教科書の読み込みと理解
	7	単純なクラスの実装	演習課題への真摯な取り組み
	8	クラス変数とクラスメソッド①-理解	教科書の読み込みと理解
	9	クラス変数とクラスメソッド②-実装	課題への真摯な取り組み
	10	パッケージ①-理解	教科書の読み込みと理解
	11	パッケージ②-実装	演習課題への真摯な取り組み
	12	クラスの派生と多相性①-理解	教科書の読み込みと理解
	13	クラスの派生と多相性②-実装	演習課題への真摯な取り組み
14	抽象クラス①-理解	教科書の読み込みと理解	
15	抽象クラス②-実装	演習課題への真摯な取り組み	
16	学期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016)</li> <li>・柴田 望洋ほか「新・解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2017)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014)</li> </ul> <p>また理解の手助けとなる資料を随時配布します。</p>		
	学びの手立て		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に「欠席届け」を提出してください。</li> <li>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</li> <li>③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。</li> <li>④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</li> <li>⑤ 演習に関する疑問は放置せず、演習中に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解決してください。</li> </ol>		
	評価		
	<p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10%)、課題レポート(20%)、タイピング(10%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。</p> <p>また毎回の演習内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習においてプログラミングの基礎力を習得したことを前提とし、その展開として「ウェブプログラミング」、「情報処理システム演習」、「データベース」、「UIデザイン論」、「ビジュアル情報処理」の履修を推奨します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	メッセージ プログラミングⅠを履修済みの者、もしくは、同等の知識を有している者のみが登録することができる。また、履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する一般的な知識を有し、小規模なプログラムが適切に書ける。オブジェクト指向についての一般的な概念を理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	次回講義の予習
	2	メソッド（１）：配列を扱うメソッド	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	メソッド（２）：多重定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	クラス（１）：クラスの基本定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	クラス（２）：日付クラスの作成	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	クラス（３）：クラス型のフィールド	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	クラス（４）：クラス変数	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	クラス（５）：クラスメソッド	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	クラス（６）：クラス初期化子とインスタンス初期化子	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	パッケージ	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	クラスの派生と多相性（１）：継承	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	クラスの派生と多相性（２）：多相性	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	抽象クラス（１）：抽象クラスの定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	抽象クラス（２）：抽象性をもつ非抽象性メソッドの設計	当該講義の復習／次回講義の予習
15	インタフェース・例外処理	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2016） 「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） 参考書籍：柴田望洋、由梨 かおる「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ（2017） アंक「プログラミングの絵本」翔泳社（2016） アंक「Javaの絵本第3版」翔泳社（2016） リンダ・リウカス「ルビオのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社（2016）		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、演習課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論、プログラミングⅠ、ウェブプログラミング、データベース、ロボットプログラミング
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲尾次 洋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 複式簿記は経理担当者、経営者、職業会計人等に必須の知識であり、情報化社会における素養とさえいえる。このような社会的要請に応えるため、本講義では、複式簿記の基本的知識と技能を修得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から精算表作成までの一連の流れを学習する。	メッセージ 簿記を習得するためには、多くの練習問題に取り組むことが大切です。毎回の授業内容の理解度を確認し、理解の定着を図るため、確認テストを実施するので前時の内容を復習することを心掛けてください。
	到達目標 株式会社を対象とした基本的な複式簿記を中心に学習し、とくに複式簿記のベースとなる勘定記入の法則および仕訳を完全に習得できることを目標とする。また、さらに簿記Ⅱを履修することによって、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示ができることを目標とする。簿記Ⅰ・Ⅱを段階的に履修することによって、日商簿記検定3級を取得することが最終目標である。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の目的・シラバス・登録）・簿記の意義	予習：シラバスの確認
	2	資産・負債・資本と貸借対照表	復習：貸借対照表の作成
	3	収益・費用と損益計算書	復習：損益計算書の作成
	4	取引と勘定記入	復習：勘定記入の法則
	5	取引と勘定記入	復習：取引の借方・貸方への分解
	6	仕訳	復習：取引の仕訳
	7	転記	復習：取引→仕訳→勘定記入
	8	試算表	復習：合計残高試算表の作成
9	6桁精算表	復習：6桁精算表の作成	
10	決算	復習：帳簿の締め切り	
11	現金預金	復習：現金過不足・当座預金の処理	
12	商品売買取引	復習：分記法による仕訳	
13	商品売買取引	復習：3分法による仕訳	
14	手形	復習：約束手形の処理	
15	その他の債権債務	復習：電子債権債務の処理	
16	期末テスト	復習：期末テストの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：伊藤龍峰他『基本簿記原理』中央経済社 700円＋税 クブック（3級商業簿記）』中央経済社 700円＋税 円＋税 参考文献：渡部裕巨他『検定簿記ワー 『過去問題集日商簿記3級』TAC出版 1,600円＋税		
	学びの手立て ①履修の心構え：電卓等の計算器具を持参すること。毎回の授業内容に関する疑問点は授業内または授業終了後に質問し解決することを心掛けること。②学びを深めるために、配布される練習問題を活用し、復習に努めること。		
	評価 確認テスト50%、期末テスト50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 上位科目：簿記Ⅱ (2) 簿記Ⅱを履修することによって、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示を習得し、日商簿記検定3級を取得を目指してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲尾次 洋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 複式簿記は経理担当者、経営者、職業会計人等に必須の知識であり、情報化社会における素養とさえいえる。このような社会的要請に応えるため、本講義では、複式簿記の基本的知識と技能を修得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から精算表作成までの一連の流れを学習する。	メッセージ 簿記を習得するためには、多くの練習問題に取り組むことが大切です。毎回の授業内容の理解度を確認し、理解の定着を図るため、確認テストを実施するので前時の内容を復習することを心掛けてください。
	到達目標 株式会社を対象とした基本的な複式簿記を中心に学習し、とくに複式簿記のベースとなる勘定記入の法則および仕訳を完全に習得できることを目標とする。また、さらに簿記Ⅱを履修することによって、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示ができることを目標とする。簿記Ⅰ・Ⅱを段階的に履修することによって、日商簿記検定3級を取得することが最終目標である。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の目的・シラバス・登録）・簿記の意義	予習：シラバスの確認
	2	資産・負債・資本と貸借対照表	復習：貸借対照表の作成
	3	収益・費用と損益計算書	復習：損益計算書の作成
	4	取引と勘定記入	復習：勘定記入の法則
	5	取引と勘定記入	復習：取引の借方・貸方への分解
	6	仕訳	復習：取引の仕訳
	7	転記	復習：取引→仕訳→勘定記入
	8	試算表	復習：合計残高試算表の作成
9	6桁精算表	復習：6桁精算表の作成	
10	決算	復習：帳簿の締め切り	
11	現金預金	復習：現金過不足・当座預金の処理	
12	商品売買取引	復習：分記法による仕訳	
13	商品売買取引	復習：3分法による仕訳	
14	手形	復習：約束手形の処理	
15	その他の債権債務	復習：電子債権債務の処理	
16	期末テスト	復習：期末テストの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：伊藤龍峰他『基本簿記原理』中央経済社 700円＋税 クブック（3級商業簿記）』中央経済社 700円＋税 円＋税 参考文献：渡部裕巨他『検定簿記ワー 『過去問題集日商簿記3級』TAC出版 1,600円＋税		
	学びの手立て ①履修の心構え：電卓等の計算器具を持参すること。毎回の授業内容に関する疑問点は授業内または授業終了後に質問し解決することを心掛けること。②学びを深めるために、配布される練習問題を活用し、復習に努めること。		
	評価 確認テスト50%、期末テスト50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 上位科目：簿記Ⅱ (2) 簿記Ⅱを履修することによって、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示を習得し、日商簿記検定3級を取得を目指してほしい。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲尾次 洋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	複式簿記は経理担当者、経営者、職業会計人等に必須の知識であり、情報化社会における素養とさえいえる。このような社会的要請に応えるため、本講義では、複式簿記の基本的知識と技能を修得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算整理、8桁精算表および財務諸表作成までの一連の流れを学習する。	簿記を習得するためには、多くの練習問題に取り組むことが大切です。毎回の授業内容の理解度を確認し、理解の定着を図るため、確認テストを実施するので前時の内容を復習することを心掛けてください。
到達目標	株式会社を対象とした基本的な複式簿記を中心に学習し、簿記Ⅰにおいて複式簿記のベースとなる勘定記入の法則および仕訳を習得した後に、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示ができることを目標とする。簿記Ⅰ・Ⅱを段階的に履修することによって、日商簿記検定3級を取得することが最終目標である。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の目的・シラバス・登録）	予習：シラバスの確認
	2	有価証券	復習：有価証券の取得・売却・評価
	3	貸倒引当金	復習：貸倒引当金の設定
	4	有形固定資産	復習：有形固定資産の取得・売却
	5	有形固定資産	復習：減価償却
	6	決算（現金過不足）	復習：現金過不足の処理
	7	決算（費用・収益の繰延）	復習：費用・収益の繰延処理
	8	決算（費用・収益の見越し）	復習：費用・収益の見越し処理
	9	決算（消耗品・貯蔵品）	復習：消耗品・貯蔵品の処理
	10	8桁精算表	復習：決算整理仕訳
	11	8桁精算表	復習：8桁精算表の作成
	12	8桁精算表	復習：8桁精算表の作成
	13	財務諸表	復習：損益計算書の作成
14	財務諸表	復習：貸借対照表の作成	
15	総合問題	復習：総合問題	
16	期末テスト	復習：期末テストの振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：伊藤龍峰他『基本簿記原理』中央経済社 2,500円（予定）＋税      参考文献：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック（3級商業簿記）』中央経済社 700円＋税      『過去問題集日商簿記3級』TAC出版 1,600円＋税		
学びの手立て	①履修の心構え：電卓等の計算器具を持参すること。毎回の授業内容に関する疑問点は授業内または授業終了後に質問し解決することを心掛けること。②学びを深めるために、配布される練習問題を活用し、復習に努めること。		
評価	確認テスト50%、期末テスト50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）上位科目：簿記理論・財務会計論・財務分析論Ⅱ（2）簿記の基本的知識と技能を身につけた上で、上位科目を履修することによって、簿記の理論的構造を理解したり、会計情報を組織の意思決定に活用できることを目指してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲尾次 洋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	複式簿記は経理担当者、経営者、職業会計人等に必須の知識であり、情報化社会における素養とさえいえる。このような社会的要請に応えるため、本講義では、複式簿記の基本的知識と技能を修得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算整理、8桁精算表および財務諸表作成までの一連の流れを学習する。	簿記を習得するためには、多くの練習問題に取り組むことが大切です。毎回の授業内容の理解度を確認し、理解の定着を図るため、確認テストを実施するので前時の内容を復習することを心掛けてください。
到達目標	株式会社を対象とした基本的な複式簿記を中心に学習し、簿記Ⅰにおいて複式簿記のベースとなる勘定記入の法則および仕訳を習得した後に、帳簿の締め切り、決算整理を経て、適正な利益計算および財政状態の表示ができることを目標とする。簿記Ⅰ・Ⅱを段階的に履修することによって、日商簿記検定3級を取得することが最終目標である。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の目的・シラバス・登録）	予習：シラバスの確認
	2	有価証券	復習：有価証券の取得・売却・評価
	3	貸倒引当金	復習：貸倒引当金の設定
	4	有形固定資産	復習：有形固定資産の取得・売却
	5	有形固定資産	復習：減価償却
	6	決算（現金過不足）	復習：現金過不足の処理
	7	決算（費用・収益の繰延）	復習：費用・収益の繰延処理
8	決算（費用・収益の見越し）	復習：費用・収益の見越し処理	
9	決算（消耗品・貯蔵品）	復習：消耗品・貯蔵品の処理	
10	8桁精算表	復習：決算整理仕訳	
11	8桁精算表	復習：8桁精算表の作成	
12	8桁精算表	復習：8桁精算表の作成	
13	財務諸表	復習：損益計算書の作成	
14	財務諸表	復習：貸借対照表の作成	
15	総合問題	復習：総合問題	
16	期末テスト	復習：期末テストの振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：伊藤龍峰他『基本簿記原理』中央経済社 2,500円（予定）＋税      参考文献：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック（3級商業簿記）』中央経済社 700円＋税      『過去問題集日商簿記3級』TAC出版 1,600円＋税		
学びの手立て	①履修の心構え：電卓等の計算器具を持参すること。毎回の授業内容に関する疑問点は授業内または授業終了後に質問し解決することを心掛けること。②学びを深めるために、配布される練習問題を活用し、復習に努めること。		
評価	確認テスト50%、期末テスト50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）上位科目：簿記理論・財務会計論・財務分析論Ⅱ（2）簿記の基本的知識と技能を身につけた上で、上位科目を履修することによって、簿記の理論的構造を理解したり、会計情報を組織の意思決定に活用できることを目指してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	3年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報とメディア、コミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し、その利用による効果を考える。情報の表現、つまり各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や、マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識、マルチメディアとインターネットを活用したビジネスについての説明も行う。</p>	<p>テキストだけでなく、実際にサービスが行われている画面やコンテンツ、CGアニメーションや特撮のメイキング紹介を用いる事で、視覚と聴覚の両方で情報を感じてもらえる講義を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツを構成する要素の成立ちと技術について理解する事で、サービスやコンテンツの提案ができるようになる。</li> <li>インターネットを活用したビジネスモデルの内容と動向を学ぶ事で、新しいプランの提案ができるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス マルチメディアとは	講義概要の確認
	2	コミュニケーションと情報	テキスト内容の事前確認
	3	インターネットとマルチメディア	同上
	4	マルチメディアの構成要素（1）音声情報	同上
	5	マルチメディアの構成要素（2）画像情報	同上
	6	マルチメディアの構成要素（3）映像情報	同上
	7	CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD	テキスト内容の事前確認、試験準備
	8	中間試験	復習
	9	CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト	テキスト内容の事前確認
	10	CG作成技術について（3）アニメーション	同上
	11	CG、特撮作品についての紹介、解説	特撮に関する作品鑑賞
	12	マルチメディアの発達をもたらす社会（1）	同上
	13	マルチメディアの発達をもたらす社会（2）	同上
14	マルチメディアの発達をもたらす社会（3）	同上	
15	最終試験	テキスト内容の事前確認、試験準備	
16	試験解答・総括		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル ～公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）～  <a href="https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html">https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html</a></p> <p>併せて、各講義の2日前までにpdfファイルを沖国大ポータルの授業共有フォルダにアップロードする</p>		
学びの手立て	<p>講義に使用するテキストは、各回のテーマに関連した参考となるコンテンツやwebサイトのURLを記載したPDFファイルを用いる。可能な学生はインターネットにアクセスできるノートPC、タブレットなどで随時内容が確認しながらの受講をお願いしたい。</p>		
評価	<p>中間試験45%、期末試験45%、授業態度平常点10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>普段から映画やゲーム、webコンテンツなどに積極的に、継続的に触れ、ハードやインフラの進化によりどのように表現が変わっていくのかを実感してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、UIデザインの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	UIデザイン概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、UI（ユーザーインターフェース）デザイン の概念と手法について理解し、その機能と役割について学ぶ。また、デザインの基礎となる色彩設計および心理的効果、管理手法等、情報の視覚化とデザインについて理解を深める。	メッセージ ユーザー視点に立ったデザインやユーザー体験について理解し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力を身につけてほしい。
	到達目標 ・ユーザーインターフェースデザインに関する基本的な概念と役割について理解する。 ・ユーザー視点に立った、デザインプロセスやユーザー体験について深く理解しデザイン手法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	(特) ユーザーインターフェースとデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	3	(特) デザイン概論	基本概念の理解および講義の復習
	4	(特) デザイン (1) 視覚と色彩	基本概念の理解および講義の復習
	5	(特) デザイン (2) 情報と図像、構成	基本概念の理解および講義の復習
	6	(特) デザイン (3) 社会とデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	7	(特) 情報アーキテクチャと構造	基本概念の理解および講義の復習
	8	(特) インターフェースデザインと心理 (1) 記憶、知覚、処理	基本概念の理解および講義の復習
9	(特) インターフェースデザインと心理 (2) 思考と選択	基本概念の理解および講義の復習	
10	(特) ユーザーと行動	基本概念の理解および講義の復習	
11	(特) ナビゲーションモデル	基本概念の理解および講義の復習	
12	(特) ユーザーインターフェースデザインとコンセプト	基本概念の理解および講義の復習	
13	(特) ユーザーインターフェースデザインとデザインプロセス	基本概念の理解および講義の復習	
14	(特) ユーザーインターフェースデザインの視覚化	基本概念の理解および講義の復習	
15	(特) ユーザーエクスペリエンス	基本概念の理解および講義の復習	
16	(特) 総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。 参考書：「誰のためのデザイン？」D. A. Norman著、野島久雄訳、新曜社、「人間中心設計」黒須正明著、近代科学社		
	学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。		
	評価 講義内で課題レポートの提出（80％）、平常点（20％）を総合的に評価する。 総合評価が90％以上を秀、80％以上を優、70％以上を良、60％以上を可、59％以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、ゲーム開発演習、コンテンツマネジメント論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ロボットシミュレーション	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>LEGO MINDSTORMSを用いた移動自律ロボットを題材として、チームによる課題解決に取り組む。</li> <li>センサからの外部入力に応じたロボットの制御に、メンバーとの協力を以て臨むことで、プログラミング能力・協調性・課題解決能力の向上を図る。</li> </ul>	<p>ロボットを構想の通りに制御するには多くの試行錯誤と創意工夫が必要になります。実行結果と粘り強く向き合い、チームのメンバーと知恵を出し合い、自ら積極的に行動することで、ロボット制御の基本および協働性・課題解決能力を身に付けましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで課題を共有し、協力して解決に臨むことができる。</li> <li>ロボットの構造・動作の仕組みが説明できる。</li> <li>自作のロボットを実装・稼働させることができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ロボットの基礎	課題の提出
	3	チームビルディング	チームの確立
	4	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (1)	ロボット・プログラムの製作
	5	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (2)	ロボット・プログラムの製作
	6	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (3)	ロボット・プログラムの製作
	7	プロジェクト1 走行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓
	8	プロジェクト2 ライントレース (1)	ロボット・プログラムの製作
	9	プロジェクト2 ライントレース (2)	ロボット・プログラムの製作
	10	プロジェクト2 ライントレース (3)	ロボット・プログラムの製作
	11	プロジェクト2 走行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓
	12	プロジェクト3 自由課題 (1)	ロボット・プログラムの製作
	13	プロジェクト3 自由課題 (2)	ロボット・プログラムの製作
14	プロジェクト3 自由課題 (3)	ロボット・プログラムの製作	
15	プロジェクト3 試行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓	
16	総括	課題の理解・提出	
テキスト・参考文献・資料など	講義にて指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1週目には出席しない場合には登録を取り消す。</li> <li>ある程度のシステム開発の知識、プログラミング技術が必要なため情報処理システム論、プログラミング理論、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。</li> <li>チームの和を貴ぶこと。</li> </ul>		
評価	課題 (10%) , 各プロジェクト成果(各30%, 合計90%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	センサと制御に関する技術は利用価値が高い。将来的に使う機会があれば、本講義で学んだことをもとに、更なる研鑽を望む。